



# 病院年報

## 2023 (令和5) 年度

公益財団法人 近江兄弟社  
ヴォーリス記念病院



## 院長挨拶

公益財団法人近江兄弟社  
ヴォーリズ記念病院  
院長 五月女 隆男

日頃より当院の事業に携わっていただいている皆さまに感謝いたしますとともに、2023年度の年報をお届けするにあたり、ご挨拶させていただきます。当院は地域包括ケアシステムの中で近江八幡・蒲生郡圏域、東近江圏域での病院間連携を推進し、急性期病院からの受け入れに重点をおいております。新型コロナウイルス感染症が下火となった現在、滋賀県下の各医療圏域におかれましてもコロナ後の診療体制の回復や今後不可避である災害医療の土台作りに目を向けておられることと思います。

医療経済面では2023年度より回復期リハビリテーション病棟の運動器リハビリ実施単位数に制限がかけられ、回復期病棟を運営する病院においては収入減となっております。また、本年6月の診療報酬改定におきましても専従医師加算が廃止されるなど痛手は計り知れません。医療ニーズに即した流動的な病院運営が必要とされております。

在宅医療の観点からは更なる訪問診療・往診の機能強化をはかっており、周辺の病院および診療所と連携した在宅医療を展開しております。この分野では緩和ケア科も同様であり、24時間体制で対応できる安心感を届けられております。

“自身が生まれた地で最期まで自分らしく生きられることのできる地域医療”を提供できるように病院職員の共通認識をアップデートしながら貢献したいと考えております。

最後にこの年報が皆様方の日常診療の一助になることを祈っております。

# 公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリス記念病院

## 基本理念

キリスト教の「隣人愛」と「奉仕」の業を、医療を通して実践します。

## 基本方針

1. ヴォーリス記念病院「患者憲章」及び「個人情報保護規程」を遵守し、患者さんの権利、意思を尊重する病院となる。
2. 一般急性期、回復期、慢性期から終末期まで幅広く対応できる体制を整え、患者さんが穏やかに「生を全うする」ことを支える医療・ケアを実践する病院となる。
3. 地域住民の疾病予防・健康増進のため、医療・保健・福祉活動の拠点として開かれた病院となる。
4. 地域の医療機関、介護施設および地域包括支援センターとの連携を深め、在宅医療・介護を推進し、患者さんの立場に立った医療・介護を提供する。また、在宅サービス部門との協働により、在宅看取りを可能にする病院となる。
5. 職員が大切にされ、夢・希望と意欲を持って、生き生きと働き続けることができる病院となる。

## 私たちのちかい

- 1 私たちは、患者さんのために最善をつくします。
- 2 私たちは、患者さんの誰にも笑顔で接します。
- 3 私たちは、患者さんの権利と意思を尊重します。
- 4 私たちは、患者さんが穏やかに生を全うすることを支えます。
- 5 私たちは、知識・技術の向上につとめます。

# 目 次

病院長挨拶

公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリス記念病院

基本理念・基本方針・私たちのちかい

1. 概要	ページ
沿革 .....	1-6
病院の概要・病院の紹介・関連施設.....	7
施設基準 .....	8
病院組織図 .....	9
事業報告 .....	10-17
2. 2023年（令和5年）度 主な行事・出来事 .....	18-20
3. 各部報告	
診療部 総括 .....	21-29
診療技術部 総括 .....	30-31
薬 剤 科 .....	32-33
放 射 線 科 .....	34
臨床検査科 .....	35
栄 養 科 .....	36-37
リハビリテーション技術科 .....	38-39
メディカルフィットネスセンター ヴォーリス .....	40-41
MEサービス室 .....	42

看護部 総括	43-44
一般病棟	45-46
回復期リハビリテーション病棟	47-49
医療療養病棟	50-51
緩和ケア病棟	52-54
地域看護科	55-56
事務部 総括	57-58
医事課	59-60
管理課	61-64
医療情報管理課	65
健診センター	66
地域療養支援部 総括	67-68
病診連携課	69-70
企画渉外課	71-72
医療安全管理室 総括	73-74
礼拝堂 総括	75
就労移行支援事業所ワークステーションヴォーリズ 総括	76-77
在宅サービス部門 総括	78
訪問看護ステーション ヴォーリズ	79-80
ホームヘルプステーション ヴォーリズ	81
ヴォーリズ居宅介護支援事業所	82
看護小規模多機能型居宅介護「友愛の家ヴォーリズ」	83-84

#### 4. 委員会報告

委員会組織図	85-86
給与・規約委員会	87
自衛消防隊	88
安全衛生委員会	89
栄養管理委員会	90
臨床検査適正化委員会	91
医療安全管理委員会	92-93
医療安全管理 リスクマネジメント部会	94
里教育委員会	95-96
褥瘡対策委員会	97-98
ボランティア委員会	99
院内感染防止対策委員会	100
診療情報管理委員会	101
病院機能評価委員会	102
個人情報保護対策委員会	103
ワークライフバランス委員会	104-105
I T情報管理委員会	106
認知症ケア推進委員会	107
質向上改善委員会	108
倫理委員会	109
入退院支援推進委員会	110
ハラスメント対策委員会	111
クリニカルパス委員会	112

6. 統計	113-114
-------	---------





# 概要





1918 (大正 7 年)	4 月	本館竣工
	5 月	近江療養院開院式挙行 (25)
	6 月	第 1 号患者入院 (10)
1919 (大正 8 年)	3 月	入院患者 15 名となる。
1920 (大正 9 年)	4 月から渡米していたヴォーリズ帰幡 土産として近江療養院へ、X 線撮影機一式とピアノ一台を持ち帰った。	
	10 月	入院患者 30 名となる。
1925 (大正 14 年)	8 月	病棟 9 棟、総病床数 50 床となる。
1928 (昭和 3 年)	5 月	調理室及び食堂新築着工
1929 (昭和 4 年)	4 月	米国より蒸気消毒機、クレセント自動食器洗滌機到着
	6 月	ボイラー据付。調理室及び食堂竣工。工費 36,000 円 (8)
1931 (昭和 6 年)	2 月	本館地階を研究室に改造
1932 (昭和 7 年)	6 月	人工気胸術開始
	8 月	横隔神経捻除術開 (阪大外科小沢凱夫教授来院)
1933 (昭和 8 年)	2 月	島津製作所製レントゲン装置桂号設置される。(17)
	8 月	看護師寄宿舍落成 (8)
1934 (大正 8 年)	9 月	浴室及び散髪室完成
1935 (昭和 10 年)	8 月	新生館竣工
1937 (昭和 12 年)	4 月	礼拝堂献堂式 (2)
1941 (昭和 16 年)	7 月	更生館竣工式 (総病床数 136 床)
1945 (昭和 20 年)	7 月	全院を陸軍に提供、全患者退院 (1)
1946 (昭和 21 年)	7 月	近江療養院を「近江サナトリウム」と改称
1947 (昭和 22 年)	4 月	再開院
		記念館竣工
1950 (昭和 25 年)	8 月	X 線断層撮影装束設置
	12 月	胸部成形術第 1 例行われる。(京大結研究所 長石忠三教授執刀) (6)
1951 (昭和 26 年)	1 月	肺切除術第 1 例行われる。(患者は現検査技師長 富永潤氏) (27)
	7 月	看護師寄宿舍増築
1955 (昭和 30 年)	12 月	ハイドリンク型全身麻酔器、アメリカより購入
1956 (昭和 31 年)	9 月	平和館竣工
1961 (昭和 36 年)	9 月	栄光館を取壊し、跡地に第二平和館着工
1962 (昭和 37 年)	4 月	第二平和館竣工 (24)
	8 月	日本レクリエーション協会から PEC 優良団体として表彰される。(1)
	10 月	衛生委員会が組織される (従業員数が 100 名を越す)。(3) 優良集団給食施設として表彰される。(31)

1963 (昭和 38 年)	7 月	防火用貯水池完成 (1) MP 型 (502) 全自動ボイラー火入れ式 (18) D K 型懸垂式脱水機設置
1964 (昭和 39 年)	7 月	ゼット式浄水装置設置、工費 170 万円 (4)
1965 (昭和 40 年)	3 月	自動現像装置設置 (1)
	9 月	職員厚生ハウス竣工、応募作品中より“交友クラブ”と命名 (16)
	11 月	新横型断層撮影装置設置 (1)
1966 (昭和 41 年)	3 月	新館起工式 (7)
	12 月	新館にて外来診療開始 (8)
1967 (昭和 42 年)	1 月	新手術場開き (京大長石忠三教授御来院、御執力) (11) 新館竣工式 (21)
	4 月	循環器科開設 (1)
	8 月	看護婦寄宿舍増築竣工 (7)
1971 (昭和 46 年)	5 月	ヴォーリズ記念病院と改称
1972 (昭和 47 年)	2 月	託児所開設 (4)
	6 月	開心術第 1 例行われる。(東京慈恵医科大学新井達太教授御執刀) (20)
	11 月	X 線 TV 装置設置
1974 (昭和 49 年)	10 月	更生館及び新生館に、酸素及び吸引のパイピングが設置
1977 (昭和 52 年)	11 月	更生館 2 階と記念館とを結ぶ渡り廊下完成 非常用自家発電装置設置
1979 (昭和 54 年)	8 月	滋賀県緊急医療情報システムに参加 (1)
	12 月	自動交換電話機導入
1980 (昭和 55 年)	6 月	新ボイラ設置 (炉筒煙管 KS ボイラ) (26)
1987 (昭和 62 年)	1 月	消化器科開設 (20)
	3 月	全身用 X 線 CT 導入
	5 月	心臓超音波診断装置導入
1991 (平成 3 年)	5 月	本館外来診察開始 (27)
	6 月	新基幹病棟 (現本館) 竣工 (12)
	10 月	別館改修工事完成 (1) 許可病床数 187 床 (一般 100 床、結核 87 床 (実働 41 床))
1992 (平成 4 年)	12 月	整形外科開設 (2)
1993 (平成 5 年)	3 月	新看護婦寄宿舍シオン寮竣工 (31)
	7 月	夜間診療開始 (毎週木曜日) (1)
	12 月	訪問看護ステーションはちまん開設 (13)
1994 (平成 6 年)	2 月	ターミナル委員会設置 (7)
	4 月	ヴォーリズ記念病院福堂診療所開設 (13)
	7 月	近江八幡市在宅介護支援センターヴォーリズ開設 (1)

旧看護婦寄宿舍解体撤去、跡地に職員駐車場設置

許可病床数 184 床(一般 100 床、結核 84 床)

1995 (平成 7 年)	5 月	温冷配膳車導入。適時適温給食を開始(16)
	6 月	第一回ヴォーリズ記念病院ターミナルケア講演会開催(25)
	7 月	介護車導入 第二平和館を重度障害者施設「中部通園くすのき」に土地建物無償貸与 「ヴォーリズ医療・保健・福祉の里」構想 5 ヶ年計画策定
1996 (平成 8 年)	5 月	新厨房棟竣工(10)
	11 月	更生館、新生館、希望館、旧本館、旧厨房・食堂棟の解体 撤去
1997 (平成 9 年)	3 月	新託児所竣工(28)
	4 月	リハビリテーション科開設(理学療法Ⅲ)(1) 訪問看護ステーションヴォーリズ開設(16)
1998 (平成 10 年)	2 月	政府管掌保険健康診断実施病院となる。
	3 月	老人保健施設ヴォーリズ老健センター開設(1) 病院裏山治山(落石防護)5 ヶ年事業開始
	5 月	ヘリカル CT 導入(10)
	6 月	消化器内視鏡センター開設
	8 月	ホームヘルプステーションヴォーリズ開設(1)
1999 (平成 11 年)	1 月	在宅保健福祉総合化モデル事業実施
2000 (平成 12 年)	4 月	ヴォーリズ居宅介護支援事業所開設(1) 訪問リハビリテーション開設(1) 療養病棟 60 床竣工開設(介護療養型医療施設 44 床、長期療養型病床群 16 床)(10) 結核病棟閉鎖(82 年間に亘る。) 許可病床数 160 床
	3 月	平和館、第二平和館解体撤去
	7 月	病院敷地を寄付し、ケアハウス信愛館建設開始(24)
2002 (平成 14 年)	3 月	社会福祉法人近江兄弟社地塩会ケアハウス信愛館竣工(28)
	7 月	10 年間休んでいたチャペルの日曜礼拝再開(7)
	8 月	訪問看護ステーションはちまん、ヘルプステーションヴォーリズ、ヴォーリズ居宅介護支援事業所が新館地下に移転。研修室を新館地下に新設(1)
2003 (平成 15 年)	2 月	患者憲章制定(1)
	3 月	MRI 検査開始(17)
	12 月	(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審し認定される。(15) ヴォーリズがんセミナー開始
2004 (平成 16 年)	6 月	毎週金曜日整形外科夜間診療開始(11)
2005 (平成 17 年)	1 月	すこやかフェスタ 2005(30)
2006 (平成 18 年)	1 月	緩和ケア病棟起工式(17)
	3 月	亜急性期入院医療管理料算定開始(10 床)(1)

	10月	地域連携室開設(1) 緩和ケア病棟開院・献堂式(2) メディカル・フィットネスセンター・ヴォーリズ開設(平和堂近江八幡店内) 許可病床数 176床
2007(平成19年)	9月	病院機能評価受審(5) いきいきサロン ヴォーリズ開設 障害者病床認可
2008(平成20年)	4月	介護療養病床16床を医療療養病床に変換。医療療養病床60床(1)
	5月	平成20年度栄養関係功労者知事表彰受賞 栄養科(26)
	9月	病院機能評価受審(15) 訪問看護ステーション(はちまん&ヴォーリズ)が合併し「訪問看護ステーションヴォーリズ」となる。
2009(平成21年)	1月	ウォーターハウス記念館竣工式(14)
	3月	放射線科PACS稼働(2) 福堂診療所閉所(31)
	4月	障害者病棟50床閉床(30)
	5月	療養病床42床運用開始(1) 許可病床数 168床
	8月	回復期リハビリテーション病棟開設(1)
2010(平成22年)	10月	病院機能評価付加機能(緩和ケア機能)受審、認定受ける。(26)
2011(平成23年)	2月	マルチスライスX線CT装置稼働
	4月	Dlco(肺拡散能力)検査が出来る総合肺機能測定装置採用
	8月	医事コンピューターの変更、自動再来器廃止
2012(平成24年)	2月	電子カルテ稼働(1)
	4月	睡眠時無呼吸症候群(SAS)の診断に役立つ簡易PSG検査導入 一般財団法人から公益財団法人に認定
2013(平成25年)	6月	新棟東館起工式(11)
	11月	第1回健康フェスティバル(10)
	12月	病院機能評価認定書受理(15) クラーク導入 メンタルヘルス、ワークライフバランス取組 システム室開設
2014(平成26年)	1月	退職金積立制度確定拠出年金制度開始
	3月	新棟東館竣工式(29)
	4月	リハビリテーションセンター新棟東館3階到新設(1)
	5月	DPCシステム導入(26)
	7月	びわこメディカルネット運用開始(1)
	10月	亜急性期病床廃止、地域包括ケア病床新設(1)

	11月	メディカル・フィットネスセンター・ヴォーリズ平和堂近江八幡店内閉鎖（ヴォーリズ老健センター内へ移設）
2015（平成27年）	10月	第2回健康フェスティバル(25) 障害児・者のリハビリテーション開始
2016（平成28年）	1月	医療療養病棟入院基本料1にランクアップ(1)
	10月	ホスピス10周年記念講演会(23)
	11月	看護小規模多機能型居宅介護「友愛の家ヴォーリズ」起工式(19)
2017（平成29年）	3月	回復期リハビリテーション病棟入院料1にランクアップ(1)
	5月	看護小規模多機能型居宅介護「友愛の家ヴォーリズ」開設(1)
	11月	ヴォーリズいのちのケア講演会(12)
	12月	電子カルテ、新システム「MIRAI」稼働(1) 外来に再来機導入(1)
2018（平成30年）	1月	在宅療養支援部開設(1)
	5月	開院100周年記念式典(27)
	9月	建築PJ委員会 発足(11)
	10月	病院機能評価付加機能（一般病院1・リハビリテーション機能・緩和ケア機能）受審、認定受ける。(30.31)
2019（令和元年）	3月	一般撮影装置（レントゲン撮影装置）をコニカ・ミノルタ社のFPD AeroDR fineに更新 骨密度測定装置にホロジック社（米国）のHrizonCi型X線骨密度測定装置を新規導入
	4月	地域療養支援部開設(1)
	5月	ヴォーリズいのちのケア講演会(19)
	9月	回復期リハビリテーション病棟60床、医療療養病棟42床に編成(1)
	12月	患者移送サービス開始(2)
2020（令和2年）	6月	PCR検査（ドライブスルー）開始(23) リモート面会開始(26)
2021（令和3年）	3月	新病院建築 起工式(13)
	5月	新型コロナワクチン個別接種開始
	7月	新型コロナワクチン職域接種開始
	11月	コロナ病床2床運用開始(1)
	12月	患者搬送車導入(10)
2022（令和4年）	1月	発熱外来開始
	4月	ツッカーハウス改修工事開始（10月末まで）(21)
	10月	新病院内覧会・竣工式(10)
	11月	病院新築移転・患者移送(1) 一般病棟（急性期病床32床→18床、地域包括ケア病床18床→32床）の編成 コロナ病床2床→4床に編成 64列マルチスライスCT、1.5テスラMRI、脳検査装置 導入
	12月	「ヴォーリズ記念病院 高齢者等宿泊療養施設」開設(13) 「PCR検査（ドライブスルー）」閉鎖(29)

---

2023（令和5年）

4月 旧ヴォーリス記念病院東館をメレル館に名称変更（1）

---

就労移行支援事業所「ワークステーションヴォーリス」開設（1）

「メディカルフィットネスセンター ヴォーリス」 メレル館3階へ移転（1）

65歳定年制開始（高齢者嘱託雇用70歳）

---

6月 旧病院（本館・別館・シオン寮）の解体工事開始（26）

---

9月 新病院南側 職員駐車場整備工事（11～12月末）

「ヴォーリス記念病院 高齢者等宿泊療養施設」閉鎖（30）

コロナ病床閉鎖（30）

---



## ■ 病院の概要

---

所在地 : 滋賀県近江八幡市円山町 927-1 (2022 年 11 月新築移転しました)  
開設者 : 公益財団法人近江兄弟社  
開設年月日 : 1918 年 5 月 25 日  
病院長 : 五月女 隆男  
病床数 : 168 床  
診療科目 : 総合診療科、内科、循環器内科、消化器内科、神経内科、呼吸器内科  
糖尿病内科、内分泌内科、呼吸器外科、脳神経外科、外科、整形外科、  
泌尿器科、緩和ケア科、リハビリテーション科、専門外来 (褥瘡)  
医師数 : (常勤) 10 人 (非常勤) 25 人  
一日平均外来患者数 : 92 人  
一日平均入院患者数 : 158 人

## ■ 病院の紹介

---

公益財団法人近江兄弟社は、創立者 W.M. ヴォーリズ(一柳米来留/ ひとつやなぎ めれる)のキリスト教の「隣人愛」と「奉仕」、の精神を基本理念として、近江八幡市北之庄の地に「ヴォーリズ医療・保健・福祉の里」を運営しています。ヴォーリズ記念病院を核として、一般病棟、回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟、医療療養型病床、老健センター、ケアハウス信愛館、その他各種の在宅介護サービス事業が有機的に連携し、高齢者へのシームレスなケアを総合的に提供しています。

また、在宅療養支援病院として地域医療を支えるため、医師、看護師、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士、薬剤師が訪問診療を行っています。入院から退院及び退院後まで、患者が切れ目無い医療・介護を受けられることを目的としています。地域の診療所の先生方とも連携し、地域包括ケアシステムの中心を担える病院を目指しています。

## ■ 関連施設

---

公益財団法人近江兄弟社 (ヴォーリズ記念館)  
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ老健センター  
社会福祉法人近江兄弟社地塩会 ケアハウス信愛館  
中北部地域包括支援センター (近江八幡市委託事業)

## ■ 施設基準

厚生労働省告示に基づく『厚生労働大臣の定める掲示事項』は、下記の通りです。

### 入院基本料に関する事項

- 1、当院は、一般病棟入院基本料（急性期一般入院料 6）を届け出ております。
- 2、当院は、療養病棟入院基本料 1（8 割以上）を届け出ております。
- 3、当院は、地域包括ケア入院医療管理料 1 を届け出ております。
- 4、当院は、緩和ケア病棟入院料 1 を届け出ております。
- 5、当院は、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 を届け出ております。

### 近畿厚生局長への届出に関する事項

当院では、次の施設基準に適合している旨の届出を行っています。

#### <基本診療料>

機能強化加算  
一般病棟入院基本料（急性期一般入院料 6）  
療養病棟入院基本料 1（8 割以上）  
回復期リハビリテーション病棟入院料 1  
地域包括ケア入院医療管理料 1  
緩和ケア病棟入院料 1  
診療録管理体制加算 2  
医師事務作業補助体制加算 1（25：1）  
急性期看護補助体制加算（25：1）  
（看護補助者 5 割以上）  
療養病棟療養環境加算 1  
栄養サポートチーム加算  
後発品医薬品使用体制加算 1  
感染対策向上加算 2  
病棟薬剤業務実施加算 1  
データ提出加算 1  
入退院支援加算 1  
認知症ケア加算 2  
医療安全対策加算 1  
せん妄ハイリスク患者ケア加算

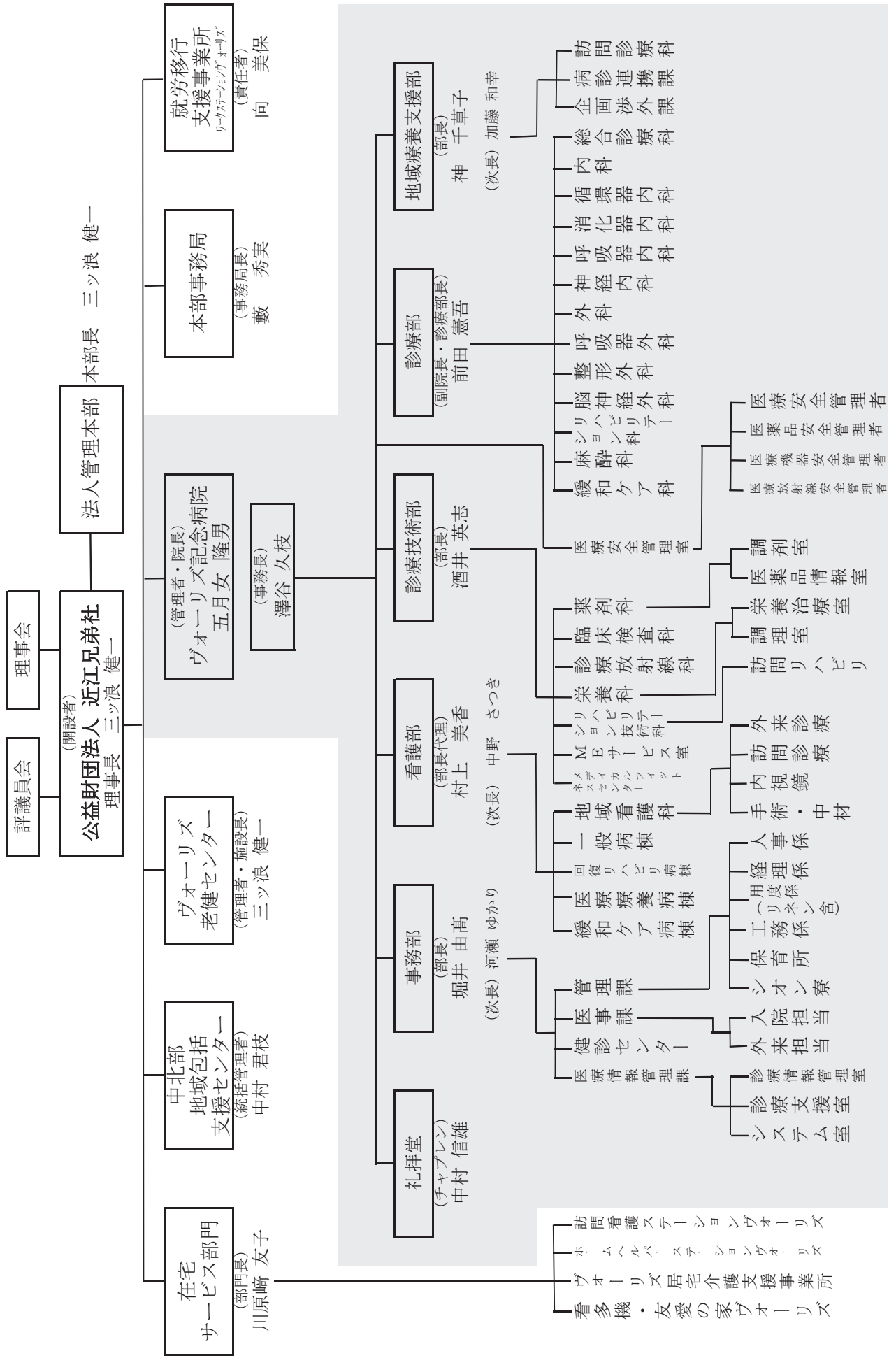
#### <特掲診療料>

がん性疼痛緩和指導管理料  
がん患者指導管理料イ・ロ  
がん治療連携指導料  
薬剤管理指導料  
検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料  
医療機器安全管理料 1  
在宅療養支援病院「第 14 の 2」の 1 の(1)  
在宅時医学総合管理料及び施設入居時等医学総合管理料  
在宅がん医療総合診療料  
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問  
看護・指導料の注 2  
検体検査管理加算（I）  
CT 撮影及び MRI 撮影  
脳血管疾患等リハビリテーション料（I）初期加算届出有  
運動器リハビリテーション料（I）初期加算届出有  
呼吸器リハビリテーション料（I）初期加算届出有  
がん患者リハビリテーション料  
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 16 に掲げる手術  
在宅患者訪問褥瘡管理指導料  
神経学的検査  
外来化学療法加算 2  
外来腫瘍化学療法診療料 2  
二次性骨折予防継続管理料 2

(2024. 3. 31)

# 公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院 (及び関連事業体)

2023年度組織図 (4月1日)



公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリーズ記念病院  
2023年度 事業報告

視点	テーマ	実績	評価・課題
財務の視点	健全な収益確保	<p>① 収支</p> <p>医業収入 2,641,215 千円(予算対比 △3,224 千円・前年対比△62,062 千 円)</p> <p>医業費用 2,881,897 千円(予算対比 △255,634 千円・前年対比 205,691 千円)</p> <p>減価償却 403,031 千円(予算対比 8,544 千円・前年対比 145,298 千円)</p> <p>医業収支 △240,682 千円(予算対比 252,410 千円・前年対比△267,753 千円)</p> <p>医業外収支 411,885 千円(予算対比 57,264 千円・前年対比 183,293 千 円)</p> <p>経常増減額 171,203 千円(予算対比 309,674 千円・前年度対比△84,460 千円)</p>	<p>病床稼働率</p> <p>一般 91.9% 地域包括ケア 97.8% (内感染病床 4 床・休床 4 床)9 月末まで。</p> <p>回リハ 98.9% (加算要件クリア)・療養 96.5%・ホスピス 80.1% (評価) 10 月から、コロナ病床が解除され、通常運営に向けた 病床稼働となり、目標稼働率は概ねキープできた。</p> <p>外来 開業医紹介 947 人(前年比 92 人増)。</p> <p>★コロナ関連収入</p> <p>安心・ケアステーション(~5 月 7 日終了) 宿泊療養借上金 計 4 月~9 月 240,139,800 円</p> <p>休床・空床補償 54,064 千円</p> <p>指導医・指導看護師等配置業務 36,632 千円</p> <p>10 月~2024 年 3 月 クラスターに関する補助金 5,867 千円。</p>

	<p>特別収益 50,887 千円</p> <p>特別費用 760,703 千円</p> <p>特別増減額 △709,816 千円</p> <p>当期剰余金△538,613 千円(予算対比 △400,142 千円・前年対比 △794,276 千円)</p> <p>② 地域包括ケア病床の適性運用</p> <p>③ <u>外来機能の充実</u></p> <p>④ <u>健診センターの機能・収益拡充</u></p> <p>⑤ キャッシュフローを重視する</p>	<p>本館解体時、什器備品売却益 1,100 千円</p> <p>退職給付引当金戻入 49,787 千円</p> <p>解体費用 212,878 千円</p> <p>固定資産除却損 547,825 千円 (簿価未償却分の経費計上)</p> <p>※ <u>退職給付引当金戻入及び固定資産除却損は、キャッシュの増減を伴わない会計処理。</u></p> <p>② 97.8%稼働で推移した(再掲)。</p> <p>③ 診療料の充実 (内分沁 ⇒ 週 4 日医師就任・泌尿器⇒週 1 回外来)。</p> <p>④ 健診機能を独立させ、健診センターとして再編。脳ドック開始</p> <p>実績 <u>68,233 千円・年間予算 65,037 千円 予算対比 104.9%</u></p> <p>但し、職員健診費 4,785 千円は、福利厚生費に戻している。</p> <p>⑤ 新病院建築費以前の借入金は 9 月末を以て全て完済。10 月より新築に関わる 3 行の約定返済を開始している。</p> <p>旧本館、別館の解体は終了。シオン寮は 2024 年 5 月終了予定。</p> <p>解体総費用 274,000 千円の内、212,878 千円支払済み。</p>	<p>人・モノ・金の一元管理</p> <p>就業規則・給与体系・人事制度の統一化については執行済み。</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------

		<p>① 人件費 1,667,607 千円(予算対比△60,205 千円)人件費率 55.7%</p> <p>② 昇給原資の確保 ⇒ 9 月昇給において、レンジテーブル・初任給の見直しを実施</p>	<p>(課題) 法人管理本部のスキームを確立させる。</p> <p>法人全体の機動的・流動的人材交流として、新事業（ワークステーション）職員に 3 名起用。</p> <p>昇給原資へシフトできるスキームの構築 14,000 千円を確保。</p> <p>60～65 歳の給与の見直しを実施(65 歳定年による)。</p> <p>時間外業務の圧縮 ⇒ 改善と鈍化している部署が明確となり、業務改善の促進と適材配置の工夫が引き続き課題である。</p>
顧客の視点	<p>コロナ感染病床と宿泊療養施設との有機的運用</p>	<p>① コロナ感染病床利用率 8・9 月 79%</p> <p>② 宿泊療養患者受け入れにより、感染病床入棟及びポストコロナ患者のバックアップができた</p> <p>9 月 30 日を以て終了</p>	<p>休床・空床補償 54,064 千円(再掲)。</p> <p>旧ホスピス・新館の有効活用で、地域住民に対し社会貢献ができた。</p> <p>指導医・指導看護師等配置業務に対し、36,632 千円(再掲)の契約料受領</p>
	<p>患者、地域の医療機関・介護事業者が利用しやすい環境づくり</p>	<p>① 地域への広報活動として、ホームページ活用及び広報誌の発行</p> <p>② 地域との関わりとして、モニター会の再開</p>	<p>広報誌ヴォーリズだよりを隔月に発行。ホームページは随時更新。出前講座 開催 19 件 参加者 541 名。</p> <p>7 月 22 日 ツッカーハウスのお披露目。老健・在宅のトピックスを紹介。意見交換会。3 月 9 日に、2 回目を実施。</p> <p>病院食を喫食して頂き、ニュークックチル調理方法の説明。ワークステーション・メデイカルフィットネス見学。</p>

	<p>ボランティア活動を再開</p> <p>SDGsの視点を重視した医療・ケアの実践</p> <p>全人的医療の提供</p>	<p>ボランティア活動の再開</p> <p>① 訪問診療の拡充維持</p> <p>② 地域連携の強化</p> <p>チーム医療の推進</p>	<p>ボランティアの集いを開催し、再開に向けて意見交換会を実施。 園芸活動を開始。下半期から正面玄関での見守りボランティア。</p> <p>在宅療養支援病院の役割を果たす。訪問診療 936 件、訪問看護師 2 名。</p> <p>11 月 30 日、地域医療連携会議(近江八幡市立総合医療センター主催)に 4 名参加。</p> <p>医療懇談会(当院主催)。褥瘡治療の最前線・診療・介護報酬改定の話題提供と意見交換会。外部 16 名＋当院 15 名参加。</p> <p>感染管理認定看護師の登用 1 名。</p> <p>倫理委員会が主導で、倫理研修を実施。12 月 15 日。</p> <p>全人的ケア講演会実施 2 月 7 日。</p>
<p>健康寿命の延伸(介護予防)</p>	<p>メデイカルフィットネスセンターの 改変</p> <p>※メレル館旧・リハセンターへ移 転</p> <p>5 月実施</p>	<p>パワーアップC事業の継続。メレル館に移転して、景色・空間が 拓け、明るく会話も増えた。</p> <p>新規会員獲得の為、月 2 回ペースで音楽に合わせたエクササイズ を計画したが環境が整わず来年度に繰り越しとした。</p> <p>ワークステーション利用者にも開放している。</p> <p>高齢化が進み、体調不良などで退会あり。子ども世代(50代)に無 料体験を 1 ヶ月提供。職員にも無料体験実施。</p>	<p>パワーステーション利用者にも開放している。</p> <p>高齢化が進み、体調不良などで退会あり。子ども世代(50代)に無 料体験を 1 ヶ月提供。職員にも無料体験実施。</p>
<p>医療安全・感染対策・危機 管理</p>	<p>それぞれの指針を検証し遵守した</p> <p>① 医療安全</p>	<p>それぞれの指針を検証し遵守した</p> <p>① 医療安全</p>	<p>事故防止の徹底、研修・推進カンファレンスの実施。</p>

<p>予期せぬ死亡事故 0 件。</p> <p>② 苦情相談 メデイエーターの活用により、苦情相談の早期介入が出来ている。</p> <p>③ 感染対策 感染症予防と対策・特にコロナ感染対策の指針をアナウンスして周知を継続している。</p> <p>④ 危機管理 <u>BCP（事業継続）計画 策定については、上期にたたき台を提示、下期に各部署の補足を加えて完成できた。</u></p>	<p>危機管理体制の構築と訓練の実施（コードブルー12月実施。法令準拠の年2回の防火訓練、11月8日及び3月19日実施）。</p>	<p>予期せぬ死亡事故 0 件。</p>
<p>① 医療機能の効率化 新病院に設えた画像診断機器・脳波検査の有効活用。外来動線の効率化により患者移動がスムーズに出来ている。</p> <p>② 福利厚生 の 充 実 職員食堂・休憩場所の活用。懇親会への補助。職員駐車場（232台収容）整備工事了了。</p> <p>③ 就労支援の維持 ハラメント対策・メンタルヘルス支援・WLBの推進、『しあわせを感じる職場づくり』プロジェクトの推進（各部署の好事例発信、若手職員との情報交換会実施）。</p> <p><u>兼業許可制の導入実施。</u></p>	<p>働きやすい職場環境</p>	<p>兼業許可制の導入実施。</p>



	働き方改革の推進	<p>① 65歳定年制実施（2023年4月～）</p> <p>② 人材確保の対策</p> <p>③ 労働安全衛生に配慮した労働環境を推進する</p>	<p><u>55歳を迎える職員に、必要人材になる為の能力開発研修の実施（エンプロイアビリティ＝雇用されうる能力）。</u></p> <p>来年度に向けて、外国人介護職の面接を施行。<u>4名のフィリピン人技能実習生採用を決定。配置は病院2名、老健2名（2024年6月）。</u></p> <p><u>11月から、職員紹介制度を導入した。</u></p> <p>障がい者就労移行支援事業と連携し、就労訓練に協力する。</p> <p>長時間労働の是正・有給休暇の取得推進（年間5日以上の取得）。</p>
業務プロセスの視点	医療・看護・介護のサービスの質の向上	<p>① BSCの活用</p> <p>② 病院機能評価受審推進プロジェクト</p>	<p>各部署が戦略達成に活用し、年2回発表会を実施。</p> <p><u>2024年4月更新時に備えて、自己評価再チェックと規定マニュアル類の整備を実施。院内サーベイ・ヒヤリング、指導者登用。</u></p>
	ICTの構築	ICTの運用強化を実施	<p><u>電子カルテ更新（2024年11月期限）に向けて、各業者選定に入った。デモンストレーション⇒11月から開始。2社候補。</u></p> <p>里全体のネットワーク再構築完了。<u>GSの活用（GS＝グループセッションの意味で、掲示板・メール等を情報共有できるツール）。</u></p>
	法人管理本部の機能強化	収益事業の確立	<p>財務のスキームと人員配置の構築。当面、管理本部主導で病院跡地（希望館・メレル館の利活用）の事業提案を推進していく。</p>

<p>学習と成長 の視点</p>	<p>法令遵守体制の徹底  ガバナンス体制の構築</p>	<p>① 診療介護報酬管理体制の推進  ② 就業規則及び個人情報保護法等 の周知徹底を実施</p>	<p>次期改定の研究と戦略を立て、セミナー参加。院内説明会実施。  公益通報制度の深化 ⇒ 翌年4月のコンプライアンス委員会立ち 上げの準備。  個人情報保護マニュアルの改定実施 ⇒ 3月完成。</p>
<p>クオリティマネージャーの 機能的活用</p>	<p>① 1名退職に伴い、次期1名資格 を取得  ② メンター制度の推進を実施</p>	<p>全職員対象の研修会及びリーダー別管理職研修の実施。  人材育成と教育支援を目的に、継続的に支援している。  (課題)定着率の確保。</p>	<p>全職員対象の研修会及びリーダー別管理職研修の実施。  人材育成と教育支援を目的に、継続的に支援している。  (課題)定着率の確保。</p>
<p>職員の自己成長の支援</p>	<p>① 全体研修会の実施・学会出張な ど、研修機会の拡充ができてい る  ② 後継者育成</p>	<p>専門職としての職能意識の向上と人材育成の為に、学会発表・研 究参加を促している(学会発表2名・研究1名)。  各種プロジェクトチームへの参画(ヴォーリズメモリアルヴィレ ッジ構想・働き方改革検討・ICT・ワークライフバランス等)。</p>	<p>専門職としての職能意識の向上と人材育成の為に、学会発表・研 究参加を促している(学会発表2名・研究1名)。  各種プロジェクトチームへの参画(ヴォーリズメモリアルヴィレ ッジ構想・働き方改革検討・ICT・ワークライフバランス等)。</p>
<p>診療部の教育体制構築</p>	<p>① 若手医師の雇用を促進  ② 研修協力病院として初期臨床研 修医の受け入れを実施</p>	<p>当院の将来を担う医師養成を積極的にを行い、今年度は1名採用。  5名の受け入れ。下期は3名。</p>	<p>当院の将来を担う医師養成を積極的にを行い、今年度は1名採用。  5名の受け入れ。下期は3名。</p>

2024年5月31日 運営委員会承認

2024年6月10日 理事会承認予定

2024年6月25日 評議員会承認予定

## ヴォーリス記念病院 主要財務データ (3期分)

### ◆ 貸借対照表 ◆

(単位：千円)

	2022 / 3期	2023 / 3期	2024 / 3期
資産の部 合計	4,008,388	6,672,111	5,917,021
流動資産	902,179	1,110,135	1,134,930
有形固定資産	3,012,917	5,451,480	4,653,116
無形固定資産	7,172	11,236	17,995
その他の資産	86,121	99,260	110,980
負債の部 合計	2,272,812	4,823,345	4,675,081
流動負債	523,926	573,290	595,537
固定負債	1,748,886	4,250,055	4,079,544
資本の部 合計	1,735,576	1,848,766	1,241,940
国庫補助金等	304,140	448,140	448,140
出資金	92,842	92,842	92,842
当期未処分剰余金	1,338,594	1,467,970	929,357
(うち当期剰余金)	309,834	255,663	△ 538,613

### ◆ 損益計算書 ◆

	2022 / 3期	2023 / 3期	2024 / 3期
医業損益			
医業収益	2,663,152	2,703,277	2,641,215
医業費用	2,403,599	2,676,206	2,881,897
(内、減価償却費)	111,771	257,733	403,031
医業増減額	259,553	27,071	△ 240,682
医業外損益			
医業外収益	99,859	289,699	485,836
医業外費用	51,179	61,107	73,951
医業外増減額	48,681	228,592	411,885
経常増減額	308,234	255,663	171,203
特別損益			
特別収益	0	0	50,887
特別費用	0	0	760,703
当期剰余金	309,834	255,663	△ 538,613



# 2023 年度 主な行事・出来事



## 2023（令和5）年度 主な行事 出来事

### 4月

- 1日 65歳定年制開始（高齢者嘱託雇用70歳）  
就労移行支援事業所「ワークステーションヴォーリズ」開設  
「マイナ保険証」を利用した「オンライン資格確認システム」の運用開始  
自己啓発セミナー（新入職者対象）  
勤怠管理システム「TimePro-VG」導入  
ハラスメント対策委員会による2023年度ハラスメント相談窓口の設置
- 3日 入職式・就任式 新年度礼拝（新入職者21名、前年中途入職者27名）  
新入職員オリエンテーション
- 4日 新入職員オリエンテーション
- 5,6日 看護部職員研修（新入職者対象）
- 18日 近畿厚生局の適時調査

### 5月

- 8日 W.M. ヴォーリズ召天記念礼拝（恒春園）
- 12日 看護の日イベント
- 13日 恒春園納骨式礼拝（恒春園）／恒春園記念式礼拝（学園平和礼拝堂）
- 14日 ヴォーリズ建築「ツッカーハウス（旧近江療養院）」再生オープンセレモニー
- 19日 一般及び入院中患者様対象「令和5年春開始新型コロナワクチン予防接種」開始
- 24日 愛の献血（老健センター1F研修室）
- 25日 第105回 開院記念式・永年勤続表彰

### 6月

- 1日 「耳マーク」設置
- 2日 近江兄弟社中学校「花の日礼拝」にて、病院へお花の贈り物
- 19. 22. 24. 28. 30日 医療従事者への「令和5年春開始新型コロナワクチン予防接種」
- 22日 旧病院（本館・別館・シオン寮）の解体工事 近隣住民説明会（チャペル）
- 23日 旧病院への御礼・労いと、工事安全祈願のお祈り
- 26日 旧病院（本館・別館・シオン寮）の解体工事開始

### 7月

- 3日 職員への情報周知手段として、GS掲示板「病院全体掲示板」の運用開始
- 1. 7. 21日 医療従事者への「令和5年春開始新型コロナワクチン予防接種」
- 14日 里クリーン大作戦【環境美化推進運動】

8月

- 1日 「しあわせを感じる職場づくりプロジェクト」開始
- 19日 医療療養病棟 夏祭り
21. 22. 24. 25日 「友愛の家ヴォーリズ」夏祭り
- 22日 緩和ケア病棟 夏祭り
- 23日 近江八幡市立総合医療センター医療従事者対象研修開催「終末期医療における連携について」  
「地域におけるヴォーリズ記念病院の役割に関して 院長 五月女 隆男  
「緩和ケアチームカンファレンスと緩和ケアへの移行について」  
緩和ケア認定看護師 谷川 弘子  
「緩和ケア外来の取り組みと在宅療養支援について」 ホスピス長 奥野 貴史
- 25日 回復期リハビリテーション病棟 夏祭り

9月

- 1～30日 安全衛生委員会主催「2023年度 ストレスチェック」実施
- 11～12月末 新病院南側 職員駐車場整備工事
- 26日 「友愛の家ヴォーリズ」避難・救出・消火器取扱訓練
- 22日 東近江保健所 立入検査
- 30日 「ヴォーリズ記念病院 高齢者等宿泊療養施設」閉鎖  
コロナ病床閉鎖 (30)

10月

- 1日 滋賀県病院協会ソフトボール大会 (今津総合運動公園)
- 18日 第28回初期消火競技会 (近江八幡消防署管内)  
屋内消火栓操法の部に出場 6位/15チーム

11月

- 1日～12/31 WLB推進委員会主催「2023年度 職員やりがい度調査」アンケート実施
- 1日 職員紹介制度導入
- 13日～25日 質改善委員会主催【外来患者対象】患者満足度調査
- 8日 2023年度第1回 避難・救出・消火器取扱訓練
- 9日 「しあわせを感じる職場づくりプロジェクト」職員との情報交換会開催
- 20日 愛の献血 (老健センター1F研修室)  
2023年度各部門事業計画中間報告会 (科・課長職以上)
- 21, 22, 24, 25日 職員インフルエンザワクチン接種

12月

- 1日～25日 質改善委員会主催【入院患者対象】患者満足度調査
- 22日 2023年 近江兄弟社クリスマス (ヴォーリズ平和礼拝堂)



28日 仕事納め 院内巡視

令和6年1月

4日 仕事始め

医事課支払窓口の時間変更

(変更前) 8:30～17:00 → (変更後) 8:30～16:30

29日～31日 次期電子カルテ 展示会形式デモ ベンダー: WorkVision

2月

1日 「近江兄弟社創立119年 記念の夕べ」(グリーンホテル Yes 近江八幡)

2日 「近江兄弟社 第119回 創立年記念式」(日本基督教団 近江八幡教会)

13日～15日 次期電子カルテ 展示会形式デモ ベンダー: ソフトウェアサービス

28日 フィリピン技能実習生受入れ研修会 1回目

講師: 事業協同組合 PIA ネットワーク 理事 高橋 正道氏

3月

5日 2024年度 各部門事業計画発表会

19日 2023年度 第2回目消火・避難訓練

13日 フィリピン技能実習生受入れ研修会 2回目

講師: 事業協同組合 PIA ネットワーク 理事 高橋 正道氏

21日 医療懇談会

22日 リブレセンサー(グルコースモニタリング)の説明会

2月から導入したリブレセンサーという糖尿病患者向けの新しい血糖測定器の業者による説明会

26日 2024年度 各部署事業計画発表会

27日 能登半島地震 災害支援活動報告会



# 各部報告



## 診療部

### ◆消化器内科

#### 【スタッフ】

常勤医師：1名

五月女 隆男

日本内科学会総合内科専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医

日本救急医学会救急科専門医、日本集中治療医学会専門医

非常勤医師：7名（内視鏡担当）

#### 【診療体制】

外来診療日：火曜日、土曜日（五月女）

上部消化管内視鏡検査：全日

下部消化管内視鏡検査：火曜日

#### 【診療内容】

消化器内科では消化器疾患を幅広く診療させていただいております。上部消化管内視鏡検査は随時予約可能で、個人検診・企業検診も受け付けております。ヘリコバクター・ピロリの除菌療法もご相談ください。早期胃がん発見のため、定期的な内視鏡検査をプラン立てて施行しております。胃食道逆流症や機能性ディスペプシアなどの症状優位な疾患の治療も行っております。

上部消化管内視鏡検査では被験者の希望により経鼻内視鏡検査、経口内視鏡検査の選択が可能です。さらに鎮静下内視鏡検査（ミダゾラムによる点滴鎮静）の希望もお受けしております。

検診等での便潜血陽性者の全大腸内視鏡検査も行っております。火曜日の消化器内科受診のうちお申し込みください。もちろん鎮静下での内視鏡検査も可能です。

大腸ポリープは基本的に一泊二日の入院でのポリープ切除としておりますが、ライフスタイルに合わせてCSP等、外来での処置が可能である場合もありますのでご相談ください。

肝硬変などの良性慢性疾患の治療や昨今増加がみられているNASH（非アルコール性脂肪性肝炎）・NAFLD（非アルコール性脂肪性肝疾患）の生活スタイル改善に向けたご相談はもとより、B型肝炎やC型肝炎の経口抗ウイルス療法も施行しております。ベッドサイドエコーでの短時間での診断も可能であり患者さまからは好評をいただいております。肝がん、膵癌等の悪性腫瘍につきましては、当院外科の奥川郁医師および滋賀医科大学肝胆膵外科の前平医師（当院木曜日外来担当）等にコンサルトの上、転院しての外科手術療法や保存的療法をおこなっております。悪性腫瘍術後のクリニカルパスにも対応しておりますので、都度ご相談ください。

#### 【2023年度内視鏡検査実績数】

上部消化管内視鏡検査数：1,227 件

全大腸内視鏡検査数（うちポリープ切除件数）：152 件（71 件）

# 診 療 部 総 括

## ◆循環器内科・総合診療科

### 【スタッフ】

常勤医師 : 2名 日本循環器学会専門医  
日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医  
非常勤医師 : 3名 日本循環器学会専門医

### 【診療体制】

外来診療日 : 月曜日 (三ッ浪健一)、水曜日 (山根哲信)、木曜日 (馬淵 博)  
金曜日 (三ッ浪健一)、土曜日 (山根哲信)

### 【診療内容】

年 度	2019	2020	2021	2022	2023
外来受診患者数 (延べ)	4,274	4,971	5,094	5,240	5,240
新規外来受診患者数	188	248	243	549	432
1病棟新規入院患者数 (再入院含む)	177	172	121	115	62
3病棟新規入院患者数 (再入院含む)	51	43	46	48	44

外来診療においては、高血圧、脂質異常症、慢性心不全、弁膜症、心房細動をはじめとする不整脈、下肢静脈血栓症などの診療を行っています。また、発熱外来の分担にも参加したため、外来受診患者数には発熱外来として診療した患者さんも含まれます。心筋梗塞、狭心症、心房細動、弁膜症などで手術、カテーテルの必要な症例に関しては他院に紹介し、対応しています。

入院診療においては主に心不全ステージCおよびDの患者様を対象に診療しております。近年、心不全に対する薬物治療として、ACE阻害薬/ARB/ARNI、 $\beta$ ブロッカー、MRA、SGLT2阻害薬の4剤を使用することが推奨されていますが、当院で診療している患者様の年齢層として80歳代後半以上の方も多く、現実的には多くの症例で、4剤を全て導入する、ということはありません。ACE阻害薬/ARB、 $\beta$ ブロッカー、スピロラク톤はこれまでも多くの患者様に使用してきた実績がありますが、新しいお薬であるARNI、SGLT2阻害薬を超高齢の心不全患者様にどのように使用していくか、症例に合わせて使用の可否を検討しております。副作用の問題、薬価の問題、ポリファーマシーの問題と心不全治療効果とのバランスを考えながら使用しており、今後の課題と考えております。

この他、入院診療では、尿路感染症、肺炎を始めとする感染症からの敗血症の診療などを行いました。また、医療療養病棟では、心不全に限らず、長期に療養が必要となる症例の診療にも従事しております。

## ◆糖尿病内科

### 【スタッフ】

常勤医師：1名 伊藤 哲郎

### 【診療体制】

外来診療日：水曜日・土曜日

入院：随時

### 【診療内容】

主に1型・2型糖尿病、脂質異常症、高血圧症、甲状腺機能低下症、高尿酸血症などの代謝内分泌疾患及び生活習慣病に対して外来診療を行うとともに、総合診療医・家庭医として臓器別の領域に拠らない多様な相談・疾患への対応、予防・健康増進に向けた介入、啓発活動を随時行っております。

インスリン製剤の自己注射利用中の患者様に対しては血糖測定方法の簡易化とコントロール改善を目的として本年度2月より間歇スキャン式持続血糖測定器(商品名：FreeStyleリブレ)の導入を順次進めています。

## ◆呼吸器内科・呼吸器外科

### 【スタッフ】

常勤医師：1名

非常勤医師：2名

### 【診療体制】

外来診療日：月曜日・水曜日・木曜日・土曜日

入院：約 10 床

### 【診療内容】

現在、手術は行っておりませんが、外来では毎月200～340症例の患者を診察しています。

主な診療疾患は、気管支喘息（ACOSを含む）[15%]、COPD[16%]、急性気管支炎/上気道炎[13%]、睡眠時無呼吸症候群[8%]、抗酸菌感染症（NTM・結核）[5%]、間質性肺炎[2%]などです。これらの呼吸器疾患以外にも、花粉症に対する免疫療法[2%]や褥瘡治療[2%]も行っております。

今日の肺癌の医療は、気管支鏡検査やCT下生検などによる組織採取に加え、次世代シーケンサーを用いた遺伝子変異検査を行う必要となりますが、当院には、超音波気管支鏡ガイド下生検やガイドシース併用気管支鏡内超音波断層法のような装置もないため、肺癌の精査・加療は他院に依頼することがほとんどとなるため、気管支鏡検査は8例のみで、肺癌に対する化学療法も行っておりません。

呼吸器外科であるものの、日本褥瘡学会 認定褥瘡医師がいることから、褥瘡に対する治療は、入院・外来診療だけでなく、訪問診療でも行っています。

## ◆外科

### 【スタッフ】

非常勤医師：1名

### 【診療体制】

外来診療日：木曜日

### 【診療内容】

消化器疾患を中心とした外科診療、及び外傷や皮膚腫瘍（アテローム）などの切除を行っております。患者様のニーズを考慮・相談し、手術必要症例は滋賀医科大学医学部附属病院、近江八幡市立総合医療センター、滋賀県立総合病院、東近江総合医療センターなどと密に連携をとりながら診療を行っております。

## ◆整形外科

### 【スタッフ】

非常勤医師：1名

### 【診療体制】

外来診療日：木曜日

### 【診療内容】

主に慢性期の患者さんに対応。診断（MRI撮影装置1.5T）及びリハビリテーションに力をいれております（外科での入院になります）。

## ◆リハビリテーション科

### 【スタッフ】

常勤医師：3名

蓑内 孝一郎

日本脳神経外科専門医

平田 知大

日本リハビリテーション学会専門医、指導医、臨床認定医、ICD

日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会運動機リハビリテーション医

穂山 勝久

日本リハビリテーション学会認定臨床医、日本内科学会認定内科医

非常勤医師：2名

### 【診療体制】

外来リハビリテーション診療日：月曜日（平田）、水曜日（平田）、金曜日（平田）、

近江八幡市立総合医療センター整形外科診療：火曜日

病棟定期カンファレンス：金曜日



# 診 療 部 総 括

## 【診療内容】

急性期の治療を終えられた後、脳血管障害や脊髄疾患に伴う、運動機能、言語機能、摂食嚥下機能、高次機能などの障害、整形外科疾患に伴う運動機能などの障害、または外科手術や肺炎などに伴う廃用症候群に伴う運動機能などの障害にて、いずれも継続したリハビリテーションが必要な方に対して、当院回復期リハビリテーション病棟では、集中的なリハビリテーションを実施することで、身体能力の改善だけでなく、その方の日常生活動作などを改善し、QOLの向上を目指しています。

理学療法、作業療法、言語療法を主体とし、病棟での生活そのものをリハビリテーションに変えることで、多職種でチーム医療を実践しています。

また早期の在宅復帰など、それぞれの方も目標を具体的に設定し、目標達成のため、ソーシャルワーカーや周辺機関とも協力し支援を行っています。

## 【2023年度実績】

入院数 262人 退院数 286人 平均年齢 男性 76.8歳 女性 82.9歳

病棟稼働率 98.9% 在宅復帰率 86.7% 平均在院日数 72.1日

重症者率 44.1% 重症患者改善率 51.4%

## ◆脳神経外科

### 【スタッフ】

常勤医師 : 2名

深見 方博

藁内 孝一郎

### 【診療体制】

外来診療日 : 火曜日

### 【診療内容】

入院中の患者さんに対し、脳卒中などの脳に関わる病気を診療の対象にしています。神経学的検査、画像診断（CT、MRI）を行い、適切な診療に結び付けていきます。

また、対象疾患による後遺症に対するリハビリ管理も行います。

## ◆神経内科

### 【スタッフ】

常勤医2名

亀山 勝久 1997年京都府立医大卒 日本内科学会認定医

前田 憲吾 1988年滋賀医大卒 日本内科学会認定医・指導医

(副院長) 日本神経学会専門医・指導医

日本神経心理学会評議員

日本高次脳機能障害学会評議員

日本ミトコンドリア学会評議員

# 診 療 部 総 括

## 【診療体制】

外来診療日：月・火・金曜日（前田）、金曜日（穂山）

外来は基本的には予約が原則であるが、予約のない場合も情報提供書のない場合も診療に応じている。昨年と同様、新型コロナの流行に伴い、コロナワクチン接種業務（院内・院外）・発熱外来・PCR検査にも貢献した。

## 【診療内容】

2023年度退院患者総数	162人
1日平均入院患者数	27人
1日平均外来受診者数	17.2人
2023年度外来紹介患者総数	87人
2023年度訪問患者数（前田）	13人/月
2023年度訪問延件数（前田）	166回/年

脳卒中慢性期・神経難病（パーキンソン病およびその関連疾患、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、重症筋無力症、視神経脊髄炎、多発性硬化症、ミトコンドリア病、筋ジストロフィー、遺伝性末梢神経障害、慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー、自己免疫性筋炎、脊髄空洞症、HTLV-1関連脊髄症など）・てんかん・認知症疾患（アルツハイマー型認知症・レヴィ小体型認知症・前頭側頭葉型認知症など）など、中枢および末梢神経疾患を幅広く診療した。神経疾患だけでなく、肺炎や圧迫骨折症例についても入院を受け入れた。通院困難な症例は、毎週火曜日午後に前田が担当する訪問診療へ変更した。認知症ケア推進委員会として、各病棟の認知症困難事例症例検討に参加し、認知症ケア加算2を算定している。

エムガルティ（片頭痛治療薬）、ボトックス治療（片側顔面痙攣・眼瞼攣縮）や大量ガンマグロブリン点滴療法（慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー）、エンスプリング皮下注（視神経脊髄炎）も継続している。

脳波検査を現在、月・水・金の午後1時から1枠を予約枠として設定しており、予約枠は概ね実施につながっている。入院患者などでは必要に応じて検査枠を拡張して実施している。表面筋電図についても実施可能となった。CT・MRIは緊急症例については随時可能である。

院内で実施できない検査（筋電図・神経伝導検査・R I検査）は、近江八幡市立総合医療センターや東近江総合医療センターに依頼している。遺伝子診断については、特に鹿児島大学脳神経内科に依頼することが多い。神経生検・筋生検・剖検症例はなかった。

脳血管障害や神経難病により嚥下機能が障害された症例には当院にて胃瘻やCVポート造設を実施した。当院での気管切開・人工呼吸器導入症例はなかった。

臨床治験0件、市販後調査1件（エンスプリング）。特定使用成績調査1件（エフピー）。

## 【共同研究】

トリアルレディコホート構築に向けた近位筋優位遺伝性運動感覚ニューロパチー（HMSN-P）のレジストリ研究（京都大学iPS細胞研究所）

## 【総説】

- 1) 前田憲吾：インフルエンザワクチン接種と急性散在性脳脊髄炎 脳神経内科 98 (2)： 255-259, 2023.

## 【論文】

- 1) Matsui N, Tanaka K, Ishida M, Yamamoto Y, Matsubara Y, Saika R, Iizuka T, Nakamura K, Kuriyama N, Matsui M, Arisawa K, Nakamura Y, Kaji R, Kuwabara S, Izumi Y. Prevalence, clinical profiles, and prognosis of stiff-person syndrome in a Japanese nationwide survey. *Neurol Neuroimmunol Neuroinflamm* 10; e200165, 2023. Doi: 10.1212/NXI.0000000000200165 (as a coinvestigator)
- 2) Yamashita S, Takahashi Y, Hashimoto J, Murakami A, Nakamura R, Katsuno M, Izumi R, Suzuki N, Warita H, Aoki M, the Japan MSP Study Group. Nationwide survey of patients with multisystem proteinopathy in Japan. *Ann Clin Transl Neurol* 2024 Jan 29, Doi: 10.1002/acn3.52011 (as a member of the group)

## 【社会貢献】

- 1) 難病拠点病院（神経疾患）指定
- 2) 滋賀県社会保険支払基金審査員（前田）

## ◆緩和ケア科

### 【スタッフ】

常勤医師：1名

奥野 貴史

日本緩和医療学会 認定医、認定研修施設指導医師

日本内科学会総合内科専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、

日本血液学会専門医、日本感染症学会感染制御医師（ICD）

非常勤医師：1名

細井 順

### 【診療体制】

外来診療日：火曜日、木曜日（細井）、金曜日（奥野）

訪問診療日：水曜日、土曜日（奥野）

### 【診療内容】

ホスピス・緩和ケアとは、生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者とその家族のQOL（quality of life:生活の質）を、痛みやその他の身体的・心理社会的・スピリチュアルな問題を早期に見出し的確に評価を行い対応することで、苦痛を予防し和らげることを通して向上させるアプローチのことです。言い換えるなら「からだのつらさ」「こころのつらさ」「たましいのつらさ」を和らげる全人的なケアです。

# 診 療 部 総 括

それらを提供するホスピス・緩和ケア病棟は、その人がその人らしく最期まで尊厳をもって人生を全うできるよう、そして家族が安心して共に過ごせるようサポートします。

それはホスピス病棟のなかに留まりません。自宅でホスピスケアを受けられるようサポートもしており、当ホスピスはそのための登録制度を設けています。一度、入退院をした時点で登録となります。退院後は、外来診療はもちろんのこと、訪問診療・往診にも応じますし、緊急入院、レスパイト入院にも対応します。地域の訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、入浴サービスなど、在宅療養を担う沢山のスタッフの方々と協力して、すみなれた自宅で、可能な限りの時間を家族、知人、友人と過ごしたい、という切な願いにお応えしています。

2023年度はのべ294名の方がホスピスを入退院されました。102名の方が一度入院した上で登録制度を利用して在宅療養をされ、そのうち21名の方はそのままご自宅で人生を全うされました。

新病院となって病棟は明るくなりました。温かなおもてなしを提供しようとスタッフ一同、奮闘しています。

## ◆訪問診療

### 【スタッフ】

- ① 訪問診療担当医師 6名：三ッ浪 健一理事長、五月女 隆男院長、前田 憲吾副院長、深見 方博医師、奥野 貴史医師（緩和ケア）、伊藤 哲郎医師
- ② 地域療養支援部看護師 2名：宮崎 むつみ、谷口 章代（2024/1/16より）
- ③ 地域療養支援部：企画渉外課：木村 吉宏、永福 喜美江 病診連携課：澁谷 直子

### 【診療体制】

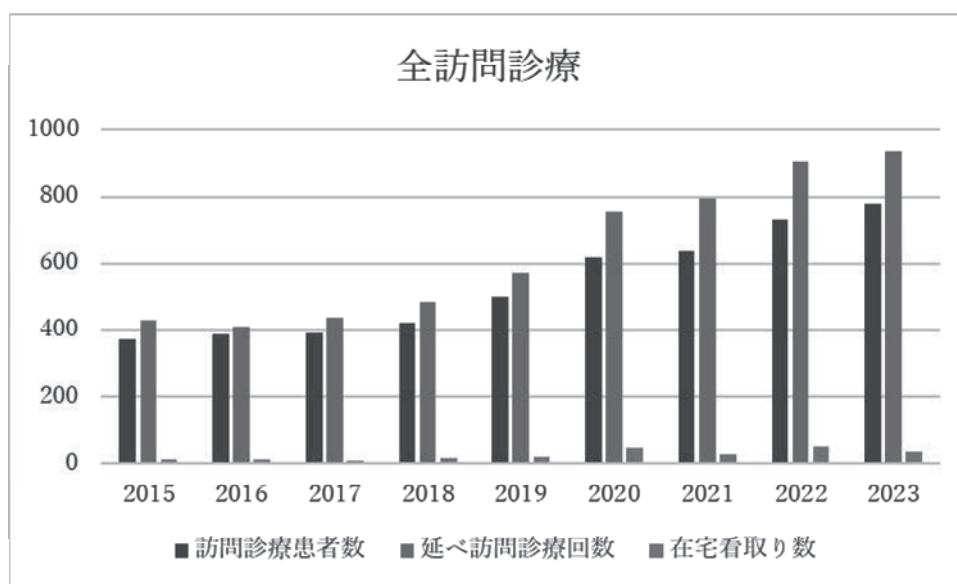
毎週 月曜日	伊藤医師	木曜日	三ッ浪医師
火曜日	前田医師	金曜日	五月女医師
水曜日	奥野医師（午前）	深見医師（午後）	土曜日 奥野医師

### 【診療内容】

当院の訪問診療は2014年9月から開始し10年目になります。2019年10月からは医師・外来看護師・管理栄養士・薬剤師がチームで褥瘡訪問を開始しました。回復期リハビリテーション病棟退院後、地域包括支援センターからの紹介、がん末期患者の訪問診療など、多岐にわたる患者の訪問診療を実施しております。必要に応じて、緊急時には入院もできる在宅療養支援病院として地域医療の一端を担っております。

年々依頼が増えております。下図のように訪問診療患者数は2022年度の月平均61.0名から2023年度は月平均64.9名、延べ訪問診療回数は2022年度の月平均75.3回から2023年度は月平均78.0回と、いずれも増加傾向です。在宅看取り数は2022年度50名、2023年度34名でした。

# 診療部総括



訪問診療の地域も近江八幡市だけではなく東近江市（能登川、蒲生など）でも対応可能な距離であれば対応しており、また年末年始や5月の連休、お盆などで開業医の先生方が休まれる期間中には看取りの代行も行っております。

2024年3月16日に梅田スカイビルで開催された日本内科学会第243回近畿地方会で、「新型コロナウイルス感染症蔓延前後における訪問診療在宅看取り率の比較」を口頭発表しました。2015年4月から2023年10月までの診療情報を調査して、訪問診療患者数、訪問診療回数、在宅看取り数、当院での死亡数、他施設での死亡数を集計し、これらを、新型コロナウイルス感染症蔓延前の2015年4月から2020年3月までと、蔓延後を含む2020年4月から2023年10月までに分けて比較したところ、新型コロナウイルス感染症蔓延前後で1年平均の訪問診療患者数は448.0人から711.9人に増加し、訪問診療回数は514.7回から874.1回に増加しました。また、新型コロナウイルス感染症蔓延前は在宅看取りが52%、当院での死亡が41%、他施設での死亡が7%でしたが、新型コロナウイルス感染症蔓延後には在宅看取りが58%、当院での死亡が35%、他施設での死亡が7%でした。当院では新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い訪問診療患者数が増加するとともに在宅看取り数、在宅看取り割合ともに増加し、自宅での療養を希望する傾向が認められました。

重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けていただくようとする地域包括ケアの中で訪問診療が果たす役割は甚大であり、訪問看護との連携により365日・24時間体制での対応を、今後とも可能な限り拡大していきたいと考えています。

# 診 療 技 術 部 総 括

## 【2023年度行動目標】

- 病院の基本理念、職業倫理に基づき、時代に対応した医療・介護・福祉の提供体制を充実させる。
- 東近江圏域、特に近江八幡市を中心とした地域の医療・介護・福祉のハブ病院として機能し、診療技術部はこの機能のひとつとして地域に貢献する。
- 『財務の視点』と『サービスの質』が常にバランス良く維持され、偏りを感じた際には速やかに修正できる人材のあつまりとする。
- 自然災害、感染症、医療事故における危機対応を強化する。

## 【2023年度活動計画】

### I. 顧客の視点

1. 公益財団法人の病院として、地域との関わり協働を深める。講師派遣、委託事業、各職種の職能を生かして関わる。
2. サービスの質を意識し、専門職として知識・技術を持ち、能力を発揮する。
3. 医療機器、医薬品の安全管理を徹底し、医療事故を防止する。
4. 患者の立場に立った分かりやすいインフォームドコンセントを実施する。
5. 年次有給休暇取得を推進する

### II. 財務の視点

1. 経営参画意識を高め、各科各人が目標数字を定め、到達できるよう毎月努力する。
2. 新規購入した検査機器の運用を考え、検査件数を増加させる。
3. 健診センターの機能拡充に協力する。
4. 地域における当院の機能・役割を活かし、外来患者数・病床稼働率を増加させる。
5. 各種委員会・会議等の運営のあり方を積極的に見直し、各科の生産性を高める。
6. 2022年度BSCの視点のなかで、何が達成され、何が課題として残ったのか分析する。
7. 長時間労働を是正する。

### III. 業務プロセスの視点

1. 患者ニーズや役割を確認し、当院の強みを強化する。
2. 部門内、里内の事業体、他機関との連携を強化する。
3. 就労移行支援事業所（新規事業）の施設外実習施設として協力する。
4. SNSを活用し、情報発信やアンケートを実施する。
5. 医療・介護・福祉サービスの質の向上に努める。
6. BSC利活用し、共有する数値を明確化し、行動を起こす。
7. 臨床評価に関する指標（クリニカルインディケータ）の整備やベンチマークなどを通じた客観的評価を推進する。

8. 病院機能評価受審〈3rd G: Ver. 3.0〉を通じて、課題を明確にし、改善に取り組む。
9. 地域 ICT（びわこあさがおネット）の運用、三方よし、つながりネット等の地域会議に参加し、近隣の他機関と情報共有し、連携を強化する。

## IV. 学習・教育の視点

1. 適正人員数の確保、人材育成を推進する。
2. コンプライアンスを徹底し、公正な風土の確立を目指す。
3. スキルアップを支援する。
4. 臨床実習生を積極的に受け入れる。

### 【2023年度の振り返りと課題】

2023年5月、新型コロナウイルスが「5類」に移行されました。しかし、当院の医療従事者や同居家族が新型コロナウイルス感染するケースは減少しませんでした。結果的に医療従事者が出勤出来ず、十分なサービスが提供できない時期がありました。このような事態は今後も継続することが予測されます。診療技術部では、業務を属人化しないこと、また各部署内で常に情報を共有することが、診療技術部にとって最もシンプルなBCP（事業継続計画）と考えており、今後も実践していきます。

時間外労働時間は、全部署で昨年度に比べ改善が認められましたが、人材不足から栄養科の時間外労働時間は大幅な是正には至っておらず、適正人員数を満たすことは喫緊の課題であります。人員不足は、病院全体の大きな課題であります。2024年の秋には電子カルテの更新が予定されております。このプロジェクトに各部署、各人が積極的に関わることで、業務効率化を図り、この大きな課題をクリアしていきたいと思っております。

2024年度は、医療・介護・障害福祉のトリプル改定の年です。医療・介護・障害福祉の連携体制を更に強化し、当院と強みと出来るように努力していきます。

# 薬 剤 科

## 【職員体制】

常勤薬剤師 4 名、 非常勤薬剤師 3 名、 非常勤事務員 1 名

## 【目標】

病院の基本理念、職業倫理に基づいて医療の提供を実践する。

- ・ 高度な薬物治療の提供に努める。
- ・ 医薬品費の抑制に努める。
- ・ 地域医療に貢献するため、在宅医療の充実を図る
- ・ 業務の標準化・効率化を進める。
- ・ 法令遵守を徹底する。

## 【活動報告】

1. 薬剤師が病棟業務において医師の処方設計に関わることで、医師の負担軽減および安全な医薬品使用に貢献した。薬物治療の最適化を目的に服用医薬品の見直しを進め、保険薬局との連携に努めた。
2. ICT、褥瘡対策チーム、NST などチーム医療への参画に努めた。特に居宅訪問薬剤管理指導と褥瘡訪問チームへの参加に注力した。
3. プロトコルに基づく共同薬物治療（PBPM）に基づき、積極的に医師の処方支援を行った。
4. 採用医薬品の見直しおよび後発医薬品の導入を継続的に進め、在庫の適正化を行った。今年度も医薬品供給が不安定な状況は改善せず、医薬品確保を優先して在庫の確保に努めた。
5. 新型コロナウイルス感染症対策として、ワクチンおよび治療薬の確保に努めた。

## 【実 績】

延べ院外処方箋枚数：18,481 枚（月平均：1,540 枚）

延べ院内処方箋枚数：22,225 枚（うち麻薬処方箋：1,109 枚）

延べ注射処方箋枚数：17,967 枚（うち麻薬注射箋：833 枚）

延べ輸血単位数：32 単位（照射赤血球液として、廃棄本数：0 単位）



各月毎実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
副作用報告	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
薬剤管理指導料 1	46	45	53	38	46	44	40	37	54	45	39	41	528
薬剤管理指導料 2	23	26	32	27	25	16	25	22	33	34	27	18	308
指導人数	48	49	53	51	46	36	43	43	63	55	46	41	574
退院時薬剤情報管理指導料	10	8	7	5	11	7	10	9	10	9	12	13	111
薬剤総合評価調整加算	11	1	13	10	9	4	13	9	10	7	1	4	92
退院時薬剤情報連携加算	7	4	4	2	7	1	7	5	5	6	6	6	60
麻薬管理指導加算	0	6	4	6	6	3	1	1	2	3	1	3	36
病棟薬剤業務実施加算 1	84	108	110	113	125	117	134	97	147	152	147	141	1,475
後発医薬品使用体制加算 1	21	28	32	35	25	27	26	27	50	34	30	28	363

### 【医薬品購入実績】（今年度）

医薬品購入金額合計：133,181,426 円（うち麻薬：4,339,574 円）（税込）

医薬品廃棄金額：717,088 円（薬価：前年比 +192.1%）、廃棄率：0.54%（対購入金額合計比：前年比 +0.01%）

### 【教育・技能向上】

学会参加：日本臨床代謝栄養学会、日本老年薬学会参加（Web 参加）、日本病院薬剤師会近畿学術大会参加（Web 参加）、日本緩和医療薬学会、日本褥創学会、その他病院薬剤師会主催研修会および各種 Web セミナーに参加。

長期実務実習：2 名（京都薬科大学 1 名、摂南大学 1 名）

### 【認定資格】

実務実習指導認定薬剤師 3 名、NST 専門療法士 1 名、スポーツファーマシスト 1 名、衛生管理者 2 名、滋賀県肝炎医療コーディネーター 1 名、日本禁煙学会禁煙サポーター 1 名

### 【今後の課題】

- ・ポリファーマシー対策、認知症対策、低栄養対策、褥瘡対策などの老年症候群に関連する課題に取り組み、高齢者の薬物治療を適正かつ安全に実施する。
- ・訪問薬剤管理指導業務および褥創訪問チームの活動を継続し、薬剤師の活動範囲の拡大に取り組む。

# 放射線科

## 【スタッフ】

常勤診療放射線技師 5名

## 【目標】

1. 病院の理念に沿いながら新しい技術の習得に専念する。
2. 放射線科の特色を地域にアピールをする。健診センター設立準備へ積極的な意見交換をする。
3. 機器の安全管理・被ばく管理の情報提供を行い事故防止に努める。
4. 自分らしさを見失わない職場環境の構築

## 【業務改善及び活動報告】

- ① 紹介検査において3施設の新規開拓が出来た。
- ② MRI検査の同意書及び問診書の作成と、放射線科用のMRI問診書を作成し、MRIの更新後の事故防止のため、ダブルチェックを行える体制にした。また、病棟患者の検査依頼に対応するため、MRI同意書・造影検査同意書の運用を変更した。
- ③ 新規導入機器の円滑な運用について他部署と連携し、検査数増加に努めた。

## 【実績】

<CT撮影件数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2023	181	173	170	174	180	189	217	212	215	175	196	194	1,176
2022	199	183	192	184	206	188	184	192	208	201	180	194	2,311

<MRI撮影件数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2023	94	100	93	100	89	88	96	87	89	68	65	75	1,044
2022	75	87	69	69	72	49	54	84	102	73	78	91	893

<一般撮影件数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2023	412	487	654	593	633	611	665	600	625	566	618	671	7,135
2022	458	483	533	555	549	602	502	501	572	416	538	611	6,390

## 【教育】

- ・ Siemens 磁気共鳴診断装置集中講義 全6シリーズの参加
- ・ 第3回京滋医用画像情報システム研究会
- ・ 日本診療放射線技師会主催告示研修
- ・ 第8回胃癌検診専門技師研修会
- ・ 医療情報技師更新生涯研修
- ・ 第4回京滋医用画像情報システム研究会

## 【今後の課題】

- ① 電子カルテ等のマスター変更の検討
- ② 新規装置のプロトコールについて

# 臨床検査科

## 【スタッフ】

常勤臨床検査技師 4名                      課長 鯉江 賢二  
常勤臨床検査技師 3名（臨床工学技士 1名兼務）      ブランチラボ 常勤臨床検査技師 1名

## 【目標】

検査病態を意識し検査業務の取り組む事をモットーとし、患者に不可欠な臨床検査を目指します。

## 【活動報告】

当臨床検査科は、生理検査部門と検体検査部門に分かれています。生理検査部門は心臓超音波検査、頸動脈超音波検査、下肢静脈超音波検査、心電図等の循環器検査並びに呼吸機能測定等の生理検査を実施しています。呼吸機能検査では肺活量やフローボリュームの測定だけでなく、DLCO（肺拡散能力）検査ができる総合肺機能測定装置（梯フクダ電子）を使用して、間質性肺炎とよばれる、びまん性肺疾患の早期発見、肺気腫など肺の病態診断に役立つ検査を致しております。また、睡眠時無呼吸症候群の診断に役立つ携帯型SAS検査を実施。検体検査部門は2005年12月1日よりブランチラボ（検査センターメディック）になりました。院内にて緊急項目の血液並びに尿検査を実施しています。

## 【実績】

検体検査加算件数

令和4年度	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
検体検査加算件数	683	627	639	641	757	948	656	566	664	747	723	591	638
令和5年度	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
検体検査加算件数	597	555	548	618	645	650	595	624	562	640	603	558	570

評 価

2003.12.15に日本病院機能評価V4認定2～2019.2.1に日本病院機能評価一般病院1認定

施設基準：検体検査管理加算（I）H15.12.1受理

施設基準（施設基準改正による）：検体検査管理加算（I）H20.5.1受理

検体検査部門を平成17年12月1日からブランチラボとなりました。

## 【教育】

研修・勉強会

研修会・セミナー参加

出張、日本臨床衛生検査技師会、他都道府県の臨床検査技師会、研究会等の研修会に多数参加

## 【今後の課題】

- ・脳波検査に向けて知識の習得
- ・エコー検査の操作技術向上

# 栄 養 科

## 【スタッフ】

常勤管理栄養士（4名） 常勤栄養士（3名） 常勤調理師（10名）  
非常勤調理員、調理補助その他（5名）

## 【目標】

- 1) クリニカルサービス（栄養管理）とフードサービス（給食管理）の両面から「体と心に対し、調和のとれた食事」の提供により患者様の早期回復を目指す。
- 2) 多職種協働で地域、在宅に向けた総合的な栄養ケアに取り組む。
- 3) 栄養指導、特別食加算の増加
- 4) 新調理システムの導入により、より安全な食事の提供と早朝勤務、時間外勤務の減少など労働環境の改善

## 【活動報告】

- 1) 在宅褥瘡対策チームへの管理栄養士の参加
- 2) 回復期リハビリテーション病棟への管理栄養士の配置
- 3) N S T活動、嚥下訓練食・経口移行への複雑な個別対応、注入食の提案、栄養補助食品の用途別提案などで食事摂取量の増加、栄養状態の改善に努めた。
- 4) 異物混入などのインシデント防止対策強化
- 5) 病院広報活動への参画（サナニュース・ヴォーリズ便りなど）

## 【実績】

収益（療養費）

月	療養費収益及び特食比率						合計
	特別食	比率 (%)	一般食	比率	注入食	比率 (%)	
4	1,629,258	22.6	4,851,090	67.2	737,475	10.2	7,217,823
5	2,012,662	26.3	4,974,566	65.1	654,775	8.6	7,642,003
6	2,181,262	29.0	4,688,282	62.5	636,825	8.5	7,506,369
7	2,296,790	29.0	5,033,368	63.5	589,400	7.4	7,919,558
8	2,657,628	34.2	4,466,850	57.5	650,025	8.3	7,774,503
9	2,984,266	37.9	4,200,348	53.2	699,825	8.9	7,884,439
10	2,923,352	37.1	4,072,628	51.6	892,450	11.3	7,888,430
11	2,529,968	33.4	4,197,066	55.4	846,525	11.2	7,573,559
12	2,556,712	31.9	4,679,084	58.4	780,005	9.7	8,015,801
1	2,730,422	32.7	4,771,788	57.1	849,575	10.2	8,351,785
2	2,653,192	33.5	4,535,824	57.2	738,900	9.3	7,927,916
3	2,992,822	35.3	4,709,666	55.7	754,845	8.9	8,457,333
合計	30,148,334	31.9	55,180,560	58.7	8,830,625	9.3	94,159,519

収益（指導料）

診療報酬	外来 1回目 2,600 2回目 2,000	入院 1回目 2,600 2回目 2,000	N S T (2,000)	栄養情報 提供加算	合計
4月	19,000	19,600	8,000	0	46,600
5月	8,600	17,600	16,000	0	42,200
6月	8,000	20,200	8,000	500	36,700
7月	11,800	35,200	16,000	0	63,000
8月	7,800	41,800	10,000	0	59,600
9月	6,600	36,600	12,000	0	55,200
10月	30,200	24,800	14,000	0	69,000
11月	8,600	30,000	6,000	500	45,100
12月	27,600	17,600	16,000	0	61,200
1月	15,800	27,400	14,000	0	57,200
2月	10,600	15,600	14,000	0	40,200
3月	10,000	37,800	16,000	500	64,300
合計	164,600	324,200	150,000	1,500	640,300

【教育】

（研修・研究）

- 滋賀県栄養士会主催研修会：管理栄養士
- 日本栄養士会主催研修会：管理栄養士
- 滋賀CDE：管理栄養士
- 日本静脈経腸栄養学会：管理栄養士

【今後の課題】

- 1) N S T加算の維持
- 2) 特食率上昇の取り組み
- 3) 栄養指導件数・栄養情報提供加算の増加
- 4) 異物混入などのインシデントの減少
- 5) 集団栄養指導の方向性
- 6) 新調理システムにおける新メニューの開発 セレクトメニューの再開

# リハビリテーション技術科

## 【セラピスト】

理学療法士 32 名、作業療法士 19 名、言語聴覚士 9 名の計 60 名  
(非常勤理学療法士 1 名、作業療法士 3 名を含む)

## 【目標】

1. 病院の基本理念、職業倫理に基づき、時代に対応した医療・介護・福祉の提供体制を充実させる。
2. 情報の発信および効率的な情報共有とリスク管理体制を確立する。
3. ワークライフバランスの取り組みと働き方改革の推進。長時間労働の是正、意識改革に取り組む。

## 【活動報告】

1. 回復期リハビリテーション病棟提供単位数は平均 6.35 単位（昨年度 6.76 単位）、休日提供単位数は平均 6.20 単位（昨年度 6.67 単位）という結果であった（表 1 参照）。  
また、回復期リハビリテーション病棟のアウトカム評価（サービスの質）も基準値 40.0 点を上回った。
2. 地域包括ケア病床平均単位数は 2.17 単位（昨年度 2.18）であった（表 2 参照）。
3. 年間収益は 335,366,760 円であった。

## 【実績】

表 1 回復期リハビリテーション病棟実績（2023.4.1～2024.3.31）

【様式49-2、49-5、49-6】	2病棟(休日)	2病棟(休日外)	合計	休日	休日外	総合計
① 回復期リハビリテーション病棟に入院していた患者の延入院日数	4347	17678	22025	4347	17678	22025
② 上記患者に提供された疾患別リハビリテーションの総単位数	26968	112939	139907	26968	112939	139907
i：心大疾患リハビリテーション総単位数	0	0	0	0	0	0
ii：脳血管疾患等リハビリテーション総単位数	14423	59566	73989	14423	59566	73989
iii：廃用症候群リハビリテーション総単位数	9	35	44	9	35	44
iv：運動器リハビリテーション総単位数	12536	53338	65874	12536	53338	65874
v：呼吸器リハビリテーション総単位数	0	0	0	0	0	0
1日当たりリハビリテーション提供数 (②/①)	6.2	6.38	6.35	6.2	6.38	6.35
算出期間における休日・休日以外の日数				73	293	366

表 2 地域包括ケア病床実績（2023.4.1～2024.3.31）

リハビリテーション提供総単位数		リハビリテーション1日平均単位数	
心大血管疾患リハビリテーション	0	心大血管疾患リハビリテーション	0
脳血管疾患等リハビリテーション	2,359	脳血管疾患等リハビリテーション	1.99
廃用症候群リハビリテーション	2,895	廃用症候群リハビリテーション	1.53
運動器リハビリテーション	10,209	運動器リハビリテーション	2.53
呼吸器リハビリテーション	118	呼吸器リハビリテーション	1.25
がん患者リハビリテーション	0	がん患者リハビリテーション	0
合計	15,581	合計	2.17

## 【教育】

### <出前講座>

理学療法士：3件 作業療法士：3件 言語聴覚士：1件 （計7件）

### <研修>

- ・嚥下障害に対する物理療法 認定基礎セミナー
- ・実用的嚥下プロトコル (ESP) の活用による嚥下障害の攻略 ZOOM Webinar 嚥下障害に対する治療における Ampcare ESP 療法の使用方法

### <科内勉強会>

- ・理学療法部門症例検討会
- ・作業療法部門症例検討会
- ・言語聴覚部門症例検討会
- ・訪問部門症例報告会
- ・合同勉強会

### <臨床実習生>

- ・理学療法：10名（京都橘大学、佛教大学、藍野大学、文京学院大学、びわこリハビリテーション専門職大学、京都医健専門学校）
- ・作業療法：6名（京都橘大学、佛教大学、藍野大学、びわこリハビリテーション専門職大学）

## 【今後の課題】

1. 安定したサービスの提供。在宅復帰に向けた最適なりハビリテーションの介入と積極的な退院支援サービスの継続。
2. 回復期リハビリテーション病棟の施設基準維持・管理。
3. 地域包括ケア病床における入院料1の維持・管理。
4. 働き方改革の推進と業務効率化。
5. 時間外勤務時間に対する分析・対応・教育。

# メディカルフィットネスセンター ヴォーリス

## 【スタッフ】

常勤スタッフ 社会福祉主事・トレーナー 1名 介護福祉士 1名

非常勤スタッフ 健康運動指導士 1名 理学療法士 2名

## 【目標】

1. 近江八幡市からの委託事業短期集中サービス C  
ぱわーあっぷ（火・金曜日、午前中 9:30～11:30 に開催）を継続開催する。  
事業運営を円滑に進められるように関係各所との連携を取る。  
利用者が地域活動へ積極的参加を出来るようになる事業を目指す。
2. 一般会員（自立生活を送られている方に対するサービス）  
利用者の方へ健康に対する定期的な集団指導やイベントを企画して、利用者の健康への意識を高めてもらう。同時に退会数を減少させる。  
送迎サービスの枠数を増やす。
3. 利用する全ての方へニーズや症例に応じたキメ細かいサービスを行えるように気をくばり、利用者の QOL と顧客満足度の両方の向上を目指す。
4. 「里」内や他の関連事業所との連携を強く取り、利用者数の増加を目指す。
5. スタッフが専門分野のさらなる知識や技術の習得に力を入れ、それを他のスタッフへの研修で伝える事により、実力の向上を目指す。その知識や技術を利用者へ提供する。
6. 市内の各地域や企業からの講師依頼を積極的に引き受ける。運動と健康が緊密に繋がっている事を伝えていく。

## 【活動報告】

1. フィットネス会員  
フィットネス会員に有酸素運動機器や筋肉トレーニング機器などを使用してもらい、基礎体力向上、身体能力向上、リハビリを目的とした運営を行った。
2. 近江八幡市介護予防 日常生活支援総合事業（ぱわーあっぷ）  
近江八幡市より委託を受けて事業継続をした。  
市役所や地域包括支援センターと連携をしながら、対象となる高齢者を 3 か月間の短期集中プログラムで実施。ADL 向上や地域活動への参加機会を多く得られるように活動した。
3. 上記 2 の利用終了者を引き続きトレーニングを継続してもらうために、送迎つきの会員として入会してもらった。



## 【実績】

	フィットネス		ばわーあつぷ	
	会員数	収入金額	利用者数	収入金額
4月	53	414,270	4	366,700
5月	53	398,320	4	367,300
6月	53	421,010	4	353,800
7月	55	383,040	5	360,400
8月	51	418,230	4	356,280
9月	51	434,300	6	386,800
10月	51	392,380	3	400,100
11月	51	351,380	4	376,800
12月	52	417,360	2	376,900
1月	52	339,880	3	356,280
2月	50	398,880	2	343,080
3月	52	495,700	2	367,000
合計	-	4,854,750	-	4,411,440

## 【教育】

- ・NSCA ジャパン ストレngths & コンディショニングカンファレンス オンライン講習
- ・癌サバイバーへのトレーニング処方 オンライン講習
- ・YOGIC EYE アイヨガ認知機能向上セミナー

## 【今後の課題】

- ・フィットネスセンターの会員獲得と収益確保
- ・新しい収益モデルの確立
- ・送迎サービスの充実
- ・日常生活支援総合事業サービスC（近江八幡市からの委託）の事業の安定した運営
- ・新規会員の獲得のための行動 SNS 活用で周知実践

# ME サービス室

## 【スタッフ】

常勤臨床工学技士 1名

室長 鯉江 賢二 常勤臨床工学技士 1名（臨床検査技師兼務）

## 【目標】

院内の医療機器の保守点検を行い、医療の質の向上と患者に対する医療サービスの向上を目指します。

## 【活動報告】

近年、多くの医療機器が医療の現場で使用されるようになりました。これらの機器を安全に信頼高く操作、管理することは大変重要です。当MEサービス室（臨床工学部門）は、院内の医療機器の保守点検を行っています。そして在宅用の人工呼吸器並びに非侵襲的人工呼吸器と睡眠時無呼吸症候群の治療に経鼻的持続陽圧呼吸装置（CPAP）の貸し出しを行い、在宅医療に力を入れています。

## 【実績】

評 価

医療機器安全管理料件数

令和4年度	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
医療機器安全管理料件数	1.8	2	3	5	3	3	2	0	1	1	1	0	0
令和5年度	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
医療機器安全管理料件数	1.8	0	0	2	0	2	1	3	2	4	2	2	3

施設基準：医療機器安全管理料1 平成20年4月1日受理

2008年12月15日日本病院機能評価V5認定～2019年2月1日日本病院機能評価1認定

## 【教育】

### ・院内勉強会

- ① 非侵襲的人工呼吸器 vivo 3<sup>®</sup> の使用方法 日時：2023年5月30日 場所：一般病棟観察室
- ② 多機能人工呼吸器オールワン VOCSN<sup>®</sup> の使用方法 日時：2023年10月27日 場所：会議室
- ③ 多機能人工呼吸器オールワン VOCSN<sup>®</sup> の使用方法 日時：2023年11月22日 場所：一般病棟観察室
- ④ 人工呼吸器 Trilogy02<sup>®</sup> の使用方法 日時：2023年12月13日 場所：一般病棟スタッフステーション

・研修会・セミナー参加

出張・日本臨床工学技士会、他都道府県臨床工学技士会、学会、研究会等の研修会に参加

## 【今後の課題】

在宅用医療機器（在宅酸素、CPAP、NPPV、ポンプ）のレンタル手配を充実

## 【2023年度活動計画及び実績】

〈看護部理念〉私達は、その人らしさを大切に、全人的看護・介護を提供します。

### 目標 1 病院経営に貢献する。

- ・病床ミーティング（週1回）、看護部ミーティング（病床状況確認・対策）を毎朝開催し、タイムリーな病床管理を継続。地域包括ケア病床、回復期リハビリテーション病棟、医療療養型病棟、緩和ケア病棟すべて目標稼働を達成した。各病棟機能の役割と算定要件を踏まえ、168床の有効利用を目指した病棟連携が出来た（病床の稼働実績は各部署参照）。
- ・医療看護必要度の17%の維持が難しく、一般急性期入院基本料5から6へ変更となった。
- ・在宅患者療養指導料87件/年、褥瘡訪問件数81件/年、退院後訪問29件/年、緩和ケア認定看護師により同行訪問20件/年と昨年に比べ件数が増えている。看護師が療養指導を行い、看護師の同行訪問でのケアの質、在宅と病院のつながりを深めた。
- ・外来ケモを算定し、地域で治療のできる場所を提供できるようにしている。
- ・経営戦略におけるBSC・モニタリングシートを活用した目標管理を継続し、管理者の経営意識向上を図り、経営貢献出来た。
- ・人件費を意識した看護要員の適正配置となる調整を実施。また時間外業務管理として業務改善・看護部研修の時間内開催を推進した。平均時間外昨年対比：+1.88 部署によって差異もあり、それぞれの課題は残っている。
- ・新型コロナウイルスのクラスターも発生したが、看護部内、病院内の応援体制で乗り切りきることができ、看護部内の応援体制も強化した。

### 目標 2 地域包括ケアシステムにおける「いのち・暮らし・尊厳を守り支える」質の高いケアを提供できる看護部門を構築する。

- ・入院時から退院後の生活を見据えたチームカンファレンスを開催、地域看護科が積極的に退院1週間カンファレンスや退院カンファレンスに入り、外来と病棟の情報共有より院内看看連携に繋がった。入退院支援推進委員会、認知症ケア推進委員会が中心となり、個別性のある全人的ケアの展開を目指し、地域療養支援病院として地域貢献に努めた。
- ・医療安全・感染管理委員会を中心としたラウンドや報告書から課題を抽出し、多職種カンファレンスでの検討により医療の質向上に努めた。
- ・出前講座に緩和ケア認定看護師や認知症ケア認定看護師が専門性知識をもって出向き、看護師としても健康についてなどを看護部が担当し、地域の健康予防事業への貢献と病院の啓蒙活動に参画出来た。

### 目標 3 新人、現任教育の充実を図り、キャリアデザインを描ける看護の人材育成を行う。

- ・当院で作成した看護師のクリニカルラダーに基づく教育として、eラーニング研修と合わせてOJTを中心としたラダーレベル研修を実施した。今年度は新しくシミュレーション研修を取り入れ、研修を行った。イメージしやすい実践的な研修となった。
- ・新たな資格取得者は、「重症度、医療・看護必要度」4名、「認知症加算対応研修」5名、「看護

# 看護部総括

補助者活用推進のための看護管理者研修」2名、「ELNEC-J」2名の実績である。

- ・「感染管理認定看護師教育課程を修了し、感染管理認定看護師1名が活躍している。
- ・「実習指導者講習」2名が修了し、実習指導につながっている。
- ・「認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修」1名受講、看護連盟東近江地区支部長を勤め、管理実践能力の向上に繋がった。
- ・看護部主任会、キャリア支援委員会を中心に「ナイチンゲール看護論」に導かれたケア展開推進への取り組みにてケアの質向上に努めた。

## 目標4 生き生きとやりがいのある職場づくりを促進しスタッフの心理的安全性を高める。

- ・就職合同説明会の参加、管理本部人材担当と連携し県内看護大学・専門学校の訪問を実施した。
- ・看護大学2校、看護専門学校3校の実習を積極的に受けている。
- ・看護部イベント委員会にて看護部通信を育休中の職員と各部署へ1回/年発行し、活動の様子を報告することで働きがい向上への意識付けとなった。
- ・職員動向

離職率	平均時間外勤務	年間有休休暇取得
11.6% (看護師7.2%)	時間 9.7時間	85.9%

- ・令和5年度入職者21名：看護師14名・新人職員5名・看護補助者2名（新人0名）
- ・令和5年度退職者14名：看護師8名・新人職員1名・看護補助者5名（新人0名）

## 目標5 機能評価受審における課題に継続して取り組む。

- ・R6年4月病院機能評価受診に向けて機能評価委員会を中心に課題の取り組みを行った。

\*詳細な数値は各部署報告参照

### 【次年度の課題】

- ・トリプル改定診療報酬改定を踏まえた知識を深め、看護管理を実践し病院経営に貢献する組織育成とシステムの構築
- ・在宅療養支援病院としての使命の遂行（看看連携の強化）
- ・働き方改革やヘルシーワークプレイスの意識化し、WLBを推進
- ・リクルート活動と教育ラダーに基づく教育体制により、看護・介護サービスに必要な「人財」の計画的な確保
- ・患者・職員両視点に立った環境の整備
- ・感染・医療安全・倫理を中心に、チーム医療の質向上への取り組みを継続
- ・教育ラダーに基づく研修と目標管理による看護・介護の質向上とキャリア発達支援
- ・各分野スペシャリストの育成支援を継続
- ・働きやすい環境づくり

# 一 般 病 棟

## 【スタッフ】

看護師	26名	<常勤23名（うち看護師長1名、主任2名）、非常勤3名>
准看護師	2名	<常勤0名、非常勤2名>
看護補助者	9名	<常勤7名、非常勤2名>
看護事務補助者	2名	<常勤2名、非常勤0名>

## 【目標】

1. 経済性を考慮した病棟運営に貢献でき、地域で一般病棟、地域包括ケア病床の役割を果たせる
2. 高齢者・認知症ケアの充実をはかり、安全で安心できる治療の療養環境を提供する
3. 新人・現任教育を行い、看護介護の質の向上を目指す
4. やりがい感を持って個々の力を発揮できる職場づくりに取り組む

## 【活動報告】

1. 一般病棟の入院基本料5の算定要件、稼働率94.65%で目標数値クリア。11月の稼働率72.78% / 単月はCOVID-19におけるクラスターにより入院数を制限した事が理由である。しかし重症度が前期13.7% / 3か月であり目標数値17%をクリアできる見込みなく後期1月からは入院基本料6へ算定変更した。変更した事により月25,380点の減収となった。地域包括ケア病床の入院基本料1の算定要件、稼働率100.76%で目標数値はクリア。重症率の目標平均値は12.5% / 3か月であり今後数値を意識し、患者のスムーズな受け入れをする必要がある。  
在宅から入院数割合算定要件20% / 3か月は1月の単月11%と落ち込んだ。11月のクラスターが原因で12月からの入院受け入れ数が増加。その結果、地域包括への転入も増加したと考える。在宅復帰率(90.9%)も目標数値を十分にクリアできた。
2. インシデントは後期48件アクシデント1件であった。内転倒・転落は後期31件と65%の割合である。  
地域包括ケア病床に入院されている対象患者の多くが整形疾患であり、転倒・転落の割合が増加していると考え。カンファレンスはタイムリーに話し合う事ができた。方法が先行するのではなく、何故そのような事象が起きたのかという視点を持ちカンファレンスを進めていきたい。11月にはCOVID-19クラスター「アウトブレイク」が発生した。11/1～11/9職員6名、11/4～11/13患者17名が罹患した。改めて感染対策の重要性を認識した。  
院内デイ「ひだまり」の開催ができず。認知度Ⅲa以上の患者が新規入院患者の46%（約半数）が対象であり今後認知症ケアのひとつとして院内デイを開催していく。
3. 学生実習は2校実施できた。  
リーダー会を定期的開催し、新人看護師の進捗や業務改善など評価し実行できた。倫理カンファレンス・スピリチュアルなど件数は少ないが皆で考え共有する機会が持てた。デスクカンファレンスの開催が課題である。詰所会においては全員が参加できるようZOOMを利用して開催することができた。また、事前に議事録への入力や検討課題を明確化し、30分開催が実施できた。
4. 様式9は、補助者加算について、長期休暇者はなかったが、11月のコロナクラスターにより補助者要因が不足する結果となった。ただコロナに関する猶予があり何とか実績はクリアと

なった。看護補助者現任者の評価方法や補助者内の指示系統など見直しが必要。時間外は、看護師の平均は5：10と前年度から－6%減少できた、まだまだ個人的な課題はある。有休消化は病欠を含め、66%であった。

## 【実績】

### 一般急性期

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率	97.61	97.69	100.95	97.46	111.52	107.38	89.07	72.78	89.24	97.67	96.74	96.23	96.2
入院数	20	29	32	36	27	28	28	29	49	35	30	31	34.3
退院数	9	6	7	6	9	6	10	11	13	14	12	8	16.25
平均在院日数	16.41	15.69	15.18	13.65	14.48	15.62	18.17	17.34	15.08	14.12	14.63	17.44	19.32
看護必要度(%)	14.4	12	18.2	9.8	16.1	14.7	11.8	9.6	5.3	9.1	6.2	6.6	13.75

### 地域包括ケア病床

2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率	101.19	102	102	101	102	106	98.08	94.89	101.34	102.22	100.43	101.71	103.15
在宅直入数	4	7	4	2	10	3	8	4	6	3	13	11	5.8
緊急入院数	3	5	3	4	8	3	3	3	4	3	7	7	4.58
在宅復帰率	91.3	91.3	93	92.3	92.3	84.6	96.4	85	87	96	92	93.8	97.15
看護必要度(%)	19.6	28.2	25.2	14.4	23.2	20.9	9.6	13.2	14.6	9.6	15.4	19.1	18.96

## 【教育】

### \*病棟内研修

「人工呼吸器について」「看護必要度」「認知症ケア」

### \*院外研修

医療・看護必要度評価者受講 1名 修了者 1名

認知症研修終了 1名

### \*看護学生の臨地実習受入れ 2グループ

### \*看護研究 「OHAT 活用にむけてスタッフの意識調査」

## 【今後の課題】

1. 入院基本料（一般病棟と地域包括ケア病棟）の維持とケアの実践
2. コロナ感染症5類移行後の感染対策（新興感染）
3. 退院支援における退院支援リンクナース・プライマリーの役割とチームケア
4. 院内デイケアの継続と認知症患者の受け入れ体制の強化
5. キャリア開発支援のあり方
6. 新人教育の充実

# 回復期リハビリテーション病棟

## 【スタッフ】

看護師	24名	<常勤18名（うち看護師長1名、主任2名）、非常勤6名>
准看護師	1名	<常勤1名>
ケアワーカー	13名	<常勤13名（うち主任1名）>
看護事務補助者	2名	<常勤2名>
看護補助者	1名	<非常勤1名>

## 【目標】

1. 入退院支援強化に努め病院経営に貢献する
2. 地域ケアシステムにおける質の高い看護・介護の提供を目指す
3. 新人・現任スタッフの充実を図り人材育成を行う
4. ヘルシーワークプレイスの実現に向けての職場づくりに取り組む

## 【活動報告】

1. 病棟稼働率は年間100%と目標数値は達成でき、病院への収益貢献に繋がった。入院患者数は年間298人と高値を推移したが、回復期リハビリ入院基本料1の算定要件である重症率は半年実績48%・改善率は46%、在宅復帰率は80.6%と基準値をクリア出来た。入院数が増加すると重症率が低下する傾向があり、入院前の判定会で事前に情報を収集し地域包括ケア病床へ転科できるよう調整を行った。
2. 医療安全では、年間を通してアクシデント（3b以上）事例は6件（転倒による右腓骨遠位端骨折、左人工関節周囲骨折、口腔・気管内より義歯の発見）。インシデント事例は、258件。前期と同様インシデント件数の半数は転倒・転落であり、病棟の特殊性がみられた。病棟スタッフ全員が振り返り、一緒に改善策を考え実践することで、医療安全に対する意識が高まった。なぜ必要なのか理解した上での継続した看護や、ケアを実践していくことが今後の課題である。院内感染は、COVID-19によるクラスターとして患者・スタッフに及んだ。反面、感染対策の意識や知識の向上と沢山の学びを得た機会にもなった。
3. 認知度Ⅲ以上の患者が、年間を通して22.3%であり、年々増える傾向にある。毎日デイサロンの行うことで、患者の日常生活にリズムが付き、リハビリへの意欲も増し、FIMの改善に繋げる事ができた。また、スタッフ自身が「患者自身を知る・理解する」という事へ視点を向けて患者さんの理解を深め、一人一人との接し方を学ぶいい機会となり、ケアの質向上に努める事ができたと評価できる。次年度も開催を継続し、レクリエーション係が中心となり計画していきたい。入退院支援カンファレンスは毎週に開催できている。退院支援リンクNSが参加する機会が多く、スタッフへの退院支援に関わる課題について伝達事項を通じて発信する事が定着化し、有効なベットコントロールに繋がった。また、曜日毎の采配には医師の勤務を確認し、1日のカンファレンス件数、入退患者の数などを考慮した。後期には、入院時のFIMをプライマリーNSやCWが測定し、チームカンファレンスですり合わせを行っている。スタッフの経営参画意識の向上に努める為にも、継続して行い、病棟の稼働や重症度など意識してもらえるように、可視化したデータを開示していく。

4. 倫理カンファレンスは年間通して2件・スピリチュアルカンファレンスを1件開催する事ができ、全人的な視点で考える機会が持てた。また、看取りを通してデスカンファレンスも1件開催した。日々のケアや看取りの場面での振り返りをする事で皆のグリーフにも繋がった。日々ケアを行う中でのジレンマやモヤモヤ感など、カンファレンス件数としては計上できていないケースもあるが、朝のミーティング時に話し合える機会を持つように意識した。

## 【実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (平均)
平均年齢 (男女)	76.5/ 84.1	84.1/ 82.9	76.9/ 80.4	82.2/ 84.6	78.4/ 85.7	76.9/ 83.7	79.3/ 78.9	72.3/ 84.4	72.3/ 84.4	67.7/ 84.6	78.5/ 82.1	75.3/ 86.0	76.7/ 83.5
入院入棟数 (人)	25	23	26	25	22	27	28	26	22	25	24	25	24.8
退院転棟数 (人)	25	24	28	25	20	26	28	26	22	28	23	24	24.9
稼働率 (%)	100.8	101.2	101.1	99.8	99.0	96.0	100.9	100.3	100.2	100.9	99.9	96.0	99.7
在宅復帰率 (%)	84.0	95.8	96.4	80.0	89.4	80.8	87.5	85.7	90.0	74.1	78.3	77.0	85.75
在院日数 (日)	66.1	71.97	78.32	80.06	80.12	80.71	76.48	70.45	75.0	76.01	80.16	77.15	76.04
重症者率 (%)	45	56.5	52	52	30	42.3	46.15	38	55	54	52	45	47.25
改善率 (%)	44	100	38	61.5	66.6	53.8	38	67	30	40	57	45	53.41

## 【教育】

- \*病棟勉強会：「FIM 評価方法」「整形疾患」「脳パス」「高次脳機能障害について」  
「感染対策」
- 看護部キャリア：クリニカルラダー別 学研 e ラーニング配信講座 集合研修 OJT 研修
- \*院外研修：滋賀県看護協会研修  
(新人研修、3年目研修、地域包括ケア時代の継続看護、認知症高齢者の看護実践)  
褥瘡学会・褥瘡セミナー配信講義  
看護必要度研修
- \*看護学校への講義：堅田看護専門学校
- \*病棟看護研究：病棟デイサロンに対する職員の意識調査  
～病棟デイサロンを開催することで得られる患者への効果～
- \*看護学生実習：滋賀県立総合保健専門学校、堅田看護専門学校、聖泉大学、滋賀医科大学



## 【今後の課題】

1. 稼働率、在宅復帰率、重症者改善率の維持（FIM での評価）
2. 看護師・ケアワーカーの FIM に関する知識向上
3. 退院リンクナース中心に退院支援の強化
4. 認知症リンクナース中心とする認知症ケアへの充実（デイサロンの継続）
5. 感染・医療安全リンクナース中心とした院内感染防止対策、医療安全への意識向上
6. キャリア支援、クリニカルラダー・育成シートに沿った人材育成
7. スタッフの係活動、委員会活動の支援
8. WLB 推進活動を継続し働きやすい職場環境作り
9. 倫理・ケア・スピリチュアルカンファレンスの開催
10. 患者・家族・職員との情報共有と退院支援

# 医療療養病棟

## 【スタッフ】

看護師	20名	＜常勤16名（うち看護師長1名、主任1名）、非常勤4名＞
准看護師	1名	＜常勤1名＞
ケアワーカー	8名	＜常勤7名 非常勤1名（うち主任1名）＞
看護助手	1名	＜非常勤1名＞
		看護事務補助者2名 ＜常勤2名＞

## 【目標】

1. 安定した病棟運営を行い、地域とつなぐ医療療養病棟としての役割を果たす
2. 安全で安心できるケアと全人的ケアの提供
3. 一人一人が専門的な役割を果たし、やりがいを持った働きやすい職場を環境作る
4. 在宅療養支援病院として、入退院支援を強化する

## 【活動報告】

- 1- ①稼働率 96.77%、前年度より 2.5%低下、目標 98%には及ばなかった。医療区分 2・3 割合 95%、前年度より 3%低下、在宅復帰率 6 ヶ月平均 94.3%前年度より 10%上昇、在宅復帰率は介護指導や退院支援に取り組んでいる成果と考える。稼働率、医療区分 2・3 割合は低値であるが、全体の収益を考え、病院全体 168 床でベッドコントロールをおこなった。
- 2- ①倫理カンファレンス 5 件、デスカンファレンス 3 件、今年度も件数は少なかったが、昨年度より件数は上がっている。プライマリー中心に語り合うことはできているが、カンファレンス用紙に記録することができていない。身体拘束カンファレンスは週 1 回確実に実施し解除に向けて考え取り組むことができた。  
- ②今年度のインシデントレポート 214 件、アクシデントレポート 1 件。  
スキンテア 70 件、内服・輸液関係 75 件、であった。緊急を要するケースについては速やかに実施している、医療安全管理者も参加し、カンファレンスを実施したが、カンファレンスを定期的に実施することができず、全体数は少ない。
- 3- ①平均時間外は 14:28 であった。前年度より 2 時間ほど増えている、看護師の時間外は年々増えている。休職者があった事、COVID19 感染者発生・職員の濃厚接触で出勤停止期間があり昨年度同様厳しい状況となった。  
- ②新人看護師 1 名を受け、個人の成長スピードも考慮し介入をした。年間とおしてほぼ予定通りに実施できた。  
- ③年間 5 日間の有給休暇消化は達成出来た。有休消化率 79%であった。前年度に比べ 9%アップした。  
- ④看護研究は「保湿剤使用による、スキンテア発生予防の実践と効果の検証」というテーマで看護師とケアワーカー病棟全体で取り組むことができた。また、この研究を次年度の滋賀県看護協会の看護研究に提出する予定となった。
- 4- ①医療依存度が高い方であっても、少しでも在宅で過ごしたいという思いを支え、今を考えながらの支援ができた。2 週間から 1 ヶ月、時には 3 か月在宅で過ごし、医療療養型病棟を利用しながら、

大切な時間を過ごせるように支援し在宅療養支援病院としての役割を果たす事ができた。

- ②療養病棟の役割として、医療依存度の高い方が、長く家で過ごすことができるようにレスパイト入院を積極的に受けた。在宅復帰率にもうまく繋がった。
- ③学研ナーシングを活用しキャリア教育を実施している。OJTは時間内の設定が難しかった。また今年度より学研ナーシング内のシミュレーション研修がはじまり、研修に参加できるように勤務の采配が必要になった。勤務表作成段階でキャリア支援委員・病棟教育係りと連携し計画することが必要。

## 【実績】

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率 (%)	99.5	99.0	98.1	93.7	95.7	98.2	99.0	90.0	97.2	98.1	98.1	100
医療区分 (%)	97.6	97.5	92.6	96.2	97.6	96.3	95.5	99.2	94.6	94.4	93.7	89.9
在宅復帰率 (%)	100	100	100	80	83.3	100	100	100	100	100	100	85.7

## 【教育】

- ① 病棟勉強会 「医療区分について」 各OJT研修 「退院支援について」
- ② 研修 「重症度、医療・看護必要度」 1名受講  
「エンド・オブ・ライフケア (ELNEC-J)」  
「感染管理認定看護師教育課程受講」 資格取得  
「認知症ケア」  
「実習指導者講習会」 など
- ③ 看護研究  
テーマ「保湿剤使用による、スキンテア発生予防の実践と効果の検証」
- ④ 看護実習 甲賀看護専門学校 滋賀県総合保険専門学校 堅田看護専門学校

## 【今後の課題】

1. 診療報酬改定による変化に対応し、病院の運営に貢献する。
2. 平均患者数、稼働率、在宅復帰率、医療区分2,3の比率を維持。
3. 地域と情報共有を密にし、医療依存度の高い患者が住み慣れた地域で過ごせる様、つなぐ役割を果たす。チームで情報共有の工夫をしながら、退院支援していく。
4. 面談、チームカンファレンスを通して家族と信頼関係を築きながら、本人の思いに寄り添い、今を考えられる援助を行う。
5. 徐々に緩和されて行く面会を安全に実施し、患者・家族の時間を大切にする。
6. 倫理カンファレンスを充実させ、必要なケアについて考えを深める。
7. 医療療養病棟における終末期ケアの充実。
8. 働きやすい職場作りの実現に向けて取り組む。
9. クリニカルラダーに沿ったキャリア支援・人材育成。

# 緩和ケア病棟

## 【スタッフ】

看護師	20名	＜常勤16名（うち看護師長1名、主任1名）、非常勤4名＞
ケアワーカー	1名	＜非常勤1名＞
看護助手	2名	＜常勤1名、非常勤1名＞
看護事務補助者	1名	＜常勤1名＞

## 【目標】

1. 多様なニーズに対応しながら、病院経営に貢献するホスピス運営を行い、地域の役割を果たす。
2. 多職種連携の強化、チームケアの充実を図り、質の高い全人的ケアを提供する。
3. 在宅療養支援病院のホスピスとして、スムーズな入退院支援の強化を目指す。
4. スタッフ個々が、やりがい感を持てる職場作りの促進と人材の定着を図る。

## 【活動報告】

1. 平均稼働率（85.2%）入院数（323人）平均患者数（13.6名）であった。  
入院患者数の目標値は今年度も大きく上回り、昨年度より23名増加した。年々20数名の増加傾向にあり、平均在院日数（15.4日）が短縮化している分、入院患者数の増加に繋がっている。在宅療養を希望される方が増え、体験入院や在宅看取りが増加傾向にあり、その影響で在宅復帰率は44%と高い数値となった。今後も在宅療養支援病院として患者・家族のニーズに応じた入院体制をとり、退院後も安心できる在宅療養環境を提供できるよう支援していきたい。
2. 遺族ケアについては、毎月1回ご遺族と緩和ケア医師、病棟看護師、チャプレンとで対話する「ライラックの会」を行っている。一家族毎の予約制とし、ご遺族と一緒に患者様の思い出を語り合い、悲嘆の強いご遺族へのグリーフケアを行った。  
集団で行う遺族会「こもれびの会」は年2回開催していたが、コロナ禍以降中止しており、今年度も実施にまでは至らなかった。だが次年度は、コロナが5類になったこともあり、「こもれびの会」の再開を予定している。4年ぶりに実施となるため、今年度末より準備に取り組み、ご遺族に満足していただける遺族会としたい。
3. 在宅復帰率は44%で、約半数近くの方が自宅退院されている。緩和ケア病棟では、登録制度をとっており、一度入院すると登録患者となる。退院後、いつでも再入院が可能となり、24時間当院のフォローが受けられる。そのため常にベッド1床を空床とし、緊急入院も可能としている。4泊5日の体験入院でも自動的に登録患者となるため、在宅療養をされる方には安心材料の一つとして、体験入院を希望される方が多い。  
在宅療養を選択される患者が増える中、地域看護科、緩和ケア認定看護師、地域療養支援部、訪問看護との情報共有や連携を意識した。退院後は、緩和ケア外来に通院される方、当院の訪問診療を受けられる方、自宅が遠方の場合は、近辺の訪問診療医へ委託する方と様々であるが、多職種と連携することで退院後の状況も把握でき、病院から在宅へ、また在宅から病院へ繋ぐケア・看護の大切さを感じることができた。次年度も、病院から在宅へのつながりを大切に看

看連携の強化、多職種との連携を行っていききたい。

4. 面会については、コロナが5類となってからも面会制限は続き、今年度も緩和ケア病棟ではどうあるべきか日々課題であった。

本来、緩和ケアとは、患者とご家族に対して、痛みや心の苦痛を最小限にできるような的確なアセスメントで対処し、QOLを改善するアプローチを必要とする。家族との面会が遮断された状態は、終末期の患者・家族にとっては苦痛となり、入院を拒まれるケースもあった。そこで、緩和ケア病棟では、病状に合わせて面会を3段階に分類し、第1段階を病院全体の週2回の面会、第2段階を1日30分面会、第3段階を24時間付き添い可とし、面会の緩和を行った。人数が増える場合は、チャペルや瞑想室を使用し、様々な形に合わせた面会対応を試みた。少しずつではあるが、面会緩和をすることができ、次年度は更なる面会緩和に取り組んでいきたいと考える。

看護学生の実習は、計画通り実施する事ができた。指導者だけではなく、皆で学生を育てる風土を今後も継続できるよう病棟全体で関わっていききたい。

## 【実績】

- ・外来数：540名（初診212名、再診328名） 医療センター外来：43名
- ・在宅看取り：18件      ・遺族会：ライラックの会（毎月第4水曜日午後）2件
- ・実習受け入れ（県立大学人間看護学部）12月・1月・2月

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院数 (人)	27	25	25	25	32	25	30	25	22	28	31	28	323
退院数 (人)	28	24	24	25	33	26	32	24	21	28	27	29	321
稼働率 (%)	89.16	87.9	93.75	91.73	80.44	88.96	72.98	82.92	78.44	85.28	81.25	89.51	平均 85.2
在院日数 (日)	17.18	16.01	16.67	17.63	15.38	14.88	12.53	14.56	14.73	15.82	14.53	14.33	平均 15.35
在宅復帰率 (%)	48	54	36	48	64	46	42	41	48	23	53	24	平均 44
待機日数 (日)	5.0	10.4	4.2	6.4	8.6	7.4	6.8	9.9	6.9	12.4	7.4	5.9	平均 7.6

## 【教育】

- ・京滋緩和ケア研究会：ZOOMにて参加
- ・日本死の臨床研究会年次大会：現地参加
- ・日本ホスピス緩和ケア協会年次大会：ZOOMにて参加
- ・現任教育、中堅プログラム実施
- ・新人教育 年間計画実施

## 【今後の課題】

1. 平均入院患者数 14 名・稼働率 80%以上の目標値であり、今年度と同様目標値クリアを目指す。
2. 登録患者のレスパイト入院利用や体験入院数の向上と登録制の効果的な利用を勧める。  
また、在宅療養を支援強化し「在宅看取り」や「継続看護」に繋げる。
3. 近江八幡市立総合医療センターとの看看連携の体制構築を継続していく。
4. ホスピス現任教育プログラムの教育を段階的な積み上げ式にする。
5. 中堅看護師の教育、質の底上げを「カンファレンス」を通して実践する。
6. 入職者に対しての教育、指導計画を充実させ、緩和ケアに特化した人材育成を行う
7. 地域の住民、地域の病院への啓発活動を活発にしていく。
8. スタッフがいきいきと働き続ける環境作りを行う。
9. ボランティア活動、レクレーション、「こもれびの会」の開催に向けて取り組みを行う。

# 地域看護科

## 【スタッフ】

看護師	16名（うち師長1名）常勤10名、非常勤6名
看護事務補助者	1名
看護助手	1名（非常勤）

## 【目標】

1. 経済性を考慮し、地域とつなぐ外来機能の役割を果たす。
2. 安心・安全できる治療、療養環境を提供する。
3. 個々の自己成長を支援し、やりがい感を持てる職場づくり。
4. 病院機能評価受審に向け、ケアの質向上に取り組む。

## 【活動報告】

1. 外来患者数はどの月も平均を上回る。2023年度緩和認定看護師をホスピス病棟から外来部門に異動し体制作りを行った。緩和認定看護師が訪問看護師と共に在宅に同行訪問する事で質の高いケアの提供が実践できた。実際の訪問件数も20件と一昨年度より件数アップし、大きく収益にも繋がった。外来看護師は入院患者の退院前カンファレンス等に参加し安心して在宅療養ができるよう病棟との情報共有、多職種連携を行った。当院訪問看護ステーションとのカンファレンスにも2回/月参加し連携に役立てた。  
在宅療養管理指導に積極的に取り組み治療のサポート、患者の安心感に繋がった。  
外来ケモ件数延べ50件。外来化学療法患者に対し安全安楽な環境下で治療ケアを行うことができた。  
胃カメラ、腹部超音波件数は増加。今後も開業医との連携、健診室との連携を図り地域のニーズに柔軟に対応していく。  
2023年度は新病院に移転し、手術室を使つての治療、処置ができるようになった。褥瘡皮弁術、粉瘤切除術など9件。
2. アクシデント0件、インシデント21件であった。リスクマネージャー中心にPDCAサイクルでカンファレンスを行い再発防止に努めた。  
入院前面談や退院前カンファレンス、退院後訪問を行うにあたり、患者・家族の安心、安全なケアに繋がった。今後も病棟、地域を繋ぐ外来看護師の役割を果たしていく。  
退院後在宅に病棟看護師と外来看護師が訪問することで、ケアの質向上に繋がった。  
褥瘡訪問は35件多職種でチーム医療実践している。
3. 朝礼で1分間スピーチを実施。職員間のコミュニケーションの一つに繋がった。  
看護職人員配置状況を確認しながら応援体制を行いながら無駄のない業務効率と看護職のスキル向上に努めた。
4. 病院機能評価委員会と連携し良質な医療、看護の推進と病院組織運営に向けた取り組みを行った。

## 【実績】

腹部超音波	胃カメラ	大腸カメラ
1,271件（昨年933件）	1,227件（昨年1138件）	152件（昨年102件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来患者数	87	86	85	89	93	88	91	92	90	83	79	81
退院後訪問数	3	4	4	3	4	4	4	3	5	2	2	0
在宅療養指導数	0	0	0	2	0	9	20	6	9	16	7	18
外来ケモ数	2	1	1	3	4	2	6	9	8	5	7	6
認定看護訪問件数	2	2	0	2	2	0	1	2	1	2	2	4
入院前面談	29	37	39	20	21	39	29	33	18	32	22	21

## 【教育】

- ・継続して各自配信講義の視聴と活用（ラダー別配信講義の視聴）
- ・集合研修、OJT研修
- ・内視鏡検査、診療報酬に関する勉強会、褥瘡学会、褥瘡セミナー配信講義
- ・看護研究「病棟と外来の継続看護におけるスタッフの意識調査」

## 【今後の課題】

- ・専門性を発揮し、より質の高い医療、看護の提供ができる
- ・個々の業務拡大、スキルアップ
- ・タスク・シフト/シェアの取り組み
- ・意思決定支援（ACP）、インシデントカンファレンス、倫理カンファレンス開催
- ・入院時看護計画立案
- ・WLB推進活動継続
- ・退院後訪問の件数アップ
- ・病棟、地域をつなぐ退院支援強化



## 【2023年度活動計画及び実績】

1. 事業計画・予算達成による収益確保。① 的確な課題・問題点の洗い出し。毎月の予算・実績に対し精緻な精査・分析・検証を加え、具体的改善策を具申する。② キャッシュフローを重視し、新病院移転後の安定経営を維持する。  
⇒ コロナ関連収入（宿泊療養施設運営、休床・クラスター補償、ワクチン接種業務）が375,312千円あった一方、旧病院解体、職員駐車場整備、不動産取得税等で400,353千円を支出する一過性要因の多い年度であった。また特別収益（退職給付引当金戻入）49,787千円、特別費用（固定資産除却損）547,825千円は、キャッシュの増減を伴わない会計処理であり、これらを除くと当期剰余金は△40,575千円となる。更に減価償却費403,031千円を勘案すると、相応のキャッシュフローが確保でき、期末現金預金残高は前年対比+173,611千円増加した。
2. 新『健診センター』の機能・収益拡充。①時流に合致した健診内容・項目の見直しと、健康増進・疾病予防の周知。②新規顧客（利用企業・開業医紹介）開拓の営業強化。③開業医からの予約取得利便性改善に向けた関係部署間の連携。  
⇒ 新メニュー・脳ドックを新設し、8月より運用開始。りそな銀行グループとの契約締結、2024年度からの集客期待。関連部署との連携を緊密に取りながら、午後健診・1日人数枠拡大等の課題を解決していく。年間売上は、68,233千円（前年対比+9,864千円・+16.9%）を確保出来た。
3. システム管理・セキュリティーの整備強化。①2024年度の電子カルテ更新を見据え、PJチーム立ち上げと全体骨子を固める。②里全体のシステム構想を確立し準備を進める。④新しい勤怠管理システムを導入し、職員への丁寧な説明と業務効率化を推進する。  
⇒ 電子カルテ更新は、4社ベンダーからプレゼン実施。各職種の意見を集約しながら2社に絞り込み、総合的判断の下業者決定に至った。里全体ではGS掲示板を新設し、素早い情報共有の環境を整えた。新勤怠管理システムも順調に稼働し、各部署長の業務効率化に寄与。
4. 働き方改革の推進。①法令に準拠した勤務環境整備。働き方改革の真意を理解し、業務効率化・改善・生産性向上を推し進め、時間外勤務の圧縮に努める。  
⇒ 2024年度開始の「医師の働き方改革」は、医局会の協力も得て年度内に労働基準監督署の承認を得た。また、『しあわせを感じる職場づくり』プロジェクトを新設し、諸施策を講じ職場環境改善に努めた。時間外勤務については、部署によって改善と悪化の二極化が鮮明となり、問題意識醸成と検証を通してマネジメント力不足と構造的問題を見極める。
5. 危機管理体制の強化。①大規模災害に備える。法令に準拠した火災・避難実践訓練の継続実施。②新病院でのBCP（事業継続）計画を完成させ推進する。  
⇒ 年2回の防火・避難訓練実施。BCP計画については、上半期にたたき台を策定。下半期に感染対策・医療安全等の観点から肉付けを行い、年度内に完成させた。

## 【次年度の課題】

1. 今秋の電子カルテ更新とスムーズな業務移行が今年度の最重要テーマ。繰り返し事前実践研修を実施し、更新時期に備える。併せて、新システム導入に伴う業務効率化・生産性向上の成果を見極める。
2. 診療報酬改定にベースアップ評価料が新設された。賃上げ促進は、時節柄 不可避な課題であり、従来の目標管理制度と併用して運用していく。併せて、時間外勤務悪化部署の検証も強化していく。
3. 特に、看護・介護職種の適正人員確保に窮している。働きやすい環境整備と退職者の減少施策、職員紹介制度の有効活用を図り、紹介業者（2023年度フィー13件・11,440千円支払）を介した採用を極小化する。

# 医 事 課

## 【スタッフ】

常勤職員 10名 非常勤職員 2名

## 【目標】

- ① 病院経営の柱として、財務向上の意識を高める。
- ② 他部署間での情報共有と知識と理解と連携を深める。
- ③ 病院の基本理念に基づき、医療提供とともに新病院での患者の満足度を向上させる。
- ④ 院外・院内研修の積極的な参加。

## 【活動報告】

- ① マイナンバーカードでのオンライン資格確認の導入。
- ② 2024年度の診療報酬改定へ向けての情報の収集、研修への参加を積極的に行った。
- ③ 算定漏れのないように月2回他部署に診療報酬の研修会を項目ごとに行った。
- ④ 月1回の減点・返戻・減点報告と勉強会を開催し、減点の分析を行い再発防止に努めた。査定・減点を減少することを目標に、日々病名チェックの強化を図った。  
また、毎月1回減点・査定減・返戻された内容を医局会に報告、検討、異議のあるものには再審査を積極的に行い、収益増の取り組みと、課員のスキル向上を目指した。

## 【実績】

減点（円）

4月	5月	6月	7月	8月	9月
361,380	271,780	296,350	367,670	392,930	280,570
10月	11月	12月	1月	2月	3月
307,220	45,370	103,480	36,180	68,530	307,690

## 【教育】

- (院外) 株式会社メディウエル主催 「返戻・査定」基礎研修 8名受講  
株式会社医療情報システム主催 医療情報セミナー 2名受講  
滋賀県私立病院協会主催 診療・介護報酬改定研修会 2名受講  
日本病院協会・全国公私病院連盟主催 令和6年度診療報酬改定説明会 8名受講  
(WEB開催)  
滋賀県病院協会主催 第3回医事研究会 2名受講  
日本医療事務協会主催 令和6年度診療報酬改定セミナー 8名受講  
(WEB開催)

## 【今後の課題】

- ① 診療報酬の算定漏れがないよう、電子カルテとのマスタの紐付け等や無駄な病院持ち出し分を減らす対策と、算定可能な項目を洗い出し、他部門との連携を図るなどして算定できるようにする課題があり、今後も継続する。
- ② 月1回の減点・返戻報告と勉強会を行い、職員の知識向上を実施する。
- ③ 減点率の増加に伴い、積極的に再審査をかけ収入増に努める。
- ④ 未収金に関しては定期的に患者さんに連絡をとり、回収率の向上を目指す。今後も継続して病院経営の収入が増えるよう、未収金対策について検討する。
- ⑤ 課内のジョブローテーションの実施を行い、業務を分散化しスタッフのレベルの一定を目指す。
- ⑥ 2024年度の診療報酬改定にて算定可能な項目の分析、情報の収集を行い、新規算定可能な加算があれば他部門と協力し算定していく様に行う。
- ⑦ 2024年10月新システム導入を円滑に進めるため、システム部、ベンダーとの打ち合わせを密にし、マスタの紐付け等算定漏れがないように課内全員でチェックを行う。  
また、新システムの運用も円滑に進めるため課内にてシステム操作研修などを行い業務の支障を最低限に抑える。

# 管 理 課

## 【スタッフ】

常勤職員 6名、非常勤職員 5名（令和6年3月31日時点）

## 【運営方針】

1. 報告・連絡・相談の必励行  
～風通し・コミュニケーションのよい職場環境、他部署との連携強化と院内外情報共有～
2. 李下に冠を正さず  
～法令・規律・ルール遵守、正々堂々・公明正大、心に曇りのない誇れる仕事～
3. 一線完結主義、人格の陶冶、ポジティブ志向能力の醸成  
～自覚と責任感、当事者意識の醸成、診療部とのコンセンサス、自らの能力に上限なし、貪欲に一步上を目指す努力～

## 【活動報告】

- ・新型コロナウイルス関連の物品を中心に安定確保することができた。
- ・新築後の病院について機能性など常に意見聴取を行い、保全に努めた。
- ・ドクターの働き方改革の法律改正に伴い、監督官庁宛対応等の対応を万全に行った。
- ・風通しの良い職場を標榜し「しあわせを感じる職場づくり」と題して、各種施策、職員との情報交換などを実施した。
- ・ペーパーレス化の推進として職員向け勤怠管理システムを導入、給与支給明細の電子化を進めた。
- ・旧病院解体、職員駐車場整備工事に関し、各種業者折衝、職員周知、近隣住民対応等、無事故・安全配慮を主導した。

## 【実績】

### ① 一般経費関係

(単位：円)

科目(経費)	令和4年度	令和5年度	増減
職員被服費	8,790,596	8,559,686	▲230,910
通信運搬費	7,367,739	7,059,600	▲308,139
消耗品費	31,395,120	23,789,179	▲7,605,941
消耗器具備品費	44,762,404	4,541,134	▲40,221,270
水道光熱費	63,501,637	60,536,606	▲2,965,031
事務・図書印刷費	172,802	33,000	▲139,802
燃料費	13,421,423	9,191,092	▲4,230,331
修繕費	6,124,089	10,160,902	4,036,813
雑費	3,757,782	5,859,497	2,101,715
車両関係費	812,234	1,453,291	641,057
器械賃借料	22,072,895	21,059,857	▲1,013,038
合計	202,178,721	152,243,844	▲49,934,877

### ② エネルギー関係

(単位：円)

	令和4年度		令和5年度	
	使用量	金額(円)	使用量	金額(円)
電気 旧病院	1,431,435 (kwh)	35,753,834	712,384 (kwh)	15,371,371
電気 新病院	751,008 (kwh)	22,293,900	1,595,181 (kwh)	36,116,900
上水道 旧病院	18,944 (m <sup>3</sup> )	4,731,056	10,292 (m <sup>3</sup> )	2,542,100
上水道 新病院	4,310 (m <sup>3</sup> )	729,720	9,211 (m <sup>3</sup> )	2,211,187
下水道 旧病院	9,228 (m <sup>3</sup> )	1,813,939	5,557 (m <sup>3</sup> )	1,047,266
下水道 新病院	4,310 (m <sup>3</sup> )	584,275	9,211 (m <sup>3</sup> )	1,773,628
灯油	46,000 (L)	4,094,000	4,000 (L)	387,200
LPG (新病院)	5,601 (m <sup>3</sup> )	1,507,172	15,399 (m <sup>3</sup> )	3,936,001
LPG (ホスピス)	22,849 (m <sup>3</sup> )	5,040,339	10,644 (m <sup>3</sup> )	2,500,389
LPG (栄養科)	3,948 (m <sup>3</sup> )	1,527,715	6,106 (m <sup>3</sup> )	2,357,326
合計		76,568,778		68,243,368

## ③ SPD在庫推移

(単位：円)

	5 / 4月	5月	6月	7月	8月	9月
SPD 倉庫 在庫合計	5,505,020	6,969,792	6,382,716	6,246,544	6,564,052	6,236,788
前年対比	392,625	2,405,732	2,070,537	2,001,184	2,037,521	1,875,860
部 署 在庫合計	6,932,071	5,657,135	5,719,870	5,748,615	5,834,395	5,799,271
前年対比	1,693,440	410,337	261,518	559,818	409,722	339,835
合 計	12,437,091	12,626,927	12,102,586	11,995,159	12,398,447	12,036,059
前年対比	2,086,065	2,816,069	2,332,055	2,561,002	2,447,243	2,215,695
	5 / 10月	11月	12月	6 / 1月	2月	3月
SPD 倉庫 在庫合計	6,627,544	5,958,216	7,796,268	7,347,870	8,027,743	7,671,795
前年対比	1,818,521	▲ 1,251,548	2,264,725	1,530,245	2,349,937	2,009,930
部 署 在庫合計	5,715,508	5,649,296	5,806,784	5,766,457	5,863,274	5,759,225
前年対比	▲ 1,552,734	783,557	▲ 1,538,023	▲ 1,613,468	310,137	▲ 37,735
合 計	12,343,052	11,607,512	13,603,052	13,114,327	13,891,017	13,431,020
前年対比	265,787	▲ 467,991	726,702	▲ 83,223	2,660,074	1,972,195

## ④ 院内保育所における経費

(単位：円)

	5 / 4月	5月	6月	7月	8月	9月
支払額	1,546,600	1,529,000	1,507,000	1,520,200	1,498,200	1,493,800
	5 / 10月	11月	12月	6 / 1月	2月	3月
支払額	1,378,000	1,366,000	1,386,000	1,370,000	1,378,000	1,354,000

	令和4年度	令和5年度	増減
年間支出合計	18,612,600	17,326,800	▲ 1,285,800
補助金計	▲ 3,000,000	▲ 3,000,000	0
年間保育料	▲ 2,719,380	▲ 1,897,470	▲ 821,910
差引	12,893,220	12,429,330	▲ 463,890

**【教育】**

- ・オンラインセミナーを中心とした研修への参加。
- ・OJTによるスキルアップ。
- ・複数業務への対応スキル習得に努めた。
- ・インボイス制度、医師働き方改革等法令改定に伴う知識習得に努めた。

**【今後の課題】**

- ・昨今の物価高騰に鑑み、聖域を設けず各方面での経費削減を実行する。
- ・新築された病院の機能性をさらに高めるよう注力する。
- ・患者さまの満足度をさらに高めるためにCSの施策と職員満足度を高めるESの施策を管理課から発信できるように注力する。



# 医療情報管理課

## 【スタッフ】

診療情報管理士兼医局秘書（1名）

システム管理者（2名）

医療クラーク（7名うち非常勤2名） 計10名

## 【目標】（大分類）

- ① 電子カルテ更新プロジェクト始動。
- ② 医師の働き方改革に伴い、医師の業務量削減へ貢献する。
- ③ 診療情報管理室の業務を再度精査し、作業のボトルネックを解消する。業務効率を最大限アップできるように、業務改善を行う。

## 【活動報告】

### ■診療情報管理室

- ① カルテ開示関連 14件

### ■システム室

- ① 電子カルテ更新プロジェクト始動。  
2023年4月24日 電子カルテ更新プロジェクト キックオフ  
毎月1回会議を開き活動開始。
- ② GSの活用。  
2023年7月3日より、情報伝達手段としてGS掲示板の活用を開始。里全体掲示板も作成し活用開始。

### ■診療支援室

- ① 医師事務作業補助者の業務拡大、医療の質向上、チーム医療推進に寄与。
- ② 知識向上にも意欲的に関わり、スキルアップと質向上に努めた。

## 【教育】

- ① 医師事務作業補助者テキスト研修
- ② 2023年12月2日 日本医師事務作業補助者協会 岡山県地方会  
「迫る医師の働き方改革！2024年の先にある医師事務作業補助者教育のあり方を考える」
- ③ 医事課と共に勉強会を開催。診療報酬算定などの詳細を学び、業務に活かす。

## 【今後の課題】

- ① 機能評価に向けたカルテ記載の整理。
- ② 電子カルテ更新をスムーズに実施するため、新システムの操作方法を学び、業務に支障が出ないように事前準備を行う。
- ③ 業務の規定、マニュアルの整備。システム更新に伴いマニュアルを更新する。
- ④ ミスの無い作業の実践。ミス一つで作業効率ダウンとなることを意識。

# 健 診 セ ン タ ー

---

## 【スタッフ】

常勤職員 3名 非常勤職員 2名

## 【目標】

- ① 売上目標 65,850 千円（期初 60,850 千円から上方修正）を達成する。
- ② 過去の慣習、慣例にとらわれず変化を起こす。
- ③ 業務の効率化と快適な職場環境を構築する。

## 【活動報告】

- ① 医事課から独立した部署として組織改編が行われる。それに伴い、健診室から健診センターへ名称変更となる。
- ② 1日の健診受診者上限を10名から12名に引き上げた。
- ③ 8月より、脳ドック単独メニューを新設した（脳ドックレギュラーコース）。
- ④ 健診システムを更新した。
- ⑤ 1月のスタッフ1名退職に伴い、11月より1名補充。
- ⑥ コロナ5類移行に伴い、肺機能検査を再開させた。
- ⑦ 大小問わず、36の改善を行った。

## 【実績】

- ① 売上実績は68,224千円となり、目標をクリアすることができた。
- ② 受診者数は、前年度より555名の増加。
- ③ 8月よりスタートした脳ドック（レギュラーコース）は15名の方に受診いただいた。

## 【教育】

- ① OJTにて、不足している能力を補完し合いスキルアップを行う。
- ② 健診センター運営ノウハウ交流会に参加し、他施設の情報を収集しスタッフで共有する。

## 【今後の課題】

- ① 午後健診の仕組み作り。
- ② 受診者様が効率的に健診を行ってもらうための仕組み作り。
- ③ 1日の健診枠を拡大させるための環境整備。
- ④ 魅力ある健診メニューの新設。

# 地域療養支援部総括

## 【2023年度 活動目標・計画及び実績】

〈理念〉 私達は、「地域と病院」「患者と地域の暮らし」をつなぎ、地域医療の向上に努める。

### 〈目標〉

- 1) 医療・地域の動向を捉え健全経営に貢献する。
- 2) 地域包括ケアシステムの中で、中核的役割を果たし、質の高い医療・保健・福祉支援を実践と生活支援サービス提供を行う。
- 3) 地域・法人内多職種との連携強化を行い、個々の専門性の向上を図る。
- 4) 人・モノ・金に関する情報を管理・可視化し、病院の顔として貢献する。
- 5) やりがいがあり、働きやすい職場環境の整備を図る。

### 〈実績〉

#### 財務の視点

今年度は5月より COVID-19 感染症が5類となり、通常の病床運用に切り替え、院内感染マニュアルを励行しながらコロナ感染患者も含め、外来患者、紹介患者受け入れ入退院調整を行った。予算達成に向けた戦略会議を定例開催し、実績を基に現状分析、戦略目標を提案しながら目標数値達成に貢献した。また、システムを統一化し、168床の入退院のバランスを考慮しながら各病棟稼働アップに貢献し、ベッドコントローラーとしての役割を果たした。

#### 顧客の視点

在宅療養支援病院として、地域包括ケアシステムの核となり近隣の診療所と連携しながら訪問診療拡充を目指し、訪問診療の医師1名増員、専従看護師の配置（1月から2名体制）を行い体制の再構築を図った。

院内外より在宅医療継続のための訪問診療依頼はコンスタントにあったが、昨年度より3割減の79名であった。要員としてはコロナによる面会制限が緩和してきたことで在宅思考もやや緩和したと思われる。在宅看取り件数は年間34件であった。

感染症対策としてコロナワクチンの予防接種事業への参画や、予防事業として、隔月の広報誌や、ホームページで発信するほか、感染対策や開催時期を充分配慮しながら地域住民向けの出前講座を継続して開催した。

#### 業務プロセスの視点

BSC モニタリングシートを活用した業務管理を行い、各目標課題に向けて取り組んだ。当部門が中心に毎日のミーティング、毎週の病床運用会議を開催し、急性期、回復期、慢性期、終末期の機能168床すべてを活用できる連携体制強化を図った。

5年ぶりに連携病院、開業医との医療懇談会を開催した。今後も年間1回は開催し、トピックスの発信、情報の共有を行っていきたい。

# 地域療養支援部総括

## 学習と成長の視点

部内での症例検討会を実施し、倫理的視点も含めた入退院支援の振り返りを行った。  
県・医療圏・市町連携会議にも継続して参加し、新情報の院内発信等役割遂行に貢献した。  
患者サービス向上・質改善に向け、病院の窓口として、接遇含むスムーズな電話対応について部全体で取り組んだ。

(院外研修)

- ・高次機能障害専門研修フォローアップ研修 2名
- ・滋賀県医療ソーシャルワーカー会初任者研修 1名
- ・退院支援機能強化研修 1名
- ・滋賀県医療ソーシャルワーカー研修会 1名

## 【今後の課題】

- ・診療報酬改定に伴い、経営的視点をもって病床編制も含めた戦略提案を発信する。
- ・実績からの分析・評価し、組織編成を柔軟に行い、当院の目指す「地域貢献」を推進する。
- ・地域住民向けの市民公開講座の開催を行う。
- ・近隣の病院、開業医との研修会、勉強会、懇談会の開催を行う。
- ・渉外活動を詳細化しながら拡大推進し、病院の顔として活動する。
- ・在宅療養支援強化のため、訪問診療拡充に向けてメンバー構成体制強化に取り組む。

# 病 診 連 携 課

## 【スタッフ】 5名

看護師 1名 <うち課長1名含む> 社会福祉士 3名 事務員 1名

## 【目標】

1. 2024年度診療報酬の改定を見据えて当院の病院機能を理解、活用する。他部門との連携を強化し病診、入退院業務などを通して病院経営に貢献する。
2. 通院患者、入退院患者、家族に対して、地域包括ケアシステムの中で、専門性を活かした質の高い医療・保健、福祉の実践と幅広い生活支援サービスの提供を行う。
3. やりがいがあり、働きやすい職場環境整備を図り、職員個々の能力が発揮でき自己啓発に繋げられる。

## 【活動報告】

### 《目標1》

- ① 週1回病床運用会議を開催し、紹介患者のスムーズな受け入れを実践した。
- ② 毎朝、多職種ミーティングを行い、入退院状況と空床を共有し、病床稼働安定に努めた。
- ③ 入退院の動向、加算関係、病診のデータを可視化し、職員間で情報共有、周知に努めた。
- ④ 算定可能な加算の取得、取り漏れをなくすよう職員で経営参画に努めた。

### 《目標2》

- ① 各病棟の特殊性を理解した上で幅広く対応ができ、患者、家族が安心して在宅生活を継続できるよう、病棟専任者の社会福祉士と入退院支援専従看護師それぞれの専門性を活かして患者が抱える課題に入院時より介入し、退院支援に関わることができた。
- ② 職員育成のための院内講師を行った。
- ③ 地域連携推進のための院外の研修会および会議に積極的に参加し、連携強化に努めた。
- ④ 各パス会議の会議参加、他病院との連携強化に努めた。

### 《目標3》

- ① 個々のキャリアに合わせた目標設定とそれに向けて取り組めるよう定期的に個人面談を実施しスキルアップのための支援を行った。
- ② 職員個々のスキルアップを目的に、社会福祉士、看護師それぞれの専門性の向上の為、部内、課内勉強会、症例検討会、倫理カンファレンスを行った。
- ③ 個々の活動の中で加算算定に繋がる取り組みが、やりがいにつながるよう毎月の実績を可視化し情報の共有を行った。
- ④ 業務マニュアルの見直し、システム作りの強化を行った。

## 【教育】

- ・学研ナーシングサポート配信講義の視聴
- ・地域療養支援部内勉強会
- ・地域療養支援部における症例発表
- ・院内外研修、研修会報告

## 【実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入退院支援加算 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	98.5	100	100	100
相談件数 (件)	99	98	90	73	98	123	93	102	97	125	104	113
カンファレンス数 (件)	258	226	231	251	233	260	236	256	290	234	262	294
介護指導連携 (件)	8	12	14	9	4	4	5	7	6	6	7	5
面談件数 (件)	155	136	130	129	132	145	95	97	108	123	129	146

## 【今後の課題】

- ① 地域療養支援部として、業務拡大を進め、他部署と連携し業務マニュアルの見直し、追加、修正を行う。
- ② 入院調整、退院後訪問、訪問診療、通院など地域看護科との連携強化
- ③ 紹介患者の増大に向けて他病院、医院からの紹介の確保、受け入れに向けての病棟との連携、病床稼働運営の安定化、企画渉外課との営業にむけての連携強化、情報発信共有
- ④ 紹介から受け入れまでの期間や、キャンセル内容を評価し、紹介率の向上、部内での検討、評価、院内への情報発信
- ⑤ 戦略会議目標課題への取り組み
- ⑥ 残業時間の短縮、フレックスタイムの導入
- ⑦ 診療報酬改定に伴い、変更内容の把握、業務分担、他部署との業務内容の確認

# 企画渉外課

## 【スタッフ】

常勤職員 3 名

## 【目標】

- ・地域における患者ニーズの分析や役割（機能）を認識し、地域包括ケアシステムにおける当院の特色を活かす。
- ・地域の医療機関や介護事業者が利用しやすい環境を作るため、地域連携（病病・病診）の推進を進める。
- ・収支の黒字体制を確立するよう、病院の健全経営に寄与する。

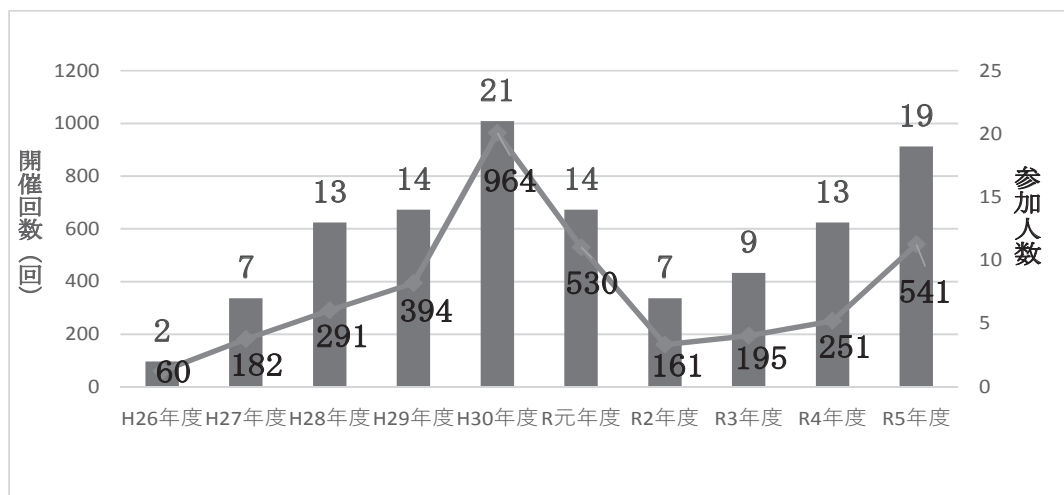
## 【活動報告】

- ・セコム SMASH を活用し、企画渉外課としての情報分析、提言を行った。
- ・地域への出前講座を継続し開催する。地域啓発・フレイル予防を行う。
- ・地域開業医への連休時看取り対応を行った。
- ・年報の作成・編集業務及び発送を行う。
- ・病院広報誌「ヴォーリズだより」、開業医に向けての広報誌「ニュースレター」の編集、発行を行う。
- ・地域医療機関との病診・病病連携を推進した。
- ・3月に近江八幡・蒲生郡医師会を対象に医療懇談会を会場参加と ZOOM 参加のハイブリット形式で行った。

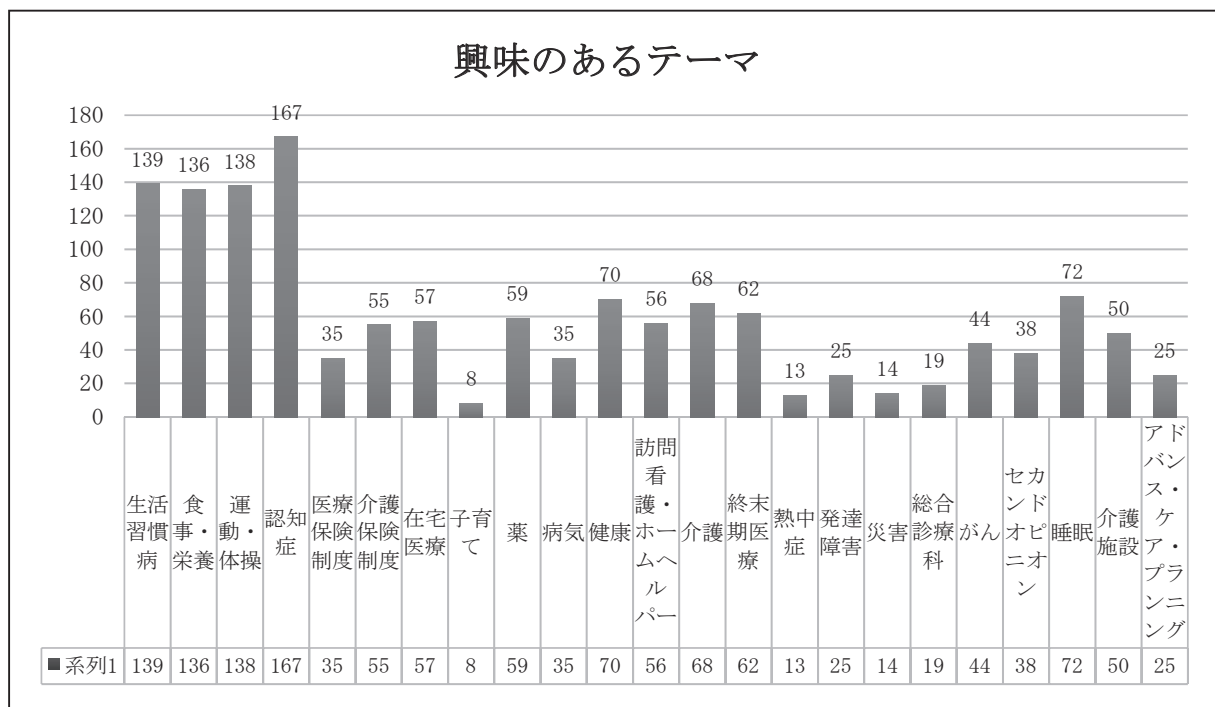
## 【実績】

- ヴォーリズだより、ニュースレターを発行 年間 6 回
- 医療懇談会 参加医療機関：会場参加 5 施設 ZOOM 参加 11 施設
- 年報、クリスマスカードの編集、発行 年間 1 回
- 2023 年度「出前講座」の実施（計 19 回、参加者：541 名）

### ●過去の開催実績



●出前講座アンケート



**【教育】**

< 院外研修 >

- ・三方よし研究会主催 Web研修
- ・滋賀県災害時要配慮者支援ネットワーク会議
- ・滋賀県医療ソーシャルワーカー協会研修

**【今後の課題】**

- ・患者目線、地域目線での広報活動を行う事で、より親しみやすいヴォーリス記念病院のイメージを定着させる。
- ・隣接する圏域の病院訪問を定期的に行う、情報共有と連携を図り、スムーズな患者紹介に繋げる。
- ・病院、開業医との連携強化を目標とし、スムーズな入院・検査・診察の受け入れができるように調整を行う。
- ・セコム SMASH の活用など情報管理分析のスキルアップを行う。
- ・出前講座を継続・拡充する。
- ・医療懇談会の開催を行う。
- ・市民向けの公開講座を行う。
- ・Webでの研修会・勉強会開催、地域との連携を深める方法を模索する。
- ・開業医等に向けてニュースレターを発行する。



# 医療安全管理室総括

## 【スタッフ】

常勤職員 4名

(医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者 各1名)

## 【目標】

安全を最優先に考え、他職種連携による支援体制により重大事故を未然に防止できる組織

## 【活動報告】

安全管理体制を組織内に根づかせることで、安全文化の醸成を促進し、患者及び職員の安心・安全な医療の提供に繋がるよう働きかけた。安全管理に関する院内の体制の構築、委員会等の各種活動の円滑な運営を支援した。また医療安全に関する職員への教育・研修、情報の収集と分析、対策の立案、事故発生時の対応、再発防止策立案、発生予防および発生した事故の影響拡大の防止等に努めた。

医療安全体制としては、医療安全管理体制加算1の算定要件の遵守を行い、医療安全に係る状況を把握し、その分析結果に基づいて医療安全確保のための活動を実施している。

## 【実績】

1. 月1回の委員会開催運営（資料作成・司会・書記・議事録）必要に応じ、委員会メンバー以外の参加を依頼した。緊急性を要する状況に応じて臨時委員会を1回開催した。
2. 推進カンファレンス開催（毎週木曜日）。必要に応じ、個別の事例に対して現場の状況確認、ヒアリングを行い、業務改善を検討および依頼した。
3. 離院・離棟への対応マニュアル運用状況を医療安全管理委員会で報告・確認
4. 年2回の医療安全研修の企画と運営  
第1回医療安全全体研修  
対象者：病院・在宅部門膳職員 参加率：63.4%  
テーマ：コミュニケーションエラー  
「令和4年度インシデント・アクシデント報告と総括」  
配信講座のみ（期間：7月15日～10月17日）  
第2回医療安全全体研修  
対象者：病院・在宅部門膳職員 参加率52.4%  
テーマ：レポートは再発防止に大活躍  
集合研修2回（2/20・2/21）及び配信講座（期間2月21日～3月2日）
5. BLS 研修（在宅部門・老健センターも合同参加）  
期間：令和5年12月6・13・20日の3日間
6. コードブルー訓練（傷病者発見からBLSを行い救急初療室へ搬送）  
2023年2月28日 16:00～
7. 新人オリエンテーション実施：テーマ：医療安全の取り組み4月4日（火）

# 医療安全管理室総括

8. 医薬品安全管理者による年1回の研修の企画と運営（診療技術部で報告）
9. 医療機器安全管理者による年1回の研修の企画と運営（診療技術部で報告）
10. 医療用放射線安全管理者による年1回の研修の企画と運営（診療技術部で報告）
11. 医療事故報告システムの運営（情報収集と分析、対策立案、フィードバック、評価）
12. リスクマネジメント部会の資料作成（各月ごとの統計分析結果と伝達事項）
13. 月1回の院内5Sラウンドの実施と評価
14. 各部署へのカンファレンスの参加
15. 医療安全管理・医薬品安全管理・医療機器安全管理マニュアルの改訂
16. 入院患者相談窓口：医療対話推進者（医療メディエーター）直接対話
17. 医療安全情報の配信、関連部署へ共有
18. 院内ラウンド1回/日
19. 医療安全管理加算算定要件の遵守（委員会・推進カンファレンス参加者の管理）
20. 倫理委員会の参加
21. 安心サポートシューズの紹介。売店で毎月1～4足の購入実績あり。

## 【自己啓発】 院外研修への参加

- 1) 個人情報について 滋賀県看護協会主催
- 2) 医療安全に関するワークショップ 近畿厚生局主催
- 3) 第18回 医療の質・安全学会学術集会

## 【今後の課題】

1. 職員のリスク意識向上に向けた研修、教育の実施  
全体研修参加率向上、コードブルー・ALS等院内研修、患者離院など緊急時対応訓練の検討
2. 医療事故調査制度院内体制の整備（医療安全管理マニュアル内全ての見直し）  
医療事故調査・支援センターへの報告・相談および連携
3. リスクマネージャーの指導力アップと継続した教育
4. 転倒転落重大事故防止に向けた検討
5. インシデント報告システム e-Power/CLIP の使いやすいカスタマイズと運用の統一

# 礼 拝 堂 総 括

## 【スタッフ】

チャプレン1名（常勤）

## 【目標】

1. キリスト教の愛の精神（隣人愛・奉仕の業）の涵養と具現化を目指す。
2. 祈る病院、祈られる病院、そして祈る里、祈られる里を目指す。
3. 患者様とご家族のケア、及び QOL の向上

## 【活動報告】

1. 始業礼拝、各礼拝、文書伝道を通してキリスト教の愛の精神を分かち合った。日曜礼拝は里外部からの参加者を制限し継続。毎回、患者様・ご家族・職員を心に留め、出席者全員で黙祷する時間を持った。
2. 1日の働きを各病棟（月：ホスピス、水：一般病棟、木：回復期リハビリテーション病棟、金：医療療養病棟、土：ホスピス）でのお祈りから始めることができた。
3. 新病院チャペルにて患者様の QOL の向上を願い、展示会を 11 回開催した。また、祈りの部屋には、月毎に変わるお祈りと聖書のメッセージを設置した。
4. 近江兄弟社グループ、及び、地域キリスト教からの依頼に応え、福音を分かちあった。

## 【実績】

1. 礼拝：始業礼拝（毎月）、日曜礼拝（毎週）、開院記念式礼拝 5/25
2. 文書伝道：『週間サナニュース』（毎週）、『湖畔の声』祈り、  
『ヴォーリズだより』チャプレンだより（隔月）
3. チャペル展示会 11 回（絵画展、近江兄弟社こども園の作品展、トールペイント展等）
4. 近江兄弟社恒春園：納骨式礼拝 5/13 記念式礼拝 5/13
5. 老健センター：祝長寿・敬老の集い お祈り 9/15、開設記念礼拝 3/1
6. クリスマスメッセージ：友愛の家 12/20、12/21・回リハ 12/21
7. 近江兄弟社牧師会 7/14、3/21
8. 近江兄弟社創立記念式礼拝 2/2
9. 就労移行支援事業所 ワークステーションヴォーリズ開所記念式礼拝 4/5
10. ケアハウス信愛館：礼拝・誕生者祝福祈禱（毎月第 3 金曜日）、クリスマス礼拝 12/15
11. ツッカーハウス献堂 105 年記念礼拝 5/14
12. 株式会社近江兄弟社 山面第 2 工場 定礎式 10/23 竣工式 12/2、  
経営計画発表会開会礼拝 3/23
13. 滋賀 YMCA クリスマス礼拝 12/10
14. 近江兄弟社高等学校（単位制）クリスマス礼拝 12/23

## 【今後の課題】

1. 近江兄弟社内外で新しい関係性を構築し、祈り、支えてくださる協力者を得る。
2. 多職種で協働し、患者様・ご家族・ご遺族のケア、QOLの向上に取り組む。

# 就労移行支援事業所ワークステーションヴォーリス 総括

当事業所は、『ヴォーリスメモリアルヴィレッジ構想』の第1弾として、今年の4月に開設したばかりの障害福祉サービスで、市内に1つだけの就労移行支援事業所である。障害があっても健常者と同じように地域で自立した生活を営むことができるよう、一般就労（障害者雇用を含む）を目指していただくための支援を目的としている。

## 【場所】

旧ヴォーリス記念病院東館（メレル館に改名）3階

## 【スタッフ】

管理者（サービス管理責任者・生活支援員・看護師）の他、5名（サービス管理責任者、就労支援員、生活支援員、職業指導員）で支援している。介護福祉士や公認心理師などの専門職の資格がある者が、その知識・技術を活かしながら日々のプログラムにも取り入れている。

## 【目標】

『「隣人愛」の心で、誰もがいきいきと働けるように支援します。』をコンセプトに、定員20名を目標に支援している。また、就労後半年間は企業側との連携を取りながら、継続して働けるよう支援もしていく。

## 【活動報告】

開設準備期間が4ヶ月延長してしまったため、広報活動に出遅れたが、市内をはじめ近隣の相談支援事業所や自治体、ハローワークや医療機関、特別支援学校や発達支援センター、引きこもり支援団体など挨拶回りをしていった。高校生や養護学校生、相談支援員などを対象とした見学会や体験イベントを夏、冬、春と3期に数回ずつ開催し、訓練内容の認知にも努めた。地元企業数社からの受注品も訓練として取り入れ、病院のセントラルキッチンや老健センターをはじめ施設外訓練もプログラムに取り入れた。

利用者数は定員20名の半分しかなかったが、日々のプログラムには「個別性」を重視し、事務補助訓練や幕張ワークサンプルを使用してのスキルアップや自主勉強の時間も取り入れた。また、面談やグループワークなどを通してソーシャルスキルトレーニングをしながら、自身の弱いところや強みを知ってもらう機会を設けた。

開設初年度ではあったが、ハローワークや働き・暮らし応援センター・企業担当者との連携をしながら、就労前の体験実習を経て年度末には2名就労（復職を含む）が決定した。

# 就労移行支援事業所ワークステーションヴォーリス 総括

## 【実績】

開設初年度にて就労実績がないため、計画どおりに利用者の確保ができなかった。しかし、一人ひとりの利用日数が着実に増えてきていることは評価したい。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新規利用者	0	1	0	3	2	1	1	2	0	1	0	0
目標利用者	0	1	1	4	5	6	8	9	10	12	14	15
実利用者	0	1	1	4	6	7	8	10	10	10	9	10
平均年齢	0	62	62	37	42	42	46	41.5	42	35.8	36	36
利用日数合計	0	12	18	56	73	68	111	147	164	137	152	154

## 【教育】

障害福祉サービスについての知識や技術が未熟であるため、様々な関係機関からの助言・指導を受けながら、個々の職種の能力向上に努めた。また、サービス管理責任者の実務研修や就労支援専門員基礎研修にも参加し、制度改定についての勉強会なども実施した。

## 【今後の課題】

今年度の体験実習の内容とアセスメントを評価していただき、利用に繋がるように各自治体の障害福祉課や相談支援事業所、特別支援学校からの見学・体験の紹介を今後も引き受けていきたい。また、支援員のアセスメント能力と支援する力は向上できるよう努めたい。

# 在宅サービス部門総括

## 【2023年度活動計画及び実績】

各事業所とも協力し、事業休止することなく健全な運営に取り組んだ。新規依頼も可能な限り積極的に受け入れたが、人手不足もあり、4事業所全体の純利益は15,295千円となった。

訪問看護は、常勤換算11.7～9.7名で経過した。訪問件数は8,246件で昨年度と比較して-1,192件となった。看取りをした利用者数は11名で、ターミナルケア加算も11名算定出来た。医療保険の「機能強化型訪問看護管理療養費1」と介護保険の「訪問看護体制強化加算I」は今年度も取得できており、純利益は10,709千円となった。

ヘルパーステーションは、サービスの定着も難しい状況にあったが、協力して事業を休業することなく継続できたが、人員不足もあり新規依頼も断らざるを得ない状況となり、純利益は△2,847千円で目標収益は達成できなかった。

居宅介護支援事業所は、新規利用者81名を受け入れることができた。その内訳として、在宅39名、ヴォーリズ関連施設13名、地域包括支援センター14名、他居宅13名、他医療機関2名であった。皆の協働のもと、特定事業所集中減算に該当もなく、純利益3,307千円で、適正な運営ができた。

友愛の家ヴォーリズは、15名の新規利用者を受け入れたが、終了ケースも多く月平均登録21.5名・年間平均介護度は3.2・看多機としての看取りは3名であった。サービス提供体制加算や訪問体制強化加算も継続して取得。訪問看護事業では、訪問利用者数が年度末32名（医保9名、介保23名）、月平均訪問件数166件。ターミナルや頻回の訪問が必要な方の依頼も増え、医療保険での訪問が多く、5名の方を在宅で看取らせていただいた。全体として純利益は4,126千円となった。

2023年度も職員不足はかわらず、地域から必要とされている「在宅サービス部門」を継続していくための人材確保が課題となっている。また、職員の定着化に向け、WLBの推進と実現に取り組み、法人内の一体的管理に協力しながら、法人内のいかなる事業体においても「ヴォーリズ精神」を受け継ぎ、地域住民が最期まで安心して暮らせる「街づくり」に貢献し、地域住民の生活に近い存在としてニーズに応えていきたいと考える。

## 【次年度の課題】

2024年度は、医療・介護・障がいのトリプル改定の年でもあり、それぞれの制度の情報収集と内容の理解をした上で事業計画にそって経営の安定化を目指す。また、BCP（事業継続計画）は、災害発生や感染症の流行した時も事業が継続できるようシミュレーションの実施や定期的な見直しをしていく。引き続き協働し組織力を高めながら休業することなく安定した運営を継続できるようにつとめたい。また、里内の各事業体とも協力し、ヴォーリズカラーを発揮し、地域に向けての更なる支援強化としていきたい。

# 訪問看護ステーション ヴォーリス

## 【スタッフ】

管理者（正看護師）1名、正看護師15名（常勤10名、非常勤5名）、理学療法士2名（非常勤2名）、事務職員2名（常勤1名、非常勤1名）

## 【目標】

1. 創設者W.M.ヴォーリスの基本理念に基づき、「里」内の機能を充分発揮できるよう連携しながら、より地域から信頼される訪問看護事業所を目指す。
2. 年齢を問わず医療依存度の高い重症ケースや難病や認知症等の困難ケースなどにも積極的に対応できるよう体制を整え、満足していただける質の高い訪問看護を目指す。
3. 法人の経営方針に沿い、収益の向上と経営の安定化を目指す。
4. 職員一人ひとりの能力の向上のための教育・研鑽の推進と人材育成に努める。

## 【活動報告】

4月に常勤看護師1名が入職、6月と8月に常勤看護師が退職し、常勤換算11.7～9.7名で経過した。訪問件数は8,246件で昨年度と比較して△1,192件となった。看取りをした利用者数は11名で、ターミナルケア加算も11名算定出来た。

医療保険の「機能強化型訪問看護管理療養費1」と介護保険の「訪問看護体制強化加算I」は今年度も取得できており、純利益は10,709千円となった。

## 【実績】

### ①訪問件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医保	310	328	295	302	294	302	275	296	281	250	280	282	3,495
介保	409	489	430	418	438	378	368	400	371	335	346	369	4,751

### ②訪問件数比率（%）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
医保	43	40	41	42	40	44	43	43	43	43	45	43	43
介保	57	60	59	58	60	56	57	57	57	57	55	57	57

訪問件数（医療・介護保険）比率は、4:6と介護保険の方が多く重症度も高かった。前年度に比べ、介護保険での訪問は-1,010件、医療保険では-182件であった。緊急対応は14～48件/月の緊急訪問と11～65件/月の緊急電話対応を行った。

また、ヴォーリス記念病院からの訪問看護指示書発行は約35～41%で、新規利用者の49%はヴォーリス記念病院の患者であった。

## 【教育】

外部研修では、ほとんどがオンライン研修であったが「看護記録の質の向上」「訪問看護初任期研修」「訪問看護管理者研修 緊急電話の待機当番について」「ゼロからはじめる人生会議」「暴力・ハラスメント対策」等、多くの研修に参加し、知識・技術の向上に努めることができた。

看護研究については、訪問看護ステーション連絡協議会の事例発表会があり、1事例発表を終えた。

教育面に関しては、2校3学科の学生実習を受け入れた。また、病院勤務の看護師の退院支援に関する実習についても4名受け入れした。

## 【今後の課題】

退職者が多くスタッフ数が減少したが、限られた人材の中で協力しながら後半は安定した事業運営が継続できた。しかし、地域のニーズに柔軟に対応し、要望があった際には迅速に受け入れが出来るような体制を目指すためには、看護師常勤換算12～13人が維持できるように人材確保をしていく必要がある。

各自がやりがいを感じモチベーションを向上させられるような職場環境づくりに努め、WLBの実現に取り組んでいきたい。

また、BCP策定については今年度完成し、次年度はシミュレーション等も行いながらブラッシュアップし、災害に備えた取り組みも日頃から行い、災害発生時にも事業継続ができるよう考えていきたい。



# ホームヘルパーステーション ヴォーリス

## 【スタッフ】

管理者（介護福祉士・サービス提供責任者）1名

介護職8名（介護福祉士6名 実務者研修1名 介護職員初任者研修1名）事務員1名

## 【目標】

- ① 喀痰吸引（認定行為業務従事者）ができるヘルパーが5名と資格習得に力を入れ、質の高いチームケアを行い、重症ケースにも対応し、収益に繋げる。
- ② 住み慣れた地域で最期まで暮らせ、個々のニーズにも応えられるよう自費サービス事業の定着を目指す。
- ③ 働きやすい職場を目指すとともに、安全運転や職員の健康管理にも留意しながら勤務体制を整える。
- ④ 感染予防を徹底し感染拡大を防ぎ事業が継続できるようにする。

## 【活動報告】

2023年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、サービスの定着も難しい状況にあった。職員の引継ぎをしながらの訪問などで忙しい中、事業を休業することなく継続できたが、人員不足もあり新規依頼も断らざるを得ない状況となり、前年度に比べ減少している。純利益は△2,847千円で目標収益は達成できなかった。

## 【実績】 訪問回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	724	691	646	697	672	632	684	632	614	581	612	568
障害	119	159	128	138	160	152	133	136	140	126	131	115
新規	0	0	0	3	3	2	0	1	0	1	1	0

## 【教育】

内部研修については、全員参加。外部研修に関してはオンラインによる参加はできた。今後は、個別の目標に応じた外部研修や資格取得に向けた研修を積極的にすすめていく。

実務者研修修了者1名。

## 【今後の課題】

介護職員9名中6名が介護福祉士資格を習得し、内5名が喀痰吸引できるヘルパーとして登録し、医療依存度の高い人でも最期までご自宅で生活が送れるよう支援する事業所として、特色づけていきたい。また、自費サービスも定着できるようアピールしていくとともに、障害のサービスの幅も広げていきたい。引き続き、働き方を考えていくうえで、人員確保や登録ヘルパー制度の導入を検討する。

業務継続計画（BCP）は全職員に段階的に周知徹底できるように取り組む。

新規獲得に向け、居宅介護支援事業所等にアピールしていき、収益安定を目指していく。

# ヴォーリス居宅介護支援事業所

## 【スタッフ】

管理者（主任介護支援専門員）1名　介護支援専門員 6名（内主任介護支援専門員 4名）

## 【目標】

1. W・Mヴォーリスの創立精神を継承し、「ヴォーリス医療・保健・福祉の里」の基本理念に基づき、利用者の在宅における生活の質の向上を目指しケアプラン作成に取り組む。
2. 里の連携を強化し、地域の各機関との連携にも努め、介護保険制度に基づいた適正な介護サービスを提供する。
3. 事業所内の協力を深め、個々の能力を高め、質の高いサービスを目指し、事業運営の安定を図る。

## 【活動報告】

新規利用者 81名を受け入れることができた。その内訳として、在宅 39名、ヴォーリス関連施設 13名、地域包括支援センター 14名、他居宅 13名、他医療機関 2名であった。皆の協働のもと、特定事業所集中減算に該当もなく、純利益 3,307千円で、適正な運営ができた。

## 【実績】 月別利用者数（給付：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者 人数	192	201	195	189	186	190	183	187	191	184	182	196	189

## 【教育】

院内研修はほぼリモートだったがすべて参加でき、外部研修は主に主任介護支援専門員の研修や、個々のスキルに基づいた階層別研修等に参加し、また、所内外の事例検討会を継続し、個々のスキルアップに努めた。介護支援専門員の実習生の受け入れも行い、特定事業所加算算定事業所としての役割も果たせた。

## 【今後の課題】

次年度も6名体制で安定した運営と増員を目指し、事業所全体のレベルアップを図りながら、業務の効率化や負担軽減をはかり、長く働きやすい職場環境作りもしていきたい。

また、ヴォーリスグループの里の連携を求めてこられる方々の信頼に応え続けられるよう、地域・社会の情報を敏感にキャッチし、適正なケアプラン作成と連携の充実に努めたい。

# 看護小規模多機能型居宅介護「友愛の家ヴォーリス」

## 【スタッフ】

管理者 1 名（看護師）、看護師 7 名（常勤 4 名、非常勤 3 名）、介護支援専門員 1 名（常勤）  
作業療法士 1 名（常勤、介護職兼務）、理学療法士 1 名（非常勤）、  
介護福祉士 7 名（常勤 5 名、非常勤 2 名）初任者研修修了者 1 名（非常勤 1 名）、  
事務職 1 名（常勤、介護職兼務）、無資格補助者 1 名（非常勤）

## 【目標】

- ① 創立者 W. M. ヴォーリスのキリスト教理念に基づき、地域から愛され必要とされる看多機を目指す。
- ② 医療依存度の高い重症ケースや難病・認知症等のケースを積極的に受け入れ、看護・介護が協働して質の高いサービスが提供できる看多機を目指す。
- ③ 「泊り」「通い」「訪問（看護・介護）」の一体的なサービスにより、最期までその人らしい生活に寄り添いながら温もりのある関わりを目指す。
- ④ 職員一人ひとりの能力の向上のための教育・研鑽の推進と人材育成に努める。
- ⑤ 経営の安定化を目指す。

## 【活動報告】

今年度 15 名の新規利用者を受け入れたが利用者の状態変化による入院や入所により終了となるケースも多く、月平均では 21.5 名の登録数・年間平均介護度は 3.2 であった。平均年齢は 84.6 歳、認知症や難病・がん末期の方などさまざまな疾患の利用者に対応している。認知症の利用者が増えたことで個別に対応が必要な場面が多くなっている。また、医療依存度の高い利用者もおられ、介護量や医療処置も多くなっている状況である。看多機としての看取りは 3 名であった。独居（日中独居含む）の方も月平均 3 名おられ、訪問介護での生活支援で 1 日複数回訪問している。サービス提供体制加算や訪問体制強化加算も継続して取得。医療機関や居宅介護支援事業所からの新規相談に加え御家族の直接相談も増えていて、介護保険制度や看多機について説明を行い新規登録に繋げている。

訪問看護事業も併せて運営しているが、看多機登録の方以外の訪問利用者数が年度末 32 名（医保 9 名、介保 23 名）、月平均訪問件数 166 件。ターミナルや頻回の訪問が必要な方の依頼も増え、医療保険での訪問が多くなっている。また、看取りにも対応し 5 名の方を在宅で看取らせていただいた。

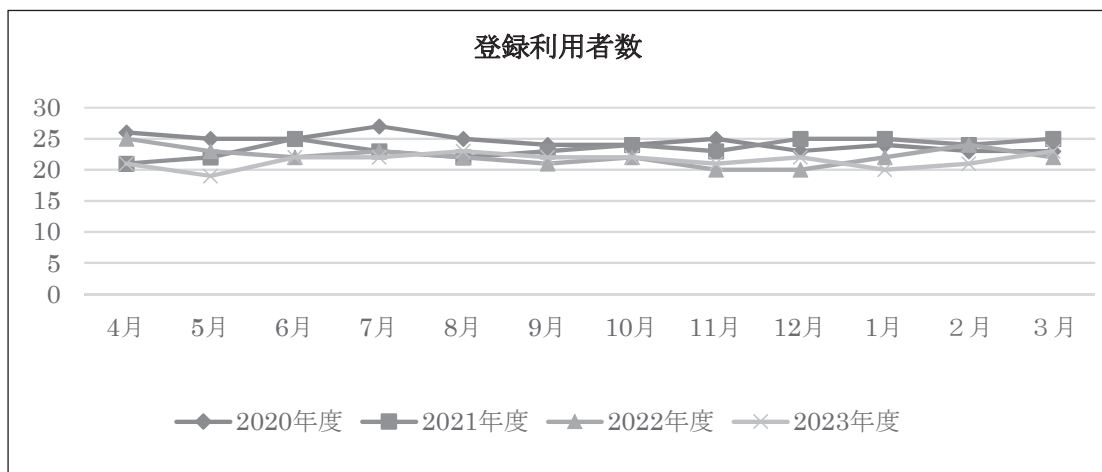
全体として純利益は 4,126 千円となった。

## 【実績】

看多機事業…月平均登録者数：21.5名 平均介護度：3.2

年間総合計 泊り：781人（月平均65.0人） 通い：3,187人（月平均265.5人）

訪問看護：866回（月平均72回） 訪問介護：2,923回（月平均243回）



訪問看護事業 … 訪問件数：1,985件/年（医保：529件 介保：1,456件）

## 【教育】

内部研修（基本理念・人権擁護・接遇・個人情報保護管理・法令遵守）については職員全員参加。個々の目標に応じた外部研修（高齢者虐待防止、認知症ケア、管理者研修、感染予防、リスクマネジメント、特定行為登録従事者、リハビリテーション等）や、資格取得に向けた研修について積極的に参加し知識の向上に努めた。

今年度も看護学科・作業療法学科・介護職員実務者養成科からの実習を受け入れ、それぞれの職種の魅力を発信している。

## 【今後の課題】

目標とする看多機登録者25名・平均介護度3.5以上を達成するために広報活動に取り組む。また、看多機の認知度を上げるための活動も積極的に行い、新規を計画的に確保するとともに、業務の効率化を検討しつつ収益増を目指したい。また、働きやすく充実した業務が実践できる職場作りに努め、職員の定着率アップにつなげていきたい。感染症や自然災害が発生した場合でもサービスが安定的・継続的に提供できるよう、BCPを定着化する。今期より運営推進委員会是对面での開催となったが、夏まつりやクリスマス会等のイベントは御家族や地域の方の参加は自粛とした。次年度からは地域に根ざした事業展開を再開していく方向で地域との交流も含めたイベントを計画していく。

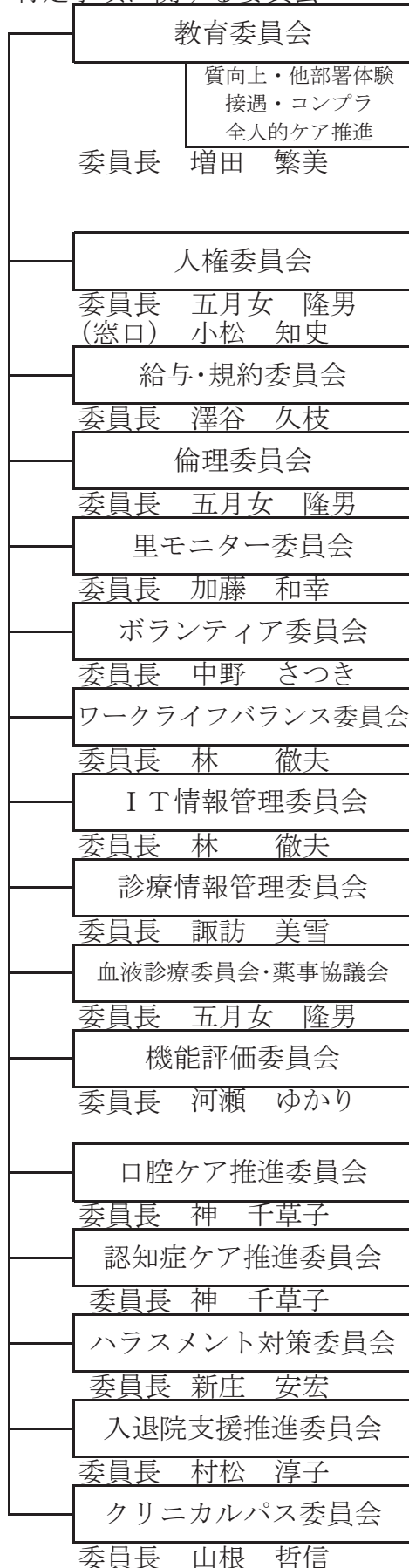
# 委員会報告



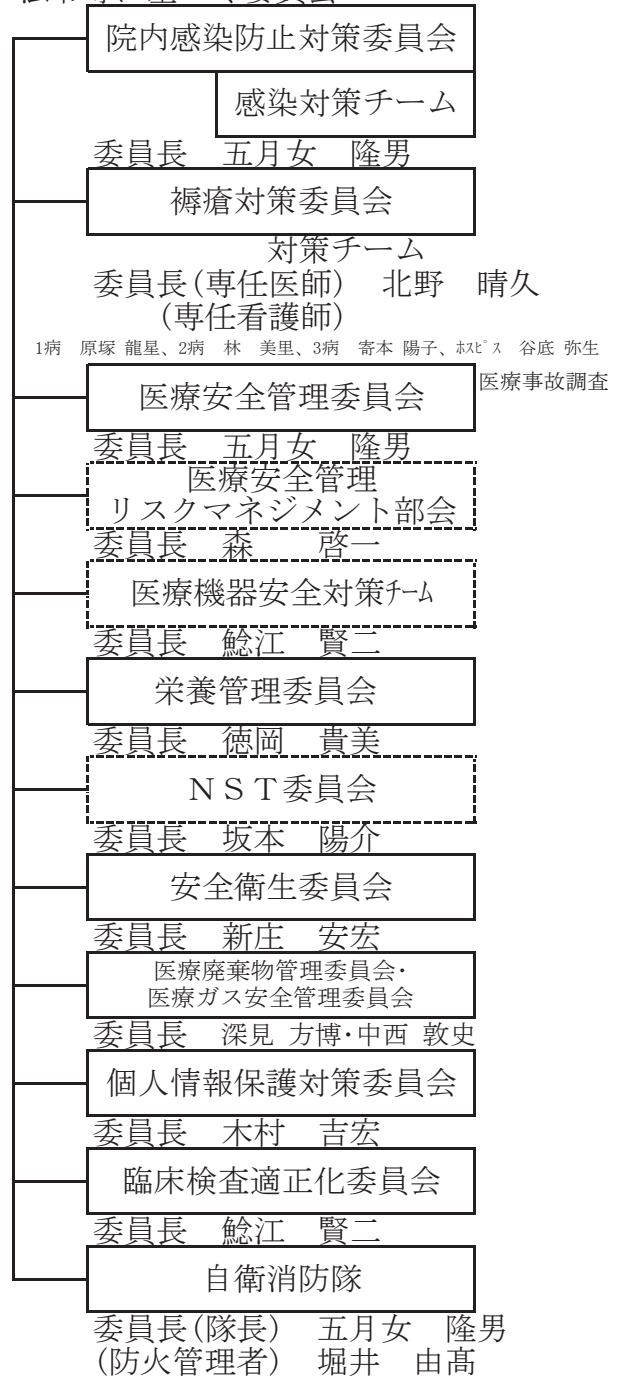
公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院

会議・委員会組織図

特定事項に関する委員会

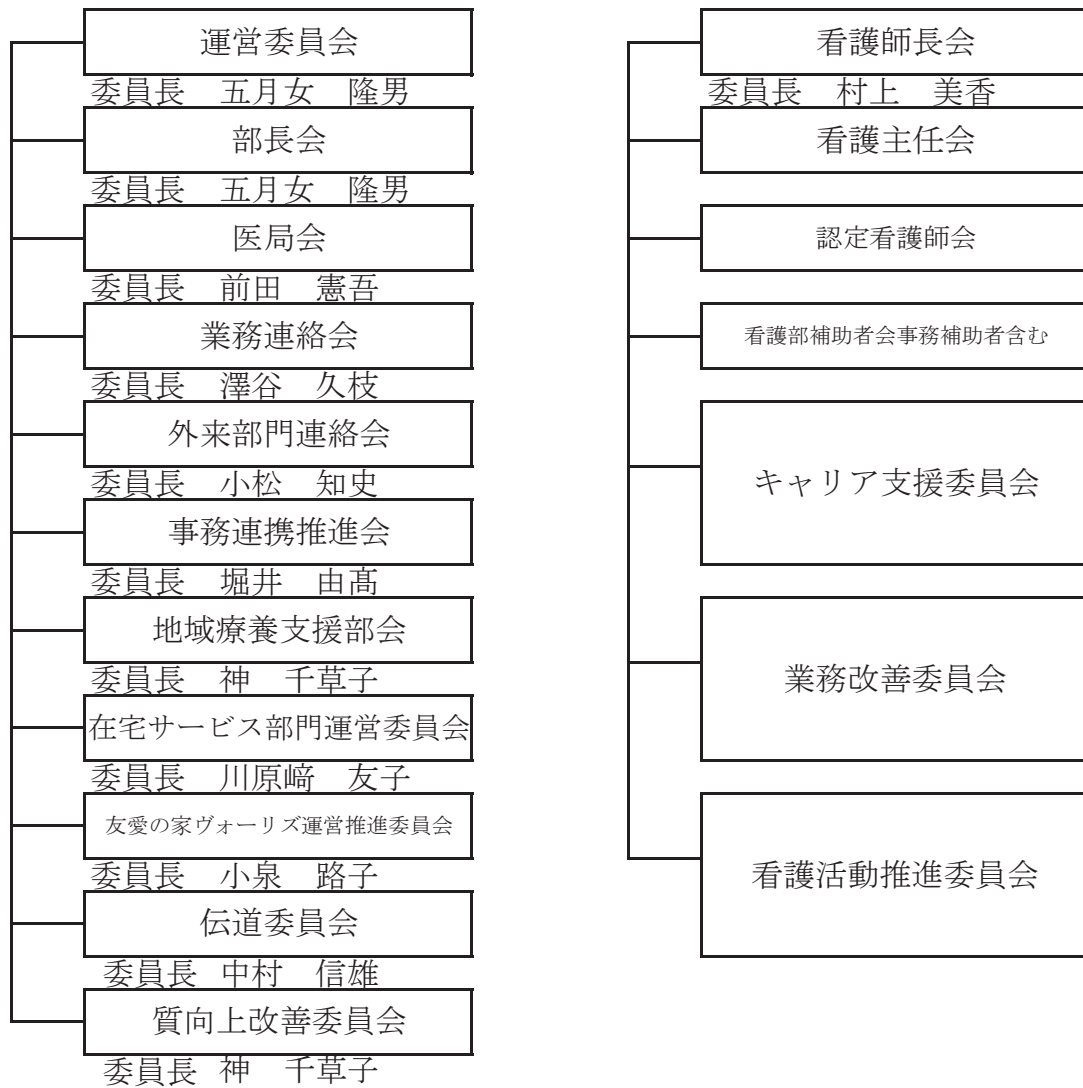


法令等に基づく委員会



公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院

会議・連絡会・委員会組織図





# 2023 年度報告 給与・規約委員会

## 【目的】

委員会は病院長の諮問機関として、給与並びに就業規則の改定変更等について、病院長より諮問事項について審議する。

1. 昇給に関すること。
2. 手当の改定に関すること。
3. 休日等の変更に関すること。
4. 就業規則の改定に関すること。
5. その他必要な事項について

## 【活動内容】

給与・規約プロジェクト委員会メンバー 8 名で活動した。

内容は下記に示すとおり

1. 給与関係
  - ・ 6 月 23 日に夏期賞与・12 月 15 日に冬期賞与を支給。
  - ・ 9 月給与支給分より昇給を実施。  
ピッチ 1 等級 800 円／2 等級 900 円／3 等級 1000 円／4 等級 1100 円／5 等級 1200 円  
昨年度比 45 ～ 50% 増 ※残業削減分を昇給原資に配分するため、人員配置及び業務改善好事例を発信。
  - ・ 初任給の見直し実施。
2. 福利厚生関連
  - ・ 職員会旅行実施せず。会費徴収なし。
  - ・ 行事では、創立記念の夕べを 3 年ぶりに開催。25 年勤続者の祝賀の時を持った。
3. 就業規則
  - ・ 老健センターとも労働条件など規則をほぼ統一できた。
  - ・ 働き方改革届け出の準備が整った。(医師 A 基準)
  - ・ 兼業届け出制度の導入に向けて規程を改変検討。
4. その他
  - ・ 毎月の損益計算書の説明を継続。経営状況の理解を深められた。
  - ・ 企業年金に関する決算報告を行う。
  - ・ しあわせを感じる職場づくりプロジェクト開始。
  - ・ 職員間の紹介制度を導入。

## 【研修】

- ・ ワークライフバランスの観点から、エーデル土山（特別養護老人ホーム）へ見学。職員定着率向上に向けた取り組みなどの学びがあった。

## 【課題】

- ・ 賃金アップ評価料の設定。
- ・ 兼業届け出制度の醸成。定着率の安定化。

# 2023 年度報告 自衛消防隊

## 【目 的】

- ・法令で定められている年間 2 回の防火・防災訓練の実施。
- ・訓練を通して、有事の際の各部署・各自の役割分担及び行動の再確認。
- ・法令や実例に基づき、防火・防災意識の向上・醸成を図る。
- ・経験の無い職員や若手職員に、消火器操作・スロープ避難袋等を経験してもらう。

## 【活動内容】

- ・避難・救出・消火器取扱い訓練について
- ・第一回目 令和 5 年 11 月 8 日（水）  
1 階緩和ケア病棟 キッチンからの出火想定。  
訓練慣れや、やや緊張感に欠ける行動あり。有事の際は、避難本部に集合してくる職員に的確に次の役割を指示できる体制づくりが必要。
- ・第二回目 令和 6 年 3 月 19 日（火）  
3 階一般病棟 308 号室コンセントからの出火想定。  
防火ドアの存在と場所確認。垂直避難が困難な場合を想定し、水平避難（同一フロア内で火元から防火ドアの逆側に避難する訓練実施。
- ・初期消火競技会への参加  
新型コロナウイルスの関係で 5 年振りに競技会が開催され、参加した。
- ・里全体の自衛消防隊組織表、及び病院の非常連絡網・火元責任者の見直しと作成。
- ・上半期に、BCP（事業継続）計画の草案作成完了。下半期に感染・医療安全の観点から補足し、年度内に完成した。

## 【研 修】

- ・参加研修 なし。

## 【課 題】

- ・避難用具、備品関係等の事前準備と定期点検。
- ・夜間・休日の応援体制の周知。
- ・平成 28 年 4 月 1 日 消防法令が改定に伴うスプリンクラー・消火器具類・火災通報装置等の抜本見直しあり、法令に抵触しない様見直し要。⇒ 令和 4 年 11 月に新病院移転に伴い、新病院は完備。旧病院は、一部の建物の解体が済み、今後残った建物を改修して別用途に使用する場合、法令に照らして棟別に要検討。

# 2023 年度報告 安全衛生委員会

## 【目的】

法令に則り、職員の健康管理および衛生上必要な調査・改善を行う。

## 【活動内容】

- ・産業医、衛生管理者がそれぞれの視点で院内巡視を実施し、職場衛生管理に努めた。
- ・職員健診を実施し、再検査実施率の向上に努めた。
- ・新入職員および中途入職者に対してB型肝炎ウイルス、麻疹・風疹・ムンプス・水痘の抗体検査を実施し、ワクチン接種を推奨した。
- ・熱中症対策としてアイスベストの普及に努めた。
- ・放射線被ばくに関する項目について委員会規程を改訂した。

院内巡視（衛生管理者）	52/52 週（実施率 100%）
院内巡視（産業医）	6/6 月（実施率 100%）
ストレスチェック実施率	72.7%（前年度 71.3%）
職員インフルエンザワクチン接種	87.1%（前年度 87.1%）
針刺し事故件数	2 件（前年度 2 件）
喫煙率	11.6%（前年度 12.2%）
月 45 時間以上の長時間労働者数	16 名（前年度 85 名）
産業医による面接指導件数	延べ 4 件（前年度 5 件）

## 【研修】

頭痛アンケート

## 【課題】

- ・健診センターと連携して行う職員健診後の再検査対象者の再検査受診率の向上。特に職業感染（結核）の防止
- ・産業医による職員の健康状態のチェック
- ・職員の健康課題への取り組み（腰痛、頭痛、禁煙等）

# 2023 年度報告 栄養管理委員会

## 【目的】

- ・栄養管理業務の改善向上及び患者食の内容充実を図ること

## 【活動内容】

- ・行事食について（評価・見直し）
- ・異物混入防止の対策強化
- ・新調理システムへの変更に伴う再加熱カート運用の問題点の改善
- ・配茶業務軽減のためのトロミサーバー検討

## 【研修】

参加研修 なし

## 【課題】

- ・嚥下食の質の向上
- ・新調理システムに対応した行事食・セレクトメニューの検討
- ・NST加算の継続
- ・栄養指導件数増加
- ・特別食加算の増加

# 2023 年度報告 臨床検査適正化委員会

## 【目的】

本委員会は公益財団法人近江兄弟社ヴォーリズ記念病院（以下「病院」）において、安全かつ効率的な臨床検査が実施され、診療に提供されることを目的に設置するものとする。

## 【活動内容】

### ・精度管理

外部精度管理：令和5年度日本医師会精度管理事業の結果報告

315点満点中310点（100点満点中98.4点）評価

滋賀県医師会・滋賀県臨床検査技師会精度管理事業の結果は、生化学部門・輸血部門・血清部門・一般部門・血液部門すべてA評価

内部精度管理：検査センターメディックから問題なしの評価

### ・その他連絡事項と業務改善について

★各委員に更新した在宅酸素関連の指示書フローと外部精度管理成績表を配布した。

## 【研修】

参加研修 なし

## 【課題】

- ① 医師より、院内至急の結果について、翌日に結果が上がるのではなくリアルタイムに電子カルテに結果が上がるように出来ないか。・・・部門システムとの連携などを現在確認中。
- ② パッチ型心電計のデモについて  
医師を中心に検討。デモをしたメーカーで被検者実施するが解析結果に問題がわかり断念。日本循環器学会のブースに参加したメーカー数社を検討するとのこと。
- ③ 循環器エコー検査の報告書を用紙で出したい。現在、循環器エコー検査の報告書は患者カルテ内に添付されるが、用紙で出せる様にして欲しい。・・・担当医師と相談。報告書作成を検討中。他の医師との申し送りもあり、結果をまた適正化委員会で報告。
- ④ 赤沈検査の結果について、外部委託検査（メディック）のように時系列で結果を上げることが出来ないか。・・・電子カルテシステム担当者に依頼中。

## 【実績】

3月から表面筋電図検査を開始する。

- ② 各委員に更新した【在宅酸素療法・CPAP処方・在宅人工呼吸器・在宅医療ポンプ・排痰補助装置指示書フロー】と外部精度管理成績表をお渡しする。

# 2023 年度報告 医療安全管理委員会

## 【目的】

医療施設全体の医療提供にあたり、医療事故の予防・再発防止対策並びに発生時の適切な対応方法など、ヴォーリズ記念病院（以下「本院」）における医療安全体制を確立し、安全で質の高い医療サービスを提供するため、本院における医療安全管理に関する対策の総合的な企画、実施を行う。

## 【活動内容】

1. 医療安全管理加算 1 の算定要件に沿った業務運営を行う。
2. 月 1 回定例委員会を開催し、医療安全管理者がインシデントの中でも重大であると思われるものを委員会で報告
3. 週 1 回 推進カンファレンスを開催（毎木曜日 13 時～ 13 時 45 分）  
報告内容から重大事故に繋がる可能性のある事象に対して、関係部署へ周知し指導する。
4. 年間教育計画に沿って研修の企画・実施
5. 医療安全情報及び、医療安全管理室からの注意喚起をリスクマネジメント部会及び、院内ネットワークで配信し周知する。
6. 院内のインシデント・アクシデントカンファレンスへの参加をし、現場の状況を把握し実現可能な再発防止策の立案を現場職員と検討、対策実施
7. 医療事故への対応。重大事故、事故に繋がる可能性のある事象について、臨時医療安全管理委員会を開催。対策を立案し再発予防に努める。
8. 転倒転落防止として、病棟の特殊性に応じた機器を使用。必要な転倒転落防止センサーの購入未然予防の整備  
転倒予防シューズ、安心サポートシューズ、メディカルパワーシューズ EX の周知  
売店で転倒予防に適した履物を購入できる。毎月 1～4 足の購入実績あり。
9. 看護部以外のインシデント、アクシデントレポート提出の推進
10. リスクマネジメント部会の参加（部会長）
11. 医療安全管理指針マニュアルの定期的な見直し
12. 医療安全に関する職員教育。研修会開催（別途明記）
13. 院内 5S ラウンド前後の評価とフィードバック
14. インシデント報告システム e-Power/CLIP の運用  
医療安全報告システムの役職毎の閲覧・修正権限委譲の変更を行い、院内インシデント情報の共有

## 【研 修】

- 1) 新採用対象者へ 4 月 4 日 テーマ：「医療安全の取り組み」について
- 2) 第 1 回医療安全全体研修 参加率：63.4%（病院・在宅部門対象）  
テーマ：コミュニケーションエラー

～令和4年度インシデント・アクシデント報告と総括～

期 間：令和5年7月15日～令和5年10月17日

院内配信GSより講義を視聴しアンケートに回答する

第2回医療安全全体研修 参加率：52.4%（病院・在宅部門対象）

テーマ：～レポートは再発防止に大活躍～

期 間：令和6年2月20日・2月21日 集合研修

令和6年2月21日～3月2日 院内配信GS講義を視聴しアンケートに回答

3) BLS研修（老健センター・在宅部門も合同参加）

期 間：令和5年12月6日・12月13日・12月20日の3日間

対 象：全職員（特に新入職者及び技術向上希望者）

4) コードブルー研修

病院内において傷病者を発見しBLSを行いながら救急初療室への搬送までを実施

## 【課 題】

1. 職員の意識向上に向けた研修、教育の実施：参加率向上に向けた取り組み
2. リスクマネージャーの指導力アップと継続した教育
3. 医療安全管理マニュアルの見直し継続
4. 転倒転落重大事故防止に向けた検討
5. コードブルーとBLS院内研修、患者離院などの緊急時対応の訓練を検討
6. 現場に寄り添ったマニュアルの見直し
7. インシデント報告システム e-Power/CLIP の使いやすいカスタマイズと運用の検討

# 2023 年度報告 医療安全管理 リスクマネジメント部会

## 【目的】

各職場での医療の安全を常に監視し、問題点の検討、医療事故の原因及び防止方法並びに医療体制の改善方法についての検討及び提言・指導、および医療現場と医療安全管理委員会との橋渡しを行う。

## 【活動内容】

1. 毎月のインシデント報告と集計・再発事例の対策を検討
2. 部署毎の令和4年度インシデント・アクシデント統計分析報告
3. 医療安全委員会との連携（委員会の検討内容の伝達）
4. 職員への医療安全報告システムでの報告の推進
5. 各部署でのインシデントカンファレンスの推進
6. リスクマネージャーによる5Sラウンドの実施

## 【研修】

「インシデントレポート書き方講座」2023年5月

リスクマネージャー対象に部会時に実施したが、部署でのレポート作成時の指導にも活用を推進

## 【課題】

- ・インシデントレポートの報告推進。誰が読んでも理解できる報告内容
- ・リスクマネージャーへの支援。リスクマネージャーの指導力アップ  
カンファレンスの運用方法、内容、分析の仕方、職員に対する指導など、レベルアップが必要
- ・アクシデント報告を迅速に行い、改善策を検討し再発防止に努める。
- ・転倒転落重大事故防止に向けた対策。転倒転落防止センサー類、マット類の適切な活用
- ・5Sラウンド後の改善の確認
- ・インシデント報告システム e-Power/CLIP の使いやすいカスタマイズと運用の検討
- ・部会出席率の向上。シフト部署での出席調整



# 2023 年度報告 里教育委員会

## 【目的】

職員が基本理念に基づいて職務を遂行すると共に職員個々の自己実現を図るために、また事業継続・発展のために全職種共通課題について教育計画の立案・作成・広報・実施、教育活動の評価を行う。

## 【活動内容】

### < 接遇チーム >

実績：① 電話対応マニュアル作成

② e-ラーニング視聴研修

「社会人基礎力（接遇）・クレーム対応・ことばの伝え方・あいさつのポイント」

視聴率：46.6%（病院 31%、老健 62.2%）

③ 全体研修 2024年3月12日（火） 17:30～18:30

テーマ：「接遇で出来るおもてなし～電話対応を通して～」

講師：松岡佳代氏

（株式会社阪急交通社 法人団体営業本部西日本営業部 大阪団体支店長）

参加率：45.5%（不参加者はGS配信視聴）

### < 全人的ケア推進チーム >

実績：① 全人的ケア研修会 2024年2月7日（水）17:30～19:00

テーマ：「スピリチュアルケア～病院チャプレンの立場から～」

講師：藤井理恵牧師（元淀川キリスト教病院チャプレン）

参加率：50%（不参加者はGS配信視聴）

② 事例紹介 ぽっかぽかだよりの発行（4回/年）

紹介数：13事例

### < 他部署体験チーム >

感染対策で中止していたが、約3年振りに他部署体験を実施した。

実績：① 体験者数 9名

（参加者内訳：病院 5名、在宅 2名、老健センター 2名）

<質向上執行チーム>

実績：①人事制度「評価者訓練」2023年5月22、23日にて開催⇒新評価者全員参加

②マネジメント研修

開催日時	研修内容	対象者	参加率
2023年 4月1日～3月31日	マネジメント実践計画・報告	ラダーⅡ ラダーⅢ ラダーⅣ	82.8% 88.4% 42.8%
視聴期間 2023年 10月1日～12月31日	学研配信講義 「心理的安全性が叶えるヘル シーワークプレイス」 レポート提出	ラダーⅡ  ラダーⅡ	88.8%  83.3%
視聴期間 2023年 10月1日～12月31日	学研配信講義 「事業計画立案と実行の戦略的 マネジメント」 レポート提出	ラダーⅢ ラダーⅣ  ラダーⅢ ラダーⅣ	92.3% 55.0%  92.3% 50.0%

### 【課題】

- ① マネジメント研修の継続的な取り組み
- ② WEB研修の更なる充実に向けた環境整備（信愛館のeラーニング・GS動画配信での研修対応）
- ③ 外部向け講習会等、開催に向けての検討
- ④ 「追悼会」開催に向けての検討
- ⑤ 外部講師による研修再開において、速やかな調整と研修の開催
- ⑥ 法人内資源を活用した効率的な育成に向けた取り組みとして「他部署体験」の推進

# 2023 年度報告 褥瘡対策委員会

## 【目的】

院内だけでなく、近江八幡医療圏の褥瘡ケアのレベルアップをはかり、褥瘡で悩む患者を救済していく

## 【活動内容】

月 1 回の定例委員会

委員会メンバーでのグループ回診を月 2 回実施

褥瘡診療計画書を集計して医事課に提供

褥瘡に対する予防・治療の最先端の知識の周知

重症褥瘡に対し、週 1～2 回のバイオフィルム除去

局所持続陰圧療法を活用

超音波デブリドマン機器の活用

エアマットのレンタルシステム導入

褥瘡委員の知識向上のため、第 25 回日本褥瘡学会学術集会に参加し、新しい手技や知識を現場に取り込んだ。また、日本創傷・オストミー・失禁管理学会や皮膚褥瘡外用薬学会、日本褥瘡学会在宅ケア推進協会などの総会や勉強会に、褥瘡対策委員のメンバーや外来部門の看護師が参加した。

「在宅対策チーム」による在宅で褥瘡を治療する件数が増え、当院の褥瘡に対する活動が、東近江医療圏に伝わってきている。また、オンライン褥瘡セミナーを行い、院内だけでなく、訪問診療や施設などの院外のスタッフも参加できるように、年 4 回開催し、褥瘡に関わる多くの人が知識を深められるようにした。

当院入院患者で、褥瘡の治療を行った患者数は、2019 年度は、241 例と過去最多であったが、褥瘡セミナーを開催した効果もあるのか、2022 年度は 115 例まで減少し、その傾向が維持されている。

	院内発生	持ち込み	計
2020 年度	64 (43.5%)	83 (56.5%)	147
2021 年度	83 (52.8%)	74 (47.2%)	157
2022 年度	47 (42.0%)	65 (58.0%)	112
2023 年度	56 (49.1%)	58 (50.9%)	114

褥瘡の患者の平均年齢が、毎年上昇していて、2021 年度からは、自立度が悪い患者が増えている。また、女性の患者が多くなった傾向がある。状態の悪い褥瘡患者が増えていることは、ケアの水準があがっているためと推定される。

	平均年齢	性別		自立度				
		男	女	C2	C1	B2	B1	他
2020 年度	81.6	80	67	92	17	19	16	3
2021 年度	82.3	77	80	122	15	14	4	2
2022 年度	82.5	51	61	82	13	10	6	1
2023 年度	84.1	52	62	82	10	11	9	1

褥瘡の定義の変更があり、今後は今までの（狭義）褥瘡に医療関連機器褥瘡（MDRPU）を加えた（広義）褥瘡が対象となるため、報告書や計画書のレイアウト変更を検討する必要がある。また、発生数は増加する可能性がある。

2023 年度の日本褥瘡学会学術総会では、3 演題を発表した。2024 年度は日本褥瘡学会在宅ケア推進協会の地区大会「床ずれセミナー」を主催することから、多忙な 1 年となるだろう。

<学会発表>

### **第 25 回日本褥瘡学会学術集会**（2023.9. 神戸）

（シンポジウム）

北野晴久，新庄安宏，佐田裕子，徳岡貴美，寒出清美，小磯早紀，宮崎むつみ，川崎恵利香：褥瘡を発症した終末期患者と家族との時間を共有できる在宅褥瘡管理—超音波デブリドマン装置の活用—

（一般講演）

寄本陽子，服部加奈，北野晴久，船崎満里子，林美里，寄木藍，鎌田華子，坂本陽介：スキン—テアに対する外用薬治療：マクロゴール軟膏—吸水軟膏とジメチルイソプロピルアズレン軟膏の比較

北野晴久，服部加奈，寄本陽子，船崎満里子，林美里，寄木藍，鎌田華子，坂本陽介：IgE 高値患者の褥瘡悪化と黄色ブドウ球菌感染との関係

### **【研 修】**

参加研修 なし

### **【課 題】**

2024 年度には、日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会 近畿地区の担当となり、当院は、「褥瘡治療中核病院」となる認識を持たなければならず、2024 年度は他院への見学を行い、当院の褥瘡ケア体制の整備を進める。また、WOC ナースの育成や、褥瘡に関する情報を発信していくために、積極的に学会参加して、発表する必要がある。

# 2023 年度報告 ボランティア委員会

## 【目的】

ボランティア委員会は、病院、老健及び友愛の家にボランティアを受け入れ、ヴォーリズ医療・保健・福祉の里の理念を具現化するために委員会の所管のもとボランティア活動を展開し、利用者の環境を整え QOL の向上を目指す活動を推進する。

## 【活動内容】

＜ボランティア登録者数＞

- ・ 36 名（2023 年 3 月末現在）

＜ボランティア募集＞

- ・ 応募があった際に随時オリエンテーションを実施

＜ボランティア交流会＞

- ・ 令和 5 年 7 月 24 日開催

ボランティアとボランティア委員会との顔合わせ、コロナ感染症が落ち着かない中、今後の活動について意見交換した。

＜ボランティアの健康管理と活動支援＞

- ・ 健診、インフルエンザ予防接種の案内と実施

＜各活動の変更等＞

- ・ 令和 5 年 10 月から園芸ボランティア開始（主に新病院周辺の水やりからスタートした）
- ・ 新病院の園芸倉庫の準備
- ・ 外来フロア案内ボランティア開始
- ・ 活動の感謝を込めてボランティアにクリスマスカード送る。
- ・ 毎月ボランティア委員会実施 病院感染対策委員会と連携しながら徐々にボランティア活動を拡大した。

## 【研修】

参加研修 なし

## 【課題】

- ・ ボランティア活動の拡大
- ・ 新規ボランティアの募集方法

# 2023 年度報告 院内感染防止対策委員会

## 【目的】

病院長の諮問機関として、患者および職員の安全と医療の質に寄与する院内感染防止対策の実施を目的とする。

## 【活動内容】

- ・ 委員会を定期（毎月）および臨時に開催し、感染防止対策について方針を決定し全職員に周知した。
- ・ 新型コロナウイルスの第5類移行後も行政、医師会および近隣の医療機関と緊密に連携しつつ、対策を継続した。
- ・ 患者との面会について、感染防止に努めつつ部分的に解除した。ゲートキーパーの設置は継続とした。
- ・ 3 医療機関による感染防止合同カンファレンスに参加し、院内感染管理加算2算定を継続した。
- ・ 感染管理者が全部署に「感染症レポート」を随時配信し、主に新型コロナウイルス感染症について情報提供し、職員への啓蒙に努めた。
- ・ 毎月、臨床検査科より感染症および耐性菌発生状況を、薬剤科より院内抗生物質使用量、中心静脈カテーテル使用者の感染症の有無および抗生剤使用量を、看護部より病棟別アルコール手指消毒薬消費数および病棟別感染管理対象者数をそれぞれ報告し、協議した。
- ・ 厚生労働省の JANIS アンチバイオグラムへの参加を継続した。
- ・ ICT チームによる院内ラウンドを毎月複数回継続し、感染対策の強化に努めた。
- ・ Web 方式による研修を実施し、全職員向けに配信を行った。
- ・ 新型コロナウイルス対策の経験を活かして BCP 計画を改訂した。

## 【研修】

- ・ ここだけはおさえない！ 介護施設のための感染対策 2023 年度
- ・ 感染経路別予防策をおさらい！～「もしも」に備えるアウトブレイク対策～
- ・ 令和5年度滋賀県病院協会 院内感染防止対策研修会

## 【課題】

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策
- ・ 研修参加率の向上

# 2023 年度報告 診療情報管理委員会

## 【目的】

ヴォーリズ記念病院（以下「病院」という。）で行われる診療に関する診療情報の適正な管理を図り、良質かつ適切な診療体制の構築に寄与するため

## 【活動内容】

### ・診療記録監査について

同僚監査を令和5年3月1日～3月14日に実施した。

サマリーの完成率が、ドクター協力の下90%を超えることができた。

今後も継続できるよう、ドクターへの働きかけと周知を行っていく。

### ・DPCデータ提出加算について

滞りなく提出がなされている。

### ・カルテ開示

\*カルテ開示数 令和5年4月～翌年3月まで14件

内訳 裁判所経由・・・3件（損害賠償請求3件）

弁護士事務所経由（23条含む）・・・4件（B型肝炎訴3件・事故後の損害賠償請求1件）

損保会社・・・3件（交通事故賠償割合）

警察・・・2件（交通事故と死亡の関係性 1件・死体検案マニュアル提出1件）

労働局・・・1件（労働災害 1件）

患者家族より・・・1件（メディエーター案件）

### 他の活動

- ・病院機能評価受診のためのカルテレビュー・チャンピオンカルテの精査を行った。
- ・東近江保健所立ち入り検査（10月）
- ・医師事務作業補助者・医事課との勉強会主催 計8回 延べ53人参加 2023年11月より月2回程度、1回15分程度

## 【研修】

7月骨粗鬆症研会（WEB）、8月医師の働き方改革（WEB）、10月診療情報管理士学会（WEB）

12月医師事務作業補助者研究会岡山地方会

## 【課題】

- ・1患者1IDとした入院・外来書類を、すべてスキャンを行い保存性・見読性の精度をあげる。
- ・病院機能評価にむけて、カルテ監査の強化および診療録記載の充実を目指す。
- ・カルテ倉庫のインアクティブカルテ・アクティブカルテの整理を行う。
- ・電子カルテ更新に向けて電子スタンプの導入検討、書類作成ツールの導入を検討

# 2023 年度報告 病院機能評価委員会

## 【目的】

- 2024 年 4 月受審に向けた活動

## 【活動内容】

- 規程および目標・活動方針の見直しと周知
- 受審に向けた事前提出書類・自己評価作成、ケアプロセス調査の実施、幹部面談、受審当日レイアウト
- 2024 年 4 月 24 日（水）・25 日（木）受審

## 【研修】

2023. 8. 25 第 1 回 病院機能評価改善支援セミナー オービックホール

## 【課題】

- ・ 2024 年 4 月受審後の評価と課題への具体的な取り組み
- ・ 期中の確認までの継続的に行っていく内容の確認
- ・ 組織的取り組みを目指し全職員の意識向上への働きかけ強化



# 2023 年度報告 個人情報保護対策委員会

## 【目的】

1. 個人情報保護法を遵守する。
2. 個人情報保護について研修を行い知識を深める。

## 【活動内容】

定例会議：5月・6月・8月・10月・11月・12月・1月・2月 計8回開催。

4月から5月にかけて個人情報保護規定、委員会規定の見直しを行った。

定例の会議にて、個人情報の症例について検討を行い、関係部署にフィードバック

11月～2月にかけて、各部署の規約の見直し

## 【研修】

- ・個人情報保護に関する研修会

内容 e - ラーニングにて

「医療従事者が知っておくべき個人情報の適切な取り扱い方」(20分程度)

視聴後、アンケート入力

参加率：64% (253人 / 397人)

開催日 令和5年12月1日～令和6年3月31日

全職員対象として実施する。

職員の個人情報の保護について周知を行った。

## 【課題】

- ・個人情報保護の研修について、受診率向上の為に開催方法について見直す。

# 2023 年度報告 ワークライフバランス委員会

## 【目的】

幅広い世代の人々が本人の希望に添った、仕事と生活との両立ができる職場環境を整備するワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）に対応した病院運営ができる。

## 【活動内容】

①「しあわせを感じる職場づくり」活動を開始。

若手職員をメインに、情報交換会を開催し、意見を吸い上げる。

2023年11月9日 情報交換会実施。

②「職員やりがい度調査」を実施。

GS アンケートを利用し、全職員（在宅部門、老健センター、ワークステーション含む）対象に実施。

調査期間：2023年11月1日～2023年12月31日

対 象：全職員（在宅部門、老健センター、ワークステーション含む）

設 問：＜優先内容の実際＞

＜余裕のあり方＞

＜仕事と生活の両立＞

＜職場環境＞

＜仕事の満足度＞

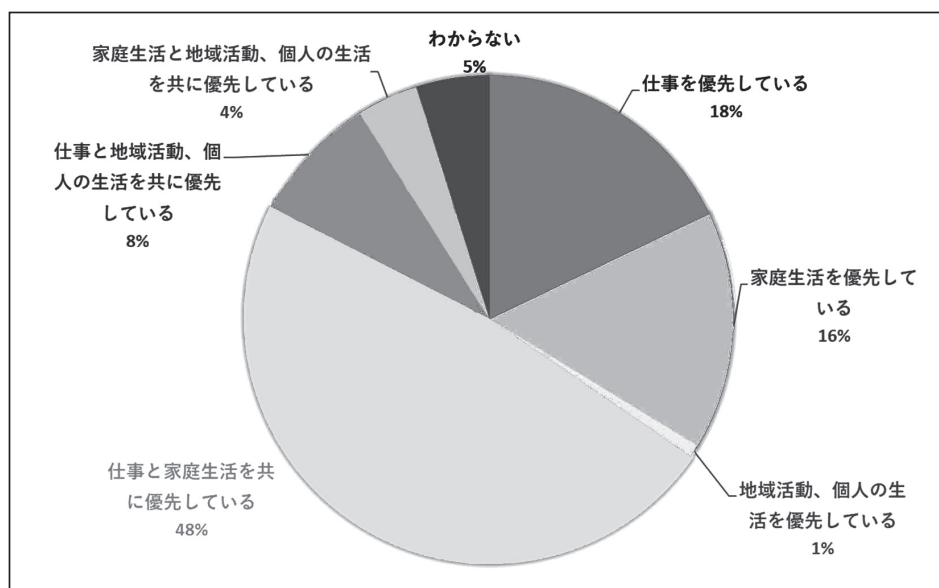
＜自己啓発＞

＜個人の生活などの意識＞

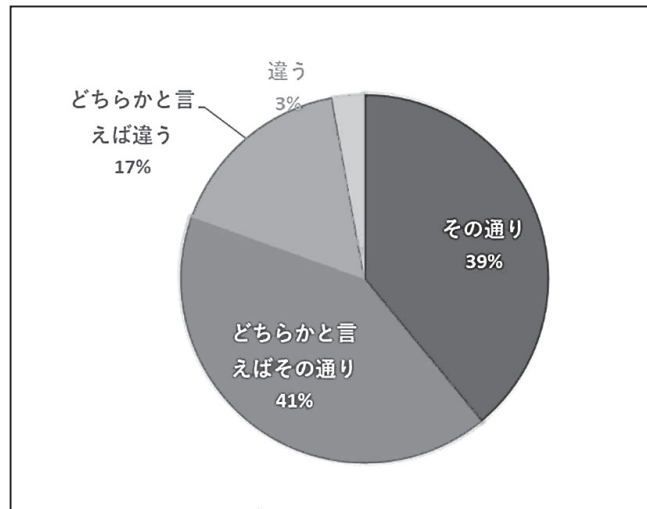
※アンケート集計については、別資料で公開。

＜集計結果抜粋＞

・優先内容の実際



- ・仕事上の不安やストレスを感じる人が多い。



**【課題】**

- ・離職率の低下などを念頭に、働きやすい環境をどのように構築していくか。
- ・「しあわせを感じる職場づくり」活動をさらに展開する。

# 2023 年度報告 IT 情報管理委員会

## 【目的】

病院におけるシステム構築、運用、かかる費用を審議し、院内システム、ネットワークを健全に運用できるように活動する。

## 【活動内容】

①電子カルテ更新プロジェクトと合同で活動を行う。

2023 年 4 月 電子カルテ更新プロジェクト キックオフ。

2023 年 8 月 次期電子カルテ 仕様書作成。

2023 年 11 月～ 提案ベンダー 4 社による展示会形式デモを実施。

その中から 2 社に絞り込み、再度長期展示会形式デモを実施。

②GS 活用の展開

2023 年 7 月より、GS 掲示板の活用を展開する。

オールメールでの情報共有をやめ、掲示板による全職員に向けて情報共有を開始する。

情報共有を里全体に展開するため、「医療・保健・福祉の里 掲示板」を作成。

里全体への情報発信の場として活用開始する。

## 【課題】

電子カルテ更新本番開始を 2024 年 11 月 1 日としており、スケジュールが非常にタイトであるため、現状の運用把握、業務改善の方法、マスター関連を早急に対応していく必要がある。

# 2023 年度報告 認知症ケア推進委員会

## 【目的】

認知症ケア推進委員会は地域包括ケアシステムにおける当院の役割遂行のために、認知症ケアに関する環境整備と職員の正しい知識、技術、態度の向上を目指す。

## 【活動内容】

\*委員会開催（年間 12 回開催）

1. 認知症患者の認知度、ケア実施状況報告および症例検討会
2. 研修会の企画・運営・評価（別途明記）
3. 認知症ケアマニュアルおよび認知度評価手順の見直し

研修会については、昨年度の課題を基に、専門職（医師・看護師・診療技術部）と事務職（事務部・看護助手）、介護福祉士とそれぞれに合わせた研修を企画し、主に集合＋視聴研修スタイルで参加率アップを図った。アンケート内容から職種に合わせた内容、方法を考慮したことで、職場内だけでなく地域でも活かせる内容であったと評価する。病棟内でのコロナクラスター発生時期に重なった研修や実習を含めた集合研修は看護部の参加率がやや低かった。

認知症ケアマニュアルは一斉見直しを行い年度内に差し替えができた。また、認知度評価を正確かつ定期的の実施できるよう手順書を作成し、周知を図った。症例検討会が開催できず、課題として残った。

## 【研修】

### 1) 専門職研修

- ①テーマ：「誰もがができる認知症診断」 対象：医師、看護師、薬剤師、放射線技師  
方法：集合＋動画視聴（評価：アンケート回収） 参加率：90.4%
- ②テーマ：「HDS-R と MMSE の活用」 対象：看護師、准看護師  
方法：集合（講義＋実習） 参加率：66%
- ③テーマ：「認知症患者へのコミュニケーション・環境調整について 事例を通して考える」  
方法：e-ラーニング 対象：看護師、准看護師、ケアワーカー 参加率：65.6%

### 2) 事務職研修

- ①テーマ：「身近な認知症の方に気付け、コミュニケーションの取り方を学ぶ」  
方法：集合（講義＋グループワーク） 対象：事務職、看護助手 参加率：89.9%

### 3) ケアワーカー研修

- ①テーマ：「認知症患者との関わり方 みんなどうしてる？～認知症と環境」  
方法：認知症ケア認定看護による講義＋グループワーク 参加率：68%

## 【課題】

- ・認知症ケアマニュアルおよび認知度評価手順の周知と活用評価
- ・症例検討会の開催

# 2023 年度報告 質向上改善委員会

## 【目 的】

本財団内における良質な医療・介護を継続的に提供できることを目的に総合的に企画、実施する。

## 【活動内容】

- ・ 定例会議：4 回開催（研修および経過報告と進捗状況の確認）

業務改善におけるプロセスとして現状分析・要因分析、日々感じている問題を課題化し、各部署の特徴を活かした取り組みだった。部門内だけでなく、法人内の横の繋がりを活かして取り組むことが出来た。

- ・ 患者満足度調査「病院機能評価患者満足度」の実施（2023 年 12 月～2024 年 1 月）

- ・ 「退院アンケート」「みなさまの声」意見から業務改善事例 16 件

- ・ 第 3 回「「QI 活動報告会」開催

日時：2024 年 2 月 26 日（金）16：00～17：30

第 1 演題：『電話対応における課題を抽出し、部内の業務改善を図る』

地域療養支援部 村松淳子・西山洋平

第 2 演題：『栄養科における適切な人員配置と業務の見直し』

診療技術部（臨床検査科：森麻美・メディカルフィットネス：田辺彰太）

第 3 演題：『多職種で情報共有～初回カンファレンスを見直して～』

ヴォーリズ老健センター 森岡美穂・村井愛

第 4 演題：『消火設備状況、緊急時対応についての認識の向上を目指して』

事務部 川村久男・八木美佳

第 5 演題：『より安心・安全に在宅生活を初めていただくために』

～早期段階から病院カンファレンスに参加して～

友愛の家ヴォーリズ 戸田利嘉子 ヘルパーステーション梅村 彩

第 6 演題：『環境整備の定着化に向けて』

看護部 野村嘉代・西田友美・福井健太

第 7 演題：『しあわせを感じる職場作りに取り組んで』

管理課課長 茂森稔雄

\* 2023 年度患者満足度調査報告 西山洋平・神千草子

## 【研 修】

テーマ：「質改善とは、業務改善活動の基本と実践について」

対 象：2023 年度 質改善委員メンバー

## 【課 題】

- ・ 組織の隅々に潜む課題に、TQM 活動として推進できる活動とする。
- ・ QI 的視点の強化（教育の継続）
- ・ 委員会の運用・体制の評価・強化を図り、課題解決の基盤づくりを継続する。

# 2023 年度報告 倫理委員会

## 【目 的】

全職員の「組織倫理」及び医師、看護師、コメディカル等の「生命倫理」「臨床倫理」を高め、患者さんの人格の尊厳と権利・意思を尊重し、最善の医療を平等に提供することを目的とする。

## 【活動内容】

<活動1>委員会再編にまつわる基盤整備にまつわる事項

- ・委員会：年7回開催
- ・倫理委員会規程の改正

<活動2>「生命・臨床」「職業」倫理に関する事項、権利擁護に関する事項

- ・臨床倫理事例検討会→4事例開催（事務部・診療技術部（薬剤科）・看護部・チャペル）  
各部署による倫理課題への取り組みの推進 ⇒ 委員会によるカンファレンス実績報告
- ・臨床研究→13症例 倫理委員会承認

<活動3>教育・啓蒙に関する事項

- ・全職員対象研修1回開催

## 【研 修】

テーマ：臨床倫理を学ぶ

目 的：臨床における倫理的課題に気付け、患者、利用者にとっての最善に向けて取り組むことができる。

対 象：法人内職員全員

方 法：集合＋録画配信の視聴

講 師：滋賀医科大学名誉教授 室寺 義仁先生

参加率：病院 45% 在宅部門 67% 老健センター 56% 全体 50.2%

## 【課 題】

- ・現場に潜む臨床倫理事例の検討会開催支援 ⇒ 一覧表による把握と推進支援
- ・生命倫理・組織（職業）倫理への意識向上

# 2023 年度報告 入退院支援推進委員会

## 【目 的】

入退院支援推進委員会は、地域包括ケアシステムにおける当院の役割遂行のために、地域医療連携を円滑にし、入院前から退院後まで各専門職が介入しながら、住み慣れた安心できる環境へ社会復帰できるよう支援する。そのための職員の育成（正しい知識、技術、態度の向上）と院内情報共有・連携の仕組みづくりを目指す。

## 【活動内容】

\*委員会開催（年間8回 4月～3月）

病院の委員会としてメンバー変更あり、委員会で下記の活動目標をもって活動した。

1. 病院の入退院支援マニュアル作成。マニュアル作成後部署内への情報発信
  - 1) 病院の入退院マニュアル内容確認、修正
  - 2) 入退院マニュアル作成後ファイル作成
  - 3) マニュアル使用状況の確認
2. 各病棟における課題の抽出、改善に向けての取り組み
  - 1) 病棟での現状、課題の抽出
  - 2) 課題内容委員会での検討、マニュアルへの追記
3. 評価：
  - 1) マニュアル作成に伴い各病棟のマニュアル冊子の統一化を図ることができた。  
実際、病棟でどこまで運営が出来ているのか委員会会議で確認を行った。
  - 2) 病棟における入退院支援に関する課題解決に向けて、他部署との確認を行い修正にむけて動くことが出来た。
  - 3) カンファレンスの流れ、カンファレンスチェック表など病棟での利用状況の確認は、次年度に継続予定

## 【研 修】

参加研修 なし

## 【課 題】

1. 入退院支援マニュアルの周知
2. 各部署からの課題の抽出
3. 入退院支援に必要なマニュアルの作成
4. スタッフ育成のための教育、研修



# 2023 年度報告 ハラスメント対策委員会

## 【目 的】

ハラスメント（セクシャル・パワー・モラル・マタニティー等）の防止及び排除並びにハラスメントに起因する問題が生じた場合の適切な対応に関する必要な事項を定め、職員が快適な環境で職務を全うできるための支援を行うことを目的とする。

## 【活動内容】

- ・ハラスメントの相談窓口について職員に周知した。
- ・ハラスメント対策の規程に従い、ハラスメント事案1件について臨時委員会を開催のうえ協議した。
- ・ハラスメント事案の対応について議論し、ハラスメント対応フローおよび委員会規程を一部変更した。
- ・委員に対して、パワーハラスメントに関連する主な裁判例の分析結果について研修を実施した。

## 【課 題】

- ・職員へのハラスメント対策相談窓口の周知
- ・職員に対するハラスメントに関する教育・研修
- ・ハラスメントの予防

# 2023 年度報告 クリニカルパス委員会

## 【目 的】

クリニカルパス委員会は院長の諮問をうけ、ケアの質の均等化・チーム医療経済効率を通じて医療の向上を図る。

## 【活動内容】

- ・2024 年末から、新システムに移行することに合わせて、新しいパスの運用が開始できるよう、2023 年 4 月より、新メンバー選出し準備を開始した。
- ・クリニカルパスとは？メンバー全員で情報収集をするよう研修会への参加をする

## 【研 修】

下記スケジュールにて委員長はじめメンバーが参加

6 月 16 日 (金)	☆ 2023 年度第 1 回クリニカルパス委員会	
7 月 1 日 (土)	クリニカルパス教育セミナー (日本クリニカルパス学会)	WEB
7 月 21 日 (金)	クリニカルパス講座・第 133 回クリニカルパス大会 (済生会熊本病院)	WEB 有り
9 月 15 日 (金)	☆ 2023 年度第 2 回クリニカルパス委員会	
10 月 12 日 (木)	クリニカルパス講座・第 134 回クリニカルパス大会 (済生会熊本病院)	WEB 有り
11 月 10・11 日 (金・土)	第 23 回 日本クリニカルパス学会 山根医師参加	埼玉
12 月 15 日 (金)	☆ 2023 年度第 3 回クリニカルパス委員会	
12 月ごろ	クリニカルパス講習会	
1 月 19 日 (金)	クリニカルパス講座・第 135 回クリニカルパス大会 (済生会熊本病院)	WEB 有り
3 月 15 日 (金)	☆ 2023 年度第 4 回クリニカルパス委員会	

## 【課 題】

- ・現状、使用されているパスの運用開始ができそうかを検討する必要がある。  
大腸ポリペクパスの運用をまずは軌道にのせる。  
そのために、地域看護科へ周知し予約の際にパスの用紙を渡してもらい双方向で保管するように、地域看護科師長や看護師への周知および積極運用を委員会メンバーから発信する。  
同時に、電子カルテ入れ替えの時期になるため、新たにパスの運用ができそうな事例を委員会開催時に検討する必要がある。  
次年度の活動は、実施しているポリペクパスのバリエーション検討を行い、パスの充実も図っていく必要がある。

# 統計





2023 年度（令和5年4月～令和6年3月）

診療圏別 診療科別 退院患者数

		全科	内科	消化器科	循環器科	呼吸器科	神経内科	脳神経外科	糖尿病	緩和ケア	リハビリテーション科
東近江	近江八幡市	770	20	28	87	62	114	157	54	148	100
	蒲生郡	43	0	1	2	3	4	11	2	13	7
	東近江市	192	2	4	6	8	23	42	3	80	24
大津	大津市	4	0	0	0	1	0	0	0	3	0
湖南	草津市	6	0	0	1	0	2	0	1	0	2
	栗東市	8	0	2	0	0	1	1	0	3	1
	守山市	16	0	1	4	3	1	0	1	3	3
	野洲市	35	2	1	9	1	4	3	0	14	1
甲賀	湖南市	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0
	甲賀市	7	0	0	0	0	2	2	0	3	0
湖東	彦根市	38	0	0	0	2	7	17	0	5	7
	愛知郡	15	0	0	0	1	1	1	1	10	1
	犬上郡	6	0	0	1	0	0	0	0	2	3
湖北	長浜市	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	米原市	4	0	0	0	0	0	1	0	3	0
他府県		12	0	0	1	0	1	2	0	7	1
総数		1159	24	37	111	81	161	237	62	296	150

2023 年度（令和5年4月～令和6年3月）

診療圏別 診療科別 退院患者数（近江八幡市・蒲生郡）

		全科	内科	消化器科	循環器科	呼吸器科	神経内科	脳神経外科	糖尿病	緩和ケア	リハビリテーション科
近江八幡市	八幡学区	182	4	7	23	17	25	27	9	43	27
	島学区	43	2	3	3	2	1	8	7	11	6
	岡山学区	69	1	2	3	9	14	15	6	7	12
	金田学区	108	1	2	17	7	16	24	5	21	15
	桐原学区	131	6	1	13	13	15	33	9	25	16
	馬淵学区	43	1	1	4	3	5	9	5	10	5
	北里学区	47	2	2	9	3	8	4	6	7	6
	武佐学区	40	3	5	9	4	4	6	1	6	2
	安土学区	75	0	2	4	4	17	23	6	10	9
	老蘇学区	14	0	0	0	0	5	1	0	6	2
近江八幡市 総数		752	20	25	85	62	110	150	54	146	100
蒲生郡	日野町	6	0	0	0	1	0	2	0	0	3
	竜王町	37	0	1	2	2	4	9	2	13	4
蒲生郡 総数		43	0	1	2	3	4	11	2	13	7
合計		795	20	26	87	65	114	161	56	159	107



## 2023年（令和5年度）年報

公益財団法人 近江兄弟社

ヴォーリズ記念病院  
訪問看護ステーション ヴォーリズ  
ホームヘルプステーション ヴォーリズ  
ヴォーリズ居宅介護支援事業所  
看護小規模多機能型居宅介護「友愛の家ヴォーリズ」  
就労移行支援事業所ワークステーションヴォーリズ

発行 令和6年11月

発行者 公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院  
院長 五月女 隆男

〒523-0805 滋賀県近江八幡市円山町 927-1

TEL 0570-01-5211

FAX (0748) 32-2152

